考古学財団

ISSN 1342-6834

研究紀要 16

かながわの考古学

2011.3

財団法人 かながわ考古学財団

研 究 紀 要 16

かながわの考古学

2011.3

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームが提出した共同研究と、個人研究の成果を掲載することができました。

縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世の各研究プロジェクトチームは、設定したテーマの継続研究を続けております。旧石器時代、奈良・平安時代については新たなテーマを掲げて研究を行い、それぞれの目標に沿って検討を進めています。

また個人研究では今までの知識と経験を生かし、さらなる考古学の深化につながる研究を行っています。個人の能力・技術の研鑽と発展にも大いに役立つものと期待しております。

今後とも、こうしたグループの共同研究と個人研究を進めることによって職員の資質向上が図られ、より充実した内容を発表することで、皆様にもその成果が還元できるようであれば幸いです。

本書における研究成果が埋蔵文化財調査や考古学研究に広く活用されると共に、郷土かながわの歴史を学ぶ一助となることを期待して、巻頭の言葉とさせていただきます。

2011年3月

財団法人　かながわ考古学財団
理事長　伊藤啓三

目　次

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）－Ｂ１層～Ｌ２層（１）－
旧石器時代研究プロジェクトチーム …… 1

神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅷ －後期前葉期　堀之内式土器文化期の様相　その２－
縄文時代研究プロジェクトチーム …… 13

神奈川県内出土の弥生金属器（３）－まとめ－
弥生時代研究プロジェクトチーム …… 25

考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡（８）－通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－
古墳時代研究プロジェクトチーム …… 37

神奈川県における古代の鉄（１）－生産関連遺物の集成－
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム …… 51

神奈川の中世城館（３）　中世研究プロジェクトチーム …… 65

近世民家の集成（８）　近世研究プロジェクトチーム …… 73

個人研究論文
人物埴輪にみる地域相の分析と工人集団の復元－関東地域の人物埴輪を中心に－
新山保和 …… 85

例　言

1．本書は、財団法人かながわ考古学財団および神奈川県教育庁教育部文化遺産課の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに共同研究を行った結果を掲載するものである。また財団法人かながわ考古学財団が研究助成を行った個人研究の成果を掲載する。

2．各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである（五十音順・◎はプロジェクトリーダー、○はサブリーダーを示す)。

・旧石器（先土器・岩宿）時代研究プロジェクトチーム

◎井関文明・○大塚健一・栗原伸好・砂田佳弘・鈴木次郎・長澤邦夫・畠中俊明・三瓶裕司・吉田政行・脇　幸生

・縄文時代研究プロジェクトチーム

阿部友寿・天野賢一・井辺一徳・小川岳人・近藤匡樹・◎松田光太郎・○宗像義輝

・弥生時代研究プロジェクトチーム

飯塚美保・◎池田　治・櫻井真貴・新開基史・戸羽康一・○渡辺　外

・古墳時代研究プロジェクトチーム

◎植山英史・○柏木善治・小西絵美・新山保和・林　雅恵・吉田映子

・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

◎加藤久美・齊藤真一・○相良英樹・高橋　香・中田　英

・中世研究プロジェクトチーム

◎松葉　崇・○宮坂淳一

・近世研究プロジェクトチーム

◎木村吉行・○澁谷正信

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

－Ｂ１層～Ｌ２層（１）－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当プロジェクトでは、2007年度から遺物分布の集成を行っており、前年度は2007・2008の両年度で行った漸移層～Ｌ１Ｈ層の遺物分布の集成について、石器集中を中心として漸移層～Ｌ１Ｓ層、Ｌ１Ｓ層～Ｂ０層、Ｂ０層～Ｌ１Ｈ層の３つにわけてまとめた。

今回からはＢ１層～Ｌ２層出土石器群の分布状態の集成を行うことにした。集成項目は2007・2008年度と同様、①遺跡№、②遺跡名、③出土層位、④文化層、⑤調査面積（㎡）、⑥各集中№、⑦分布範囲（○ｍ×○ｍ）、⑧石器点数、⑨分布密度（１㎡当たりの石器点数）、⑩分布状態、⑪器種組成、⑫石材組成を取り上げた。なお、今回は紙数の関係から集成の一部は次年度に掲載することにした。（井関）

№	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中№	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
99	早川天神森	B1上面	Ⅲ	3850	2	6×4	27	1.125	密	ナ6、掻3、F14、敲石4	黒25、凝2	
96	寺尾	B1直上	Ⅲ	1200	1	5×5	111	4.44	散漫	ナ19、削1、錐1、UF2、敲石1、F10、砕72、CR5	黒110、碧玉1、珪質岩1	礫群1基
96	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	1	2×3	35	5.83	散漫	RF2、折断5、F6、砕片22	黒頁30、凝5	礫群1基
96	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	2	5×5	176	7.04	密	ナ7、掻1、削1、彫1、RF3、石刃3、折断24、F58、砕片76、核2	黒頁146、凝26、黄玉4	
96	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	3	3×3	17	1.88	散漫	ナ9、削1、彫1、折断2、F3、砕片1、核1	黒頁16、黒1	礫群1基
96	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	4	3×3	17	1.88	散漫	ナ1、RF1、UF1、石刃1、折断1、F12	黒頁16、凝1	
96	寺尾	B1L～L2	Ⅳ	1200	5	2×5	26	2.6	散漫	ナ1、RF1、石刃1、折断1、F12、砕片9、核1	黒頁4、凝21、黒1	
101	吉岡B区2次	B0～L2	Ⅳ	41000	1	10×6	731	12.1	密	ナ21、掻2、削1、彫5、楔1、RF16、UF13、SP2、F658、CR7、磨り石5	凝636、安5、珪質岩1、珪頁12、硬頁8、黒28、チャート2、碧玉29、ホルン10	礫群1基
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	1	2.3×1.8	303	73.18	密	ナ2、楔1、RF1、敲石1、F127、砕片125、CR1、岩片1、不明13	黒232、チャ23、ガ黒安21、凝18	礫群1基
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	2	3.4×0.9	19	6.2	密	RF2、敲石1、F16	黒2、チャ7、ガ黒安3、凝6、砂1	
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	3	0.9×1.0	6	6.66	密	打撃痕ある礫1、礫器1、F5	黒1、ホルン4、ガ黒安1、凝1	礫群1基
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	4	6.5×1.3	65	7.69	密	ナ1、敲石3、F48、砕片6、CR2、不明4	凝53、安5、砂3、珪質頁岩1、黒1、ホルン2	
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	5	1.0×1.0	3	3	散漫	F2、CR1	ホルン3	
101	吉岡B区1次	Ⅷ～B1U	B1	28690	6	1.9×0.8	5	3.24	散漫	削1、UF2、F1、敲石1	ガ黒安1、硬頁1、凝2、斑レイ岩1	
102	吉岡C区	B1	B1下部	36000	1	3.1×2.5	129	16.65	密	ナ7、RF2、UF1、F88、砕片25、CR5、敲石1	凝77、ガ黒安51、砂岩1	
102	吉岡C区	B1	B1下部	36000	2	2.3×1.0	17	7.39	散漫	ナ2、F12、砕片3	凝10、ガ黒安7	
102	吉岡C区	B1	B1下部	36000	3	0.9×0.1	3	33.33	散漫	削2、CR1	凝1、珪質岩1、珪頁1	

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
103	吉岡D区	B1	B1下部	42810	1	3.2×2.7	782	90.51	密	有樋尖頭器原形1、有樋尖頭器1、削1、彫1、RF10、UF5、SP7、F114、砕片640	凝2、黒780	礫群2基
103	吉岡D区	B1	B1下部	42810	2	4.4×2.8	191	15.5	密	尖頭器2、台形様1、削1、RF6、UF3、SP4、F39、砕片134	ガ黒安1、黒190	礫群2基
103	吉岡D区	B1	B1下部	42810	3	5.2×5.0	78	3	散漫	有樋尖頭器1、ナ4、削2、彫1、RF7、UF1、F30、砕片32	凝41、ガ黒安1、黄玉1、珪質岩1、珪頁1、ホルン15、黒18	炭化物範囲1カ所
103	吉岡D区	B1	B1下部	42810	4	5.7×1.7	12	1.24	散漫	ナ1、削2、F8、砕片1	凝6、頁岩1、珪頁1、黒4	
102	吉岡C区	B1	B1上部	36000	1	3.0×1.4	19	4.52	散漫	尖頭器1、楔1、UF1、F7、砕片3、核6	凝1、ガ黒安4、珪質岩1、珪頁13	
152	大岳院	B1		12			300超			ナ、彫、掻、剥	黒、安、凝、頁	礫群、配石
224	堂坂	B1相当層					1			ナ	黒	
126	宮ヶ瀬中原	B1L	V	8900	1	2.0×3.0	93	15.50	密集	槍1、楔1、UF3、刃9、F35、C33、核6、礫1、叩4	ガ安46、硬細凝40、硬中凝1、安1、硬砂4、石英片岩1	配石2
126	宮ヶ瀬中原	B1L	V	8900	2	4.0×2.0	8	1.00	散漫	刃1、F6、礫1	ガ安5、硬細凝1、安1、硬砂1	配石1
126	宮ヶ瀬中原	B1L	V	8900	3	5.0×5.0	166	6.64	密集	ナ2、RF3、UF1、刃39、F60、C55、核3、叩3	ガ安149、硬細凝12、黒1、チ1、硬砂3	炉址1
126	宮ヶ瀬中原	B1L	V	8900	4	2.0×2.0	10	2.50	散漫	刃5、F4、C1	ガ安8、硬細凝1、黒1	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	1	2.0×2.0	5	1.25	散漫	C4、核1	軟細凝4、硬細凝1	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	2	2.0×1.0	4	2.00	散漫	F2、C2	軟細凝4	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	3	4.0×2.0	232	29.00	密集	ナ15、UF4、刃5、F66、C136、核6	硬細凝220、軟細凝12	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	4	3.0×3.0	49	5.44	散漫	RF1、UF2、刃2、F27、C17	硬細凝44、軟細凝5	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	5	3.0×2.5	5	0.67	散漫	刃1、F3、核1	軟細凝3、硬細凝2	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	6	2.0×1.0	102	51.00	密集	ナ1、RF1、UF3、F39、C54、核3	硬細凝77、軟細凝25	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	7	4.0×4.0	245	15.31	密集	ナ17、削1、彫1、錐1、RF1、UF1、刃5、F118、C94、核3、叩3	硬細凝179、軟細凝62、硬砂3、石閃1	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	8	4.0×2.0	17	2.13	散漫	掻1、UF2、F9、C4、叩1	軟細凝9、硬細凝6、硬砂2	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	9	4.0×4.0	9	0.56	散漫	刃1、F5、核2、叩1	軟細凝4、硬細凝4、安1	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	10	2.0×2.0	15	3.75	散漫	F11、C2、叩2	硬細凝7、軟細凝6、中凝2	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	11	4.0×4.0	237	14.81	密集	ナ9、削1、刃5、F51、C170、核1	軟細凝209、硬細凝27、チ1	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	12	2.0×2.0	19	4.75	散漫	ナ2、UF1、刃1、F9、C6	硬細凝19	炉址1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	13	3.0×2.0	2	0.33	散漫	F2	硬細凝2	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	14	3.0×2.0	35	5.83	散漫	ナ3、UF1、刃1、F21、C5、核3、叩1	硬細凝26、ガ安7、軟細凝1、中凝1	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	15	3.0×1.0	7	2.33	散漫	ナ1、UF2、刃1、F2、核1	硬細凝4、軟細凝2、チ1	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	16	2.0×2.0	33	8.25	一部密集	RF1、UF1、F26、C2、核3	硬細凝18、軟細凝14、黒1	配石1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	17	3.0×2.0	48	8.00	一部密集	ナ4、刃2、F24、C16、核2	硬細凝27、軟細凝21	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	18	3.0×3.0	18	2.00	散漫	UF2、刃7、F8、C1	硬細凝15、軟細凝3	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	19	3.0×2.0	14	2.33	散漫	ナ1、削1、UF1、刃1、F8、叩2	硬細凝10、軟細凝2、硬砂2	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	20	4.0×2.0	76	9.50	密集	ナ1、RF1、UF2、刃3、F49、C18、核1、叩1	硬細凝67、硬砂9	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	21	2.0×2.0	69	17.25	密集	ナ10、削2、刃1、F15、C41	硬細凝69	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	22	3.0×3.0	12	1.33	散漫	刃1、F9、核2	軟細凝10、硬細凝2	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	23	2.0×1.0	5	2.50	散漫	F5	硬細凝4、軟細凝1	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	24	3.0×3.0	24	2.67	散漫	ナ1、UF2、刃1、F11、C8、核1	硬細凝12、軟細凝3、黒8、チ1	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	25	3.0×2.0	40	6.67	散漫	ナ4、削1、RF1、刃5、F26、C3	硬細凝39、軟細凝1	礫群1
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	26	3.0×3.0	155	17.20	密集	ナ21、彫1、RF1、刃2、F81、C46、核3	硬細凝140、軟細凝8、黒7	礫群1、2集中に分離可能

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	27	2.0×2.0	15	3.75	散漫	掻１、F11、C２、核１	硬細凝13、硬細凝２	炉址１
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	28	3.0×2.0	134	22.33	一部密集	ナ11、RF２、UF２、刃２、F42、C72、核３	硬細凝108、軟細凝26	２集中に分離可能
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	29	4.5×2.0	87	9.67	一部密集	ナ５、削１、RF３、UF１、刃５、F52、C19、台１	硬細凝66、頁20、火礫凝１	配石１
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	30	—	3	—	点在	F２、C１	硬細凝３	配石１
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	31	2.0×2.0	46	33.25	やや散漫	掻１、RF１、UF１、刃４、F28、C４、核２、叩３、台２	硬細凝40、中凝２、安２、頁１、硬砂１	配石２
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	32	3.0×2.0	191	31.83	密集	ナ８、掻１、彫３、RF１、UF２、刃４、F124、C41、削片１、核６	硬細凝179、頁11、硬砂１	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	33	4.0×3.0	27	2.25	散漫	ナ２、掻１、UF３、刃４、F５、C12、	黒20、硬細凝４、軟細凝２、黄玉１	礫群１
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	34	4.0×3.0	88	7.33	密集	ナ５、削１、彫１、錐１、楔１、RF１、UF10、刃７、F15、C45、核１	黒76、硬細凝8、黄玉３、珪頁１	炉址１、配石１
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	35	—	3	—	点在	ナ２、C1	黒３	
127	宮ヶ瀬上原	B1L	V	6300	36	5.0×4.0	61	3.05	一部密集	ナ７、削１、彫１、楔１、RF１、UF２、F11、C36、核１	黒57、硬細凝３、軟細凝１	礫群１
128	宮ヶ瀬サザランケ	B1L	V	5900	1	3.0×1.0	9	3.00	散漫	刃２、F５、C２	硬細凝８、ガ安１	
128	宮ヶ瀬サザランケ	B1L	V	5900	2	3.0×2.0	321	53.50	密集	ナ18、削２、RF３、UF２、刃14、F124、C151、核７	黒119、凝頁59、硬細凝54、軟細凝34、頁30、チ25	
128	宮ヶ瀬サザランケ	B1L	V	5900	3	4.0×3.0	179	14.92	密集	ナ11、彫３、RF２、UF4、刃10、F91、C55、核３	硬細凝59、黒55、凝頁43、軟細凝15、黒頁４、チ２、頁１	配石１
128	宮ヶ瀬サザランケ		V	5900	4	2.0×2.0	77	19.25	密集	UF２、F59、C15、核１	軟細凝77	
207	北川表の上		LIS－LIH境	15000	１号ユニット	1.3×1.3	7	4.14	散漫コアは南東２mに位置	石核１、掻器１、剝片１、礫・砕礫４	珪質岩１、緑色凝灰岩１	
207	北川表の上		LIH－中BI	15000	２号ユニット	５×５	39	1.56	２ヶ所に分かれて集中	叩石１、UF３、RF４、円礫１、剝片30	安１、チ１、黒37	黒曜石は長野産 LIH～BI層は相模野台地のBB２層を含んだ上層に対比
207	北川表の上		LIH下－BI中	15000	３号ユニット	７×４	51	1.82	２ヶ所に分かれて集中 BI上層に多く分布	UF４、RF４、剝片30	黒51	BI層は相模野台地のBB２層を含んだ層に対比
207	北川表の上		LIH－BI	15000	４号ユニット	7.3×4.7	134	3.91	２ヶ所に分かれて集中 北東側規模大 BI中～上層中心	尖頭器１、UF11、RF６、U・RF３、ナイフもしくは尖頭器１、台石１、礫・礫片４、剝片107	黒128、チ２、細粒凝灰岩１、ガ黒安１、ホ１、砂１	BI層は相模野台地のBB２層を含んだ層に対比
207	北川表の上		LIH中－BI	15000	５号ユニット	4.0×3.7	10	1.48	２ヶ所に分かれて集中北東側規模大	掻器２、礫片２、UF１、削器１、剝片・チップ４	黒７、砂２	BI層は相模野台地のBB２層を含んだ層に対比
207	北川表の上		LIH上部	15000	７号ユニット	1.2×1.5	18	10	２ヶ所に分かれて集中北東側規模大	掻器１、剝片・チップ18	硬細凝５、頁５、チ３、ホ２	礫群142
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	1	2.8×2.4	29	4.30	散漫	ナ１、RF１、UF３、刃４、核４、F11、C：4、他１	硬細凝23、凝頁２、黒３、不明１	１号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	2	4.6×3.2	114	7.74	やや密集	ナ10、掻１、RF７、UF１、刃３、F26、C66	硬細凝74、凝頁36、黒１、不明３	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	3	3.6×3.6	85	6.58	やや密集	ナ２、彫１、UF４、刃11、F41、C26	硬細凝72、凝頁８、黒２、珪質岩１、輝１、不明１	２号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	4	4.8×3.5	44	2.62	散漫	ナ３、刃４、核１、F25、C11	硬細凝34、凝頁８、輝１、不明1	３号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	5	3.0×2.4	34	4.72	散漫	ナ３、RF１、UF１、刃１、核３、F７、C18	硬細凝29、凝頁５	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	6	3.2×2.4	22	2.86	散漫	ナ２、刃３、F８、C９	硬細凝20、凝頁１、黒１	４号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	7	1.6×1.5	3	1.25	散漫	刃1、F２	黒３	５号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	8	2.4×2.4	6	1.04	散漫	UF２、F２、C２	硬細凝３、凝頁１、黒１、不明１	６号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	9	1.4×1.2	14	8.33	やや密集	削１、F３、C10	凝頁９、黒４、硬細凝１	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	10	4.0×2.0	10	1.25	散漫	UF１、刃２、F５、C１、他１	硬細凝８、凝頁１、黒１	７号礫群

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	11	3.0×2.0	28	4.67	散漫	UF2、刃3、F11、C12	硬細凝23、凝頁1、黄玉1、黒1、不明2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	12	3.2×3.2	85	8.30	やや密集	ナ7、UF2、刃1、F28、C46	硬細凝60、凝頁18、黒4、珪質岩1、不明2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	13	3.2×2.0	19	2.97	散漫	ナ1、彫1、UF1、刃2、F9、C5	凝頁8、硬細凝6、黒3、黄玉1、不明1	12号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	14a	4.8×3.6	72	4.17	散漫	ナ15、RF5、UF2、刃10、F15、C25	黒43、ホ18、硬細凝6、凝頁4、不明1	11号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	14b	2.0×2.0	9	2.25	散漫	刃2、核1、F5、C1	硬細凝8、黒1	11号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	15	4.0×3.2	140	10.94	密集	ナ5、RF1、UF2、刃4、核4、F12、C112	硬細凝88、黒32、凝頁13、チ5、黄玉1、不明1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	16a	3.2×2.4	52	3.91	散漫	ナ6、削3、RF2、UF1、刃4、F11、C25	黒29、硬細凝19、凝頁1、珪頁1、ホ1、不明1	9号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	16b	3.6×3.2	9	0.78	非常に散漫	ナ3、削1、UF1、F2、C2	黒6、硬細凝3	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	17	6.0×4.8	114	3.96	散漫	ナ11、削2、RF1、UF1、刃4、核1、F10、C84	黒85、硬細凝23、チ3、ホ2、凝頁1、軟細凝1	10号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	18		－			－		8号礫群、出土石器なし
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	19		1		単独出土	刃1、	硬細凝1	13号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	20	8.0×2.0	5	0.31	非常に散漫	UF1、F4	黒3、ガ安1、瑪瑙1	37号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	21	3.6×2.8	12	1.19	散漫	ナ1、RF1、UF2、刃2、F3、C3	黒8、凝頁2、硬細凝1、不明1	35号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	22	4.0×3.6	67	4.65	散漫	ナ11、彫1、RF3、UF2、刃2、F14、C34	黒44、硬細凝14、凝頁4、チ1、珪頁1、不明3	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	23	4.4×1.6	13	1.85	散漫	ナ1、刃1、F8、C3	硬細凝6、黒5、ホ1、軟細凝1	36号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	24	5.2×4.0	295	14.18	密集	ナ12、削1、RF2、刃13、F31、C236	硬細凝294、凝頁1	33号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	25	7.6×3.6	71	2.60	散漫	ナ3、RF1、UF3、刃13、核1、F21、C29	硬細凝55、黒11、凝頁2、珪頁1、不明2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	26	4.4×4.0	117	6.65	やや散漫	ナ3、RF3、刃8、核1、F42、C60	硬細凝95、凝頁8、黒8、軟細凝3、珪頁1、黒頁1、不明1	14号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	27	3.6×3.0	129	11.94	密集	ナ11、RF4、UF1、刃10、核1、F13、C79	黒44、凝頁44、硬細凝38、黄玉2、不明1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	28a	3.2×2.0	37	5.78	やや散漫	ナ3、刃4、核2、F12、C16	硬細凝21、黒14、凝頁2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	28b	3.6×3.0	40	3.70	散漫	ナ7、RF3、UF4、刃6、核2、F9、C8、他1	黒20、硬細凝18、安1、不明1	15号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	28c	1.6×1.4	17	7.59	やや密集	ナ2、刃3、F4、C8	黒11、硬細凝4、凝頁1、不明1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	28d	2.4×1.4	6	1.79	散漫	ナ2、F3、C1	黒3、硬細凝3	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	29	3.6×2.4	21	2.43	散漫	ナ2、削1、刃2、核1、F3、C10、他2	硬細凝16、黒4、凝頁1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	30	4.0×2.7	23	2.13	散漫	ナ3、UF3、刃1、F5、C11	硬細凝16、黒4、凝頁2、ガ安1	17号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	31	4.0×2.5	56	5.60	やや散漫	ナ2、削1、UF2、刃4、核1、F10、C36	硬細凝34、ガ安14、黒4、凝頁2、不明1	16号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	32	5.6×5.0	36	1.29	散漫	ナ2、刃11、核1、F9、C13	硬細凝25、黒8、凝頁3	19号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	33	2.4×2.0	56	11.67	密集	刃4、F7、C45	硬細凝25、凝頁18、黒7、不明6	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	34	4.0×2.8	56	5.00	やや散漫	ナ7、RF1、UF5、刃3、核1、F19、C20	硬細凝35、黒11、凝頁10	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	35a	2.8×1.6	17	3.79	散漫	削1、彫1、RF2、UF1、刃1、F5、C6	硬細凝9、黄玉2、珪頁1、チ1、黒1、瑪瑙1、不明2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	35b	4.8×4.0	77	4.01	散漫	ナ3、削1、彫2、RF1、UF3、刃19、核1、F33、C14	硬細凝59、凝頁8、黄玉3、黒2、珪質岩1、チ1、流紋1、不明2	20号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	36	6.0×3.0	52	2.89	散漫	ナ11、削1、刃2、核1、F17、C20	硬細凝44、凝頁7、黒1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	37	6.4×4.4	165	5.86	やや散漫	ナ11、UF2、刃22、核1、F49、C80	硬細凝149、凝頁10、黒2、不明4	21号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	38	6.4×4.0	14	0.55	散漫	RF1、UF2、刃4、F7	硬細凝14	22号礫群
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	39	4.0×3.0	68	5.67	やや散漫	ナ5、削2、RF1、UF1、刃7、核1、F16、C35	黒33、硬細凝32、凝頁1、不明2	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	40a	3.2×2.0	16	2.50	散漫	ナ2、彫2、刃1、F6、C5	黒7、硬細凝6、凝頁1、珪頁1、黄玉1	
70	栗原中丸	B1半ば	V	12000	40b	5.6×3.2	31	1.73	散漫	ナ3、彫1、UF3、刃6、F15、C3	硬細凝16、黒6、軟細凝4、凝頁3、黄玉1、不明1	23号礫群

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	40ｃ	4.0×3.6	87	6.04	やや散漫	ナ１、彫１、UF３、刃14、核５、F20、C43	硬細凝43、黒17、軟細凝14、凝頁12、不明１	25号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	40ｄ	3.2×1.6	19	3.71	散漫	ナ１、掻１、RF１、UF１、刃３、F８、C４	黒11、硬細凝５、軟細凝１、黒頁１、不明１	24号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	41	4.6×3.0	82	5.94	やや散漫	ナ８、削１、RF１、UF２、刃２、核２、F16、C50	硬細凝42、凝頁18、凝７、黒６、軟細凝４、珪質岩２、赤玉１、不明２	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	42	3.6×3.2	291	25.26	密集	ナ７、削１、UF２、刃13、F24、C244	軟細凝141、硬細凝65、黒54、凝頁23、珪頁３、黄玉１、不明４	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	43	6.4×5.2	77	2.13	散漫	ナ１、UF２、刃９、核２、F34、C29	硬細凝60、黒８、軟細凝４、凝頁２、中凝１、不明２	26・27号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	44	6.0×2.4	13	0.90	非常に散漫	ナ１、刃３、F７、C２	硬細凝８、軟細凝２、硬頁２、黒１	34号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	45	4.8×4.0	134	6.98	やや散漫	ナ９、削１、彫２、RF１、UF３、刃17、核１、F25、C74、他１	硬細凝109、黒13、硬頁２、凝頁１、チ１、黄玉１、安１、不明６	28号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	46	4.2×3.6	212	14.02	密集	ナ２、彫１、UF２、刃32、核７、F54、C110、他４	硬細凝172、黒20、黄玉３、チ２、安２、凝頁２、不明11	29号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	47	6.0×2.4	21	1.46	散漫	ナ２、削１、UF１、刃１、核１、F９、C６	硬細凝13、黒３、硬頁１、チ１、頁１、黄玉１、不明１	30号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	48	4.5×4.0	16	0.89	非常に散漫	ナ２、彫１、刃３、F７、C３	硬細凝８、黒３、凝頁２、義要訣1、黄玉１、ホ１	31号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	49	4.4×2.4	24	2.27	散漫	尖１、ナ４、刃１、核１、F９、C８	硬細凝13、黒５、チ４、凝頁１、ガ安１	32号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	50	2.0×2.0	8	2.00	散漫	ナ１、刃１、F３、C３	硬細凝７、不明１	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	51	4.0×1.0	4	1.00	散漫	F２、C２	硬細凝３、不明１	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	52	1.2×1.2	2	1.00	散漫	C２	黒２	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	53	2.4×0.4	4	1.39	散漫	F４	硬細凝４	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	54	1.0×1.0	3	3.00	散漫	核１、F２	硬細凝３	
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	55	1.4×1.0	5	3.57	散漫	UF２、F２、C１	黒３、硬細凝２	18号礫群
70	栗原中丸	B１半ば	V	12000	56	1.2×1.2	3	2.08	散漫	刃１、F１、C１	硬細凝１、凝頁１、黒１	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	1	5×2.1	7	0.70	散漫	RF１、F６	－	１号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	2	6.5×1.4	10	1.09	散漫	RF１、F９	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	3	5.2×2.8	56	3.85	凸レンズ状	ナ９、RF６、UF６、F35	－	２号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	4	4×4	25	1.56	散漫	ナ５、RF２、核１、F17	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	5	5.8×5	146	5.03	密集	ナ９、RF８、UF３、核２、F123、不定形１	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	6	3×3	9	1.00	散漫	磨１、F８	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	7	3×1.6	25	5.20	中心集中	ノッチ１、RF２、F22	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	8	2×2	22	5.50	やや集中	ナ３、RF４、F15	－	３号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	9	1.8×1.8	4	1.23	散漫	F４	－	４号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	10	5.4×4.5	56	2.30	凸レンズ状	ナ３、尖６、RF５、UF２、核１、F38、礫器１	－	５号礫群
332	横山５丁目	L1H	Ⅱ	1098	11	2.5×1.7	5	1.18	散漫	ナ１、RF３、F１	－	７号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	12	4.2×3.3	6	0.43	散漫	ナ１、掻１、RF１、UF２、F１	－	８号礫群
332	横山５丁目	B１下層	Ⅱ	1098	13	1.8×1.3	8	3.42	散漫凸レンズ状	RF１、F７	－	９号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	14	3.9×1.2	55	11.75	凸レンズ状	ナ４、尖２、RF４、UF２、F43	－	10～12号礫群
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	15	5.8×4.4	10	0.39	やや散漫	ナ２、RF１、核２、F５	－	
332	横山５丁目	B１	Ⅱ	1098	16	7.2×3.8	47	1.72	やや集中	ナ２、尖５、掻１、削１、RF５、UF２、核１、F30	－	14号礫群
332	横山５丁目	B１下層～L２上層	Ⅱ	1098	17	4.2×4.2	41	2.32	凸レンズ状	ナ２、掻１、核１、RF４、UF１、F32	－	15号礫群
61	田名稲荷山B地区	B１下部～L２層	Ⅲ	347	－	4.5×3	4	0.30	散漫	ナ２、F２	黒２、玄１、チ１	礫群
359	当麻亀形	L２下層	Ⅲ		1	4.6×3.3	49	3.23	集中	ナ３、RF３、UF１、核３、F39	黒ほか	

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		1号	1.6×0.6	10	10.41	細長い分布	F10	チ10	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		2号	4.4×2.3	53	5.24	－	ナ12、RF1、核1、F39	チ1、凝31、砂20、他1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		3号	1.5×1.3	24	12.31	やや密度濃い	ナ1、F23	チ21、凝1、泥2	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		4号	2.5×1.5	12	3.20	やや密度薄い	尖1、ナ1、核2、F8、	黒8、チ1、凝2、砂1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		5号	4.4×2	17	1.93	－	ナ1、彫1、核3、F12	チ16、砂1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		6号	5.1×3.1	33	2.09	やや規模大	尖2、掻・削1、RF2、UF1、核3、F22	黒7、チ18、凝6、砂1、玄1	5号礫群
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		7号	1.8×1.4	12	4.76	小規模	UF1、核2、F9	チ11、玄1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		8号	4.1×2.4	29	2.95	やや規模大	ナ2、掻・削1、RF1、UF1、核2、F22	チ16、凝1、砂1、玄1、泥5、他5	6号礫群
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		9号	1.5×1.2	16	8.89	小規模	掻・削1、核14、F1	チ11、砂1、泥4	デポ的
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		10号	2.5×0.7	11	6.29	細長い分布	ナ1、掻・削1、UF1、F8	黒5、チ3、砂1、安1、泥1	8号礫群
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		11号	3.2×2	13	2.03	－	RF2、UF1、核3、叩1、F6	チ3、凝2、砂2、安3、玄3	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		12号	2.8×0.9	10	3.97	細長い分布	ナ1、掻・削1、UF1、核1、叩1、F4	チ2、凝1、砂1、安2、玄4	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		13号	6.3×4.8	111	3.67	やや規模大	尖2、ナ12、掻・削3、RF3、UF2、核8、叩1、F80	チ68、凝17、砂3、安9、玄2、泥11、他1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		14号	4.2×3.3	25	1.80	－	ナ4、RF1、UF1、核1、磨1、F17	チ2、凝18、玄2、泥2、他1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		15号	3.2×1.5	31	6.46	細長い分布	核2、F29	黒2、チ28、凝1	
216	下森鹿島	B1下部	Ⅲ		16号	2.4×1	9	4.29	部分的に密	ナ2、掻・削1、叩1、F5	チ3、凝5、砂1	
68	中村（C地区）	B1上～B2下	Ⅴ	約380	1	4.8×4.5	10	0.46		ナ2、削1、UF1、刃2、F4	黒3、玄5、チ1、粘1、	
68	中村（C地区）	L1S下～B1上	Ⅴ	約380	2	8.5×4.6	33	0.84	散在	ナ4、UF2、核1、刃3、F23	黒1、ホ1、玄20、チ10、不1	1号礫群
68	中村（C地区）	L1H下	Ⅴ	約380	3	3.0×1.5	2	0.44	小規模	刃2	玄1、細凝1	
68	中村（C地区）	B1中～L2	Ⅴ	約380	4	1.5×0.8	2	1.67	小規模	ナ1、F1	玄1、粘1	
68	中村（C地区）	L1S下～B2U下	Ⅴ	約380	5	7.5×4	155	5.17	一部集中	ナ26、掻1、UF9、核1、刃19、F99	黒5、粘49、チ33、鉄英2、細凝27、硬砂3、玄35	
68	中村（C地区）	B0下～L2	Ⅴ	約380	6	4.2×2.7	50	4.41	一部集中	ナ11、尖1、RF1、UF3、核1、刃10、F23	黒2、チ5、粘38、細凝4、硬砂1	
68	中村（C地区）	L1S下～L2下	Ⅴ	約380	7	6.7×4.6	122	3.96	集中	ナ12、掻2、UF8、核4、刃28、F68	黒2、チ44、粘29、細凝40、硬砂3、玄3、ホ1	
68	中村（C地区）	B1	Ⅴ	約380	8	1.5×1.5	5	2.22	散在	刃1、F4	チ1、粘4	
68	中村（C地区）	L1S下～B2L	Ⅴ	約380	9	6.5×5.5	202	5.65	楕円形	ナ11、掻1、UF7、叩1、核9、刃30、F143	黒6、チ148、細凝19、粘24、硬砂1、ホ2、玄2	
68	中村（C地区）	B0～B1	Ⅴ	約380	10	6.0×3.7	87	3.96	散在	尖2、ナ12、RF8、核1、刃10、F54	黒4、チ57、細凝7、粘13、ホ1、玄6	
68	中村（C地区）	L1H上～B1	Ⅴ	約380	11	3.5×2.2	19	2.47	散在	ナ1、UF4、核1、刃8、F5	チ4、粘4、細凝10、硬砂1	
68	中村（C地区）	L1S下～B2U	Ⅴ	約380	12	6.5×4.8	383	12.31	一部集中	尖2、ナ31、削2、掻1、RF4、UF7、核2、刃64、F270	黒10、チ166、粘22、細凝102、ホ70、玄4、硬砂2、鉄英1、不明1	
68	中村（C地区）	L1H下～B1上	Ⅴ	約380	13	3.0×1.0	5	1.67	散在	UF1、刃1、F3	黒1、チ1、細凝3	
68	中村（C地区）	L1H	Ⅴ	約380	14	－	3	－	小規模	ナ1、刃1、F1	黒2、細凝1	
68	中村（C地区）	L1H上～B1下	Ⅴ	約380	15	5.5×4.5	22	0.89	楕円形散在	ナ3、核3、刃3、F13	黒2、チ6、細凝12、粘1、玄1	
68	中村（C地区）	L1H中～L2下	Ⅴ	約380	16	2×1.2	7	2.92	小規模一部集中	ナ1、刃1、F5	細凝2、粘2、ホ2、硬砂1	
68	中村（C地区）	L1H中～L2上	Ⅴ	約380	17	4.4×3.0	31	1.59	散在	ナ3、RF2、UF3、核2、刃3、F8	黒1、チ13、細凝7、粘7、硬砂1、玄2	
68	中村（C地区）	L1H上～L2下	Ⅴ	約380	18	2.5×2.2	6	1.09	楕円形散在	F6	黒1、チ2、粘3	
68	中村（C地区）	L1H上～L2上	Ⅴ	約380	19	5.0×2.0	42	4.20	一部集中	ナ6、削1、RF1、UF2、核1、刃9、F22	黒1、チ9、粘24、細凝3、硬砂1、玄4	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
68	中村（C地区）	B０下～L２下	V	約380	20	4.7×3.0	20	1.42	長楕円形散在	RF１、UF１、叩１、刃４、F13	黒１、チ６、細凝３、粘１、玄４、凝角５	
68	中村（C地区）	B1上～L２下	V	約380	21	4.5×2.5	30	2.67	一部集中	ナ６、掻１、RF１、UF１、核１、刃３、F17	黒７、チ11、細凝５、粘４、ホ３	
68	中村（C地区）	L1H下～L2下	V	約380	22	3.0×3.0	44	4.89	円形散在	ナ２、彫１、刃２、F39	黒19、チ８、細凝５、粘12	
68	中村（D～F地区）	B０～L2	V	約600	1	4.0×4.0	42	2.63	散在	ナ７、楔１、UF５、刃７、F22	黒18、チ16、玄１、他	
68	中村（D～F地区）	L1H～B1	V	約600	2	3.0×1.0	9	3.00	小規模一部集中	ナ１、UF２、F６	黒６、チ２、玄１、他	１号礫群
68	中村（D～F地区）	L1H～B1	V	約600	3	4.5×3.0	21	1.56	楕円形散在	ナ３、掻１、UF1、刃２、F14	黒13、チ２、他	
68	中村（D～F地区）	B０～L２	V	約600	4	5.0×3.0	38	2.53	楕円形やや密	ナ４、掻１、UF２、刃５、F26	黒17、チ６、他	１号礫群
68	中村（D～F地区）	L1H～B1下	V	約600	5	5.0×2.5	23	1.84	楕円形一部密	ナ10、UF４、刃５、F４	黒19、他	
68	中村（D～F地区）	L1S～B1	V	約600	6	7.5×4.5	104	3.08	楕円形一部密	ナ12、掻２、RF１、UF６、核２、刃12、F69	黒76、チ９、硬砂２、他	
68	中村（D～F地区）	B０～L2	V	約600	7	5.0×3.5	65	3.71	楕円形一部密	ナ８、削１、UF8、核1、刃８、F39	黒61、他	
68	中村（D～F地区）	L1S～B1	V	約600	8	3.0×3.0	8	0.89	円形散在	掻１、UF１、刃２、F４	黒２、チ２、他	２号礫群
68	中村（D～F地区）	漸移層～L２	V	約600	9	5.5×3.5	33	1.71	楕円形散在	ナ１、掻１、UF４、核１、刃３、F23	黒７、チ14、礫２、他	３号礫群
68	中村（D～F地区）	L1S～B1下	V	約600	10	6.5×3.5	148	6.51	楕円形集中密	ナ21、掻１、RF１、UF７、磨１、核４、刃16、F97	黒10、チ119、硬砂２、他	３号礫群
68	中村（D～F地区）	L1H～B1	V	約600	11	2.5×2.0	7	1.40	小規模分散	ナ５、刃１、F１	黒３、硬砂１、他	
68	中村（D～F地区）	L1H～L2	V	約600	12	2.5×2.5	5	0.80	小規模散在	UF１、F４	－	４号礫群
68	中村（D～F地区）	B0下～B1	V	約600	13	4.0×2.0	10	1.25	楕円形散在	ナ１、核１、刃１、F７	黒１、チ１、粘２、ホ４、他	
68	中村（D～F地区）	B1	V	約600	14	1.5×1.5	3	1.34	円形小規模散在	彫１、F２	チ２、他	
68	中村（D～F地区）	L1S～L2	V	約600	15	5.0×3.7	25	1.35	楕円形一部密	UF３、核１、刃５、F16、	黒３、チ17、玄３、他	５・６号礫群
68	中村（D～F地区）	B1	V	約600	16	2.0×2.0	13	3.25	円形均一	刃１、F12	玄13	７号礫群
68	中村（D～F地区）	B０～L2	V	約600	17	3.5×3.5	26	2.12	円形やや密	尖２、RF２、核１、F21	粘24、他	８号礫群
68	中村（D～F地区）	L1H	V	約600	18	－	2	－		刃１、F１	－	
68	中村（D～F地区）	B０～B1	V	約600	19	4.0×3.5	32	2.29	楕円形一部集中	ナ２、掻１、UF２、核１、刃３、F23	黒３、チ20、粘３、他	
68	中村（D～F地区）	漸移層～B1	V	約600	20	5.5×4.5	56	2.26	楕円形一部集中	ナ８、核２、刃１、F45	黒12、チ５、粘24、他	10号礫群
68	中村（D～F地区）	L1H～B1	V	約600	21	3.3×2.0	23	3.48	楕円形一部密	ナ１、UF２、刃２、F18	黒15、粘１、他	
171	原口	B１相当	I		仮１	5×15	4179	55.72	密集帯状	ナ246、掻・削6、彫・削１、彫10、掻15、削25、錐２、楔10、RF92、UF48、礫１、核145、F3344、C226、他８	黒1045、チ７、メ41、黒頁18、硬頁３、碧23、粗凝２、中凝１、硬細凝2240、細安62、ガ安532、ホ73、流62、赤玉３、黄玉64、軟細凝２、珪１	詳細な記載なし
171	原口	B１相当	I		仮２	6.9×5.5	35	0.92	散漫	ナ２、掻１、核４、F28	細安１、ガ安３、硬細凝29、凝頁２	
171	原口	B１相当	I		仮３	9.2×7.7	1224	17.28	密集	ナ38、彫８、掻・削１、掻２、削６、楔２、刃１、核41、RF28、UF９、F1086、C２	黒39、メ５、チ６、細安２、ガ安80、流３、赤玉２、軟細凝13、珪１、砂１、硬細1060、硬頁１、珪頁２、黄玉４、碧２、中凝３	３号・４号礫群
171	原口	B１相当	I		仮４	11×6.4	492	6.99	密集	ナ11、掻・削４、掻２、削２、彫４、楔１、RF14、UF８、核19、F427	黒６、チ１、細安２、ガ安23、硬細454、硬頁１、珪頁１、凝頁１、中凝１、流１、軟細凝１	１号・２号礫群
171	原口	B１相当	I		仮５	1.2×1.2	8	5.56	小規模集中	RF１、F７	硬細凝８	
171	原口	B１相当	I		仮６	1.7×1.6	12	4.41	小規模集中	掻１、F11	硬細凝11、ガ安１	
360	真田北金目	B1下部	B1下部	277.2	S1	7.4×７	307	5.93	２カ所の小規模集中	ナ７、削１、掻１、RF３、核30、刃１、叩１、F263	黒、チ、細凝、火礫凝、ホ、角閃安、輝石安	礫集中R１

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
76	下鶴間甲一号	B1L～L2U	Ⅳ	900	1	7.0×5.0	88	2.51	集中	槍、ナ、削、RF、UF、剥片類、石刃、石刃状剥片、打面調整剥片、石核、叩石	安山岩、チ、凝灰岩、頁岩、泥岩、砂岩、ハンレイ岩	礫群2
76	下鶴間甲一号	B1L～L2U	Ⅳ	900	2	8.0×5.0	58	1.45		ナ2、石刃1、石刃状F1、UF、打面調整F3、F14、核3		
76	下鶴間甲一号	B1L～L2U	Ⅳ	900	3	5.0×4.0	19	0.95		ナ1、叩2、石刃2、UF1、12F、核1		
76	下鶴間甲一号	B1L～L2U	Ⅳ	900	4	5.0×3.0	27	1.80		ナ2、石刃4、石刃状F3、F15、核3	黒色頁8、ガラス質凝11	
88	深見諏訪山	B1U	Ⅲ	275	1A	4.0×2.0	8	1.00	散漫	刃1、F6、礫1	ガ安5、硬細凝1、安1、硬砂1	
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	1	3.5×2.1	30	4.08	散漫	槍1、ナ28、F1	黒30	礫群1
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	2	4.0×1.2	2	0.41	散漫	槍1、F1	黒2	礫群2
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	3	6.2×3.3	36	1.75	散漫	槍3、削2、揉錘器1、石刃2、石刃状F2、RF2、UF2、F22	黒36	礫群1
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	4	6.0×3.0	3	0.16		削2、F1	黒2	礫群1
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	5	1.5×1.5	24	10.60	密集	ナ21、F3	黒24	礫群2
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	6	1.8×1.8	6	1.85		ナ6	黒6	
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	7	5.7×3.1	19	1.07		石核3、ナ3、石刃1、F12、	黒15	
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	8	3.6×2.5	31	3.44	散漫	F31	黒31	
88	深見諏訪山	B1L	Ⅲ	275	9	3.0×2.8	16	1.90		ナ5、UF1、F10		
88	深見諏訪山	B1L～L2	Ⅳ	275	1	6.0×5.8	60	1.73		ナ26、尖9、掻1、削3、RF2、石刃16、石核3	黒9	
88	深見諏訪山	B1L～L2	Ⅳ	275	2	4.5×2.2				ナ、石刃		
88	深見諏訪山	B1L～L2	Ⅳ	275	3	3.6×3.5				F		
89	深見神社南	B1U	Ⅱ	275	1	1.8×1.1						炭化物集中のみ
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	1	2.2×1.2	40	15.15	集中	尖1、ピエス1、F38	玄1、チ1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	2	2.8×3.0	10	1.79	集中	尖1、F2、UF6、核1	黒1、チ3	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	3	3.0×2.8	25	2.28	集中	ナ1、尖1、F21、核2	チ1、玄3、粘2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	4	1.3×1.3	9	5.33	集中	UF1、F8	チ1、玄1、粘1	礫群3
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	5	4.0×3.6	18	1.25	散漫	尖1、削2、UF1、F13、核2	チ1、凝3	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	6	2.0×1.1	3	1.50	散漫	F3		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	7	6.0×4.4	337	12.77	密集	尖1、石刃7、UF2、F228	黒1、チ1、玄3、凝7	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	8	4.0×3.6	60	4.17	散漫	尖1、石刃1、細石刃1、UF1、F56	黒1、玄3、凝1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	9	4.5×4.4	355	17.42	密集	錐2、叩1、UF2、F346、核4	黒5、玄31、凝1、砂3	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	10	5.4×4.0	741	34.30	密集	尖15、ナ3、錐1、削1、石刃8、RF6、UF8、F677、核2	黒99、チ8、玄60、凝1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	11	4.6×3.4	461	29.48	集中	尖3、ナ1、削1、RF2、UF6、F445、核3	黒17、81、玄60、凝2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	12	4.0×0.4	4	2.50	散漫	F4		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	13	1.2×0.7	5	5.95	散漫	F5		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	14	1.6×0.4	5	7.81	散漫	UF1、F4	黒1、凝1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	15	0.5×0.5	3	12.00	散漫	F３		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	16	2.2×1.0	17	7.73	散漫	尖１、F15、核１	黒１、凝４	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	17	5.6×4.6	106	4.11	集中	尖３、石刃１、UF５、F96、核１	黒13、チ16	礫群２
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	18	3.2×1.6	10	1.95	散漫	UF１、F９	凝１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	19	7.8×5.6	616	14.10	密集	尖８、ナ１、削１、石刃１、RF４、UF16、F585	黒40、チ11、玄６、凝１、砂１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	20	4.4×3.6	345	21.78	密集	尖７、錐１、石刃２、RF３、UF２、F329、核１	黒５、チ１、玄14、凝２	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	21	4.4×3.4	20	1.34	散漫	尖２、ナ１、RF１、UF１、F15	黒４、凝２	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	22	5.6×4.0	102	4.55	散漫	尖３、RF３、F96	黒２、玄５	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	23	3.6×2.1	23	3.19	散漫	ナ１、F22	黒１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	24	1.6×0.8	5	3.91	散漫	ナ１、F４	玄１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	25	4.4×4.0	16	0.91	散漫	RF１、F15	凝１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	26	2.8×2.4	7	1.04	散漫	F７		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	27	5.0×2.4	19	1.58	散漫	尖２、F17	黒２、玄１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	28	5.4×3.4	2	0.11	散漫	UF１、F１	凝１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	29	2.4×1.1	5	2.08	散漫	F５		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	30	1.0×0.6	4	6.67	散漫	F４		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	31	5.6×4.4	184	7.47	密集	尖７、ナ２、RF２、UF２、F171	黒１、チ17、玄２、凝２、粘６、	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	32	1.1×0.3	3	9.09	散漫	尖１、ナ１、F１	黒１、玄１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	33	5.1×4.6	11	0.48	散漫	尖３、F８	玄３	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	34	5.0×3.6	11	0.61	散漫	F11		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	35	2.0×1.0	3	1.50	散漫	F３		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	36	2.4×2.0	9	1.88	散漫	尖３、F６	玄３	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	L1S～B1U	Ⅳ	11,736	37	3.6×2.0	13	1.81	散漫	尖１、石刃２、F10	玄３、砂１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	1	3.6×2.0	5	0.69	散漫	ナ１、UF２、F２	黒１、凝１、チ１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	2	2.0×1.0	5	2.50	散漫	F５		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	3	3.0×2.3	13	1.88	散漫	ナ１、F12	チ１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	4	3.5×2.4	5	0.60	散漫	F５		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	5	3.5×2.0	19	3.80	集中	F18、核１	玄、凝	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	6	3.6×3.4	70	5.72	集中	ナ５、削１、石刃１、ハンマー２、UF５、F53、石核３	チ12、凝４、粘５、砂２	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	7	3.2×2.0	4	0.63	散漫		黒１	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	8	2.0×1.8	9	2.50	散漫	削１	チ３	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	9	1.5×1.0	3	2.00	散漫			
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	10	6.0×4.0	8	0.33	散漫	ナ２、UF１	チ４	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	11	4.9×1.2	4	0.76	散漫	F４		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	Ⅴ	11,736	12	1.6×1.2	6	3.13	散漫	削１、F５	黒９、チ４	

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	13	0.5×0.5	2	8	散漫	F 2		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	14	2.0×1.2	7	2.92	散漫	UF 3、F 4	黒 2、粘 2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	15	5.2×4.8	112	4.49	集中	ナ 6、削 1、石刃 1、U 7 F、F77	黒 4、チ 8、凝 9	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	16	3.0×2.4	4	0.56	散漫	UF 3、F 4	黒 2、チ 2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	17	4.0×3.1	18	1.45	集中	16、尖 1、RF 2、U71、F13	黒 1、チ 1、凝 7	礫群 3
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	18	2.0×1.0	12	6	集中	F12		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	19	2.0×1.0	3	1.5	散漫	F 3		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	20	1.7×1.4	4	1.68	散漫	ナ 1、F 3	チ 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	21	5.1×4.7	91	3.8	集中	ナ 8、RF 1、UF 6、F75、核 1	黒 1、チ 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	22	5.4×3.8	81	3.95	集中	ナ 9、尖 1、ノッチ 1、RF 1、UF 4、F64、核 1	黒 5、チ21、粘 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	23	6.3×5.0	46	1.46	散漫	ナ 2、磨 1、ノッチ 1、RF 1、UF 5、F35	黒 3、チ10、安 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	24	5.0×3.3	13	0.79	散漫	ナ 8、RF 1、UF 6、F75、核 1	黒 2、チ 4、凝 1	礫群 1
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	25	2.4×2.0	5	1.04	散漫	UF 1、F 4	黒 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	26	4.4×3.2	9	0.64	散漫	削 1、UF 1、F 7	チ 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	27	5.9×3.8	33	1.47	集中	ナ 2、ノッチ 1、UF 4、F23、核 3	チ29	礫群 1
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	28	1.8×1.2	4	1.85	散漫	F 4		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	29	3.4×2.9	31	3.14	散漫	ナ 2、RF 1、石刃 2、F27	チ 7	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	30	5.8×4.0	75	3.23	集中	ナ10、RF1、UF5、F57、核 2	黒10、チ15、粘 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	31	4.7×3.8	200	11.20	密集	ナ 3、掻 1、ハンマー 1、石刃 1、RF 3、UF 1、F188、核 2	黒21、チ 1、砂 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	32	5.0×4.7	45	1.91	散漫	ナ7、尖 1、ノッチ 1、F36	黒 1、チ 7、凝 2、流 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	33	2.9×1.8	6	1.15	散漫	UF 2、F 3、核 3	黒 4、凝 2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	34	4.0×2.4	13	1.35	散漫	石刃 2、F10、核 1	チ 2	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	35	2.8×2.6	4	0.55	散漫	ナ 1、尖 1、UF 1、F 1	黒 3	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	36	4.8×4.2	41	2.03	散漫	ナ 1、F40	黒 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	37	4.1×3.6	32	2.17	散漫	ナ 6、石刃 2、F24	チ 7、凝 1	礫群 1
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	38	1.0×0.9	3	3.33	散漫	F 3		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	39	1.6×1.2	3	1.56	散漫	F 3		
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	40	2.5×2.2	20	3.64	散漫	尖 1、F19	玄 1	
81	月見野遺跡群 上野遺跡第一地点	B1L～L2	V	11,736	41	2.0×1.5	5	1.67	散漫	ナ 1、ノッチ 1、F 1、核2	チ 3、粘 1	
84	台山	B1U	Ⅲ	2,962	1	5.7×2.9	30	1.81		ナ 5、RF 1、F24	黒30、	礫群 1
84	台山	B1U	Ⅲ	2,962	2	5.0×4.3	106	4.93		ナ 1、RF 1、UF 2、F99、核 1	F 103、砂 1	
84	台山	B1U	Ⅲ	2,962	3	5.0×3.1	35	2.26		ナ 1、UF 1、F29、核 1	黒29、安 3	礫群 1
84	台山	B1U	Ⅲ	2,962	4	4.5×2.8	34	2.78		ナ 3、RF 3、F25	黒30	
84	台山	B1U	Ⅲ	2,962	5	5.7×4.2	52	2.10		ナ 5、スク 3、UF 1、F41、核 1	黒50、凝 1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布（その４）

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
85	長堀北	B1U	V	648	1	5.2×3.5	128	7.03		ピエス１、RF４、UF３、F113、核７		礫群１
85	長堀北	B1U	V	648	2	4.0×1.5	62	10.30		ナ３、ハンマー１、U2F、F54、核２		
85	長堀北	B1U	V	648	3	1.5×1.2	10	5.50		ナ１、UF２、F７		
85	長堀北	B1U	V	648	4	2.2×1.6	3	0.85		ナ２、F１		
85	長堀北	B1U	V	648	5	0.5×0.4	2	10.00		尖１、F１		
85	長堀北	B1U	V	648	6	1.2×1.0	3	2.50		F３		
85	長堀北	B1U	V	648	7	1.2×1.0	2	1.67		F２		
85	長堀北	B1U	V	648	8	4.0×1.0	2	0.50		ナ１、F１		
85	長堀北	B1U	V	648	9	1.0×0.8	2	2.50		F２		
85	長堀北	L2	VI	648	1	4.2×3.2	13	0.97		ナ２、F11		礫群１
85	長堀北	L2	VI	648	2	4.8×4.0	329	17.14		ナ１、彫１、RF５、UF１、F281、核１		礫群２
85	長堀北	L2	VI	648	3	4.5×4.2	47	2.48		ナ９、RF１、UF１、F35、核３		
85	長堀北	L2	VI	648	4	4.2×3.5	51	3.47		尖２、スク１、RF３、UF１、F44		
86	下鶴間長堀	B1U	II	414	1	4.0×4.0	135	8.43	集中	ナ３、尖９、UF６、F116、核１	黒122、チ、凝、粘	礫群２
86	下鶴間長堀	B1U	II	414	2	10.0×5.0	1,014	20.20	密集	ナ16、尖37、削10、RF13、UF１、F934、核３	黒913、チ、凝、頁岩	礫群１
86	下鶴間長堀	B1U	II	414	3	2.1×0.7	21	14.28	散漫	ナ１、F20	黒、チ、凝	
86	下鶴間長堀	B1U	II	414	4	11.8×5.9	202	2.90	集中	ナ４、尖10、削３、彫器様石器１、RF６、U2F、F176	チ101、黒、凝、頁	礫群１
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	1	4.5×3.5	856	29.20	密集	ナ58、叩１、石刃状F53、核７	粘505、凝248	礫群１
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	2	4.0×3.0	191	15.91	散漫	ナ16、尖１、彫１、削２、磨石１、叩１、核１	チ105	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	3	5.0×4.0	669	33.45	散漫	ナ47、彫２、錐２、掻１、削１、核３	粘419、凝111	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	4	2.5×2.0	81	16.20	散漫	ナ12、削１、F67、核１	凝34、硬砂28	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	5	5.0×4.0	182	9.10	散漫	ナ15、尖４、彫１、F160、核２	チ89、黒52、凝、粘	礫群３
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	6	5.0×4.5	215	9.55	散漫	ナ６、尖１、掻２、削１、F202、核３	粘96、凝79、黒、ホ、チ	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	7	2.5×2.0	367	73.40	密集	ナ14、彫１、F349、核３	凝240、粘124	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	8	3.0×2.5	325	43.30	密集	ナ15、F308、核２	チ159、凝143	礫群２
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	9	5.5×4.5	323	13.05	密集	ナ４、尖２、彫１、叩１、F316、核１	凝298、粘、黒	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	10	3.5×2.5	234	26.74	密集	ナ９、彫２、削１、F222	凝181、黒49、粘、チ	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	11	2.0×2.0	220	55.00	密集	ナ20、F199、核１	凝113、黒62、粘、安	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	12	6.0×4.0	363	15.12	散漫	ナ17、削１、F344、核１	凝196、チ93、頁35、黒、ホ、安、砂	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	13	4.0×4.0	449	28.06	密集	ナ13、尖１、ピエス１、F432、核２	凝313、粘48、黒43、チ、ホ、安	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	14	3.0×2.0	63	10.50	散漫	ナ３、ピエス１、F59	凝49、チ、黒、粘、安	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	15	3.0×2.5	97	12.93	散漫	ナ７、削２、F88、核２	チ49、ホ21、凝、黒、砂	
86	下鶴間長堀	B1L	III	414	16	2.0×2.0	24	6.00	密集	石刃状F４、F、砕片20	粘16	
86	下鶴間長堀	L2M	IV	414	1	3.0×2.6	55	7.05	密集	ナ２、削１、RF１、叩１、F50	黒53、安１、閃緑ヒン岩１	
87	長堀南	B1U	III	4,096	1	6.7×3.4	78	3.42	集中	ナ８、スク５、叩1、RF１、UF１、F62	黒74、凝１、砂２、凝灰質泥１	
87	長堀南	B1U	III	4,096	2	6.1×3.1	27	1.42	散漫	ナ２、RF１、F23、礫器１	黒23、砂２、泥１、ホ１	礫群５
87	長堀南	B1U	III	4,096	3	5.1×3.8	100	5.15	密集	ナ８、RF８、打面再生F１、F81、核１	黒89、チ３、凝４、安１、珪質泥１、ホ１	礫群５
87	長堀南	B1U	III	4,096	4	5.3×3.5	27	1.45	散漫	スク１、UF３、F23	黒20、チ７	
87	長堀南	B1U	III	4,096	5	1.9×1.8	13	3.80	散漫	F12、核１	チ５、凝３、泥２、ホ２	
87	長堀南	B1U	III	4,096	6	5.9×4.2	38	1.53	散漫	ナ１、スク２、彫１、打面再生F１、F32、核１	黒33、チ１、安１、凝灰岩質泥１、泥１、珪質泥１	
87	長堀南	B1U	III	4,096	7	7.5×6.2	39	0.84	散漫	ナ４、スク２、F30、核３	黒16、チ４、安８、凝灰岩質泥２、泥９	礫群５

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積（㎡）	各集中No.	分布範囲（m）	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成	石材組成	共伴遺構
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	8	4.1×2.2	21	2.44		尖1、叩1、UF1、F16、核2、不明1	黒2、チ3、砂1、泥2、珪質泥10、ホ4、不明1	礫群1
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	9	4.9×3.2	25	1.59		ナ3、F17、核1、不明4	黒15、凝6、不明4	礫群1
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	10	2.9×2.0	19	3.52		ナ2、UF1、F12、核1、不明3	黒13、凝2、泥質珪岩1、不明3	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	11	5.3×3.6	62	3.25		ナ7、錐1、叩1、RF1、UF2、F45、核4、不明1	黒37、チ11、凝灰岩泥2、安2、泥8、不明2	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	12	2.7×1.7	20	4.36		UF1、F18、核1	黒3、チ2、凝4、泥質珪岩3、ホ8	礫群1
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	13	4.2×2.9	24	1.97	散漫	ナ1、UF2、RF1、F20	チ10、泥質珪岩11、砂1、泥2	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	14	4.9×3.1	27	1.78		ナ1、叩1、F24、核1	黒4、チ2、砂1、凝5、凝灰岩質泥4、泥4、ホ7	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	15	9.0×4.5	74	1.83		ナ6、叩2、スク1、UF2、F54、核3、不明6	黒59、チ1、泥1、凝4、砂2、珪質泥1、不明6	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	16	4.9×2.3	13	1.15		叩1、F9、核1、不明2	黒2、チ5、砂1、泥3、不明2	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	17	3.7×3.1	28	2.44		ナ7、彫1、F20	黒28	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	18	2.2×1.6	13	3.87		ナ1、UF1、F11	黒13	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	19	2.7×2.2	87	14.65	密集	ナ6、RF1、打面再生F1、F67、核2、不明10	黒32、チ24、泥20、ホ1、不明10	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	20	5.8×4.7	47	1.72		ナ3、F39、不明5	黒33、チ2、泥2、珪質泥2、石英1、不明7	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	21	2.9×1.3	12	3.18		UF1、F9、核1、不明1	黒11、不明1	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	22	7.9×6.0	139	2.93		ナ7、スク2、磨石1、叩1、RF1、UF4、113F、核3、不明7	黒35、チ16、凝18、凝灰岩質泥21、安1、砂2、泥15、閃1、珪質泥14、ホ9、不明7	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	23	6.5×5.9	52	1.36		ナ3、スク1、錐1、ピエス1、RF1、打面再生F、F36	黒3、チ30、泥2、泥質珪3、ホ5、不明9	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	24	3.4×1.5	20	3.92		叩1、RF1、F17、不明1	黒2、チ16、安1、不明1	
87	長堀南	B1U	Ⅲ	4,096	25	1.8×1.0	18	10.00		叩1、RF2、F12、不明3	黒12、チ2、砂1、不明3	
93	上草柳第1地点	B1	Ⅱ	1,480	1	3.9×3.5	110	8.05	密集	ナ1、RF2、F107、	黒109、凝1	
92	上草柳第2地点	B1	Ⅰ	1,276	A	3.8×3.5	18	1.35	集中	ナ1、掻2、F10、砕片4、核1	黒13、チ2、安2、頁1	
92	上草柳第2地点	B1	Ⅰ	1,276	B	5.4×3.8	19	20.52	密集	ナ6、F10、砕片3	黒3、チ13、玄1、頁1、凝1	
92	上草柳第2地点	B1	Ⅰ	1,276	C	3.8×1.4	7	5.32	集中			
92	上草柳第2地点	B2LU	Ⅱ	1,276	A	6.3×5.6	546	15.47	密集	ナ7、角9、スク5、RF1、UF2、F320、砕片197、核3、不明2	黒540、チ1、玄1、頁岩4	礫群1
92	上草柳第2地点	B2LU	Ⅱ	1,276	B	8.3×7.5	20	0.32	散漫	ナ2、角1、F13、砕片3、核1	黒19、不明1	
91	上草柳第3地点西	B1U	Ⅲ	1,280	1	4.2×1.9	12	1.56	集中	ナ5、槍1、掻1、F5	チ11、安1	
91	上草柳第3地点西	B1M	Ⅳ	1,280	1	1.3×0.5	4	6.15	散漫	F4	チ4	
95	福田札ノ辻	L1S～L2	Ⅱ	144	1	3.5×1.9	71	10.68	集中	ナ3、尖1、UF1、F65、核1	黒58、凝13	礫群1
95	福田札ノ辻	L1S～L2	Ⅱ	144	2	2.5×2.2	39	7.09		ナ7、スク1、F30、核1	黒23、凝15、玄1	礫群1
95	福田札ノ辻	B1L	Ⅲ	144	1	2.5×0.8	7	3.50	集中	F4、核3	黒4、玄1、チ1	
95	福田札ノ辻	L2～B2L(B2L)	Ⅴ	144	1	1.5×1.3	8	4.10		F7、核1	黒5、チャ1、玄2	
95	福田札ノ辻	L2～B2L(B2L)	Ⅴ	144	2	2.6×1.9	9	1.82		ナ2、UF1、F6	黒3、凝1、玄5	礫群2
95	福田札ノ辻	L2～B2L(B2L)	Ⅴ	144	3	1.9×0.8	4	2.63		F3、核1	黒4	礫群1
95	福田札ノ辻	L2～B2L(B2L)	Ⅴ	144	4	3.6×3.8	11	1.09		ナ3、F7、核1	黒1、チ1、凝1、玄8	礫群1

※1　器種組成（ナ：ナイフ形石器・槍：槍先形尖頭器・掻：掻器・削：削器・彫：彫器・楔：楔形石器・叩：叩石・打斧：打製石斧・磨斧：磨製石斧・台：台石・核：石核・刃：刃器・MB：細石刃・MC：細石刃核・UF：使用痕ある剥片・RF：調整痕ある剥片・錐：揉錐器・ピエス：ピエスエスキーユ・スク：スクレイパー・切断：切断剥片

※2　石　　材（ガ安：ガラス質黒色安山岩・安：安山岩・角閃安：角閃石安山岩・粘：粘板岩・黒：黒耀石・チ：チャート・砂：砂岩・頁：頁岩・凝頁：凝灰質頁岩・凝：凝灰岩・硬細凝：硬質細粒凝灰岩・珪凝：珪質凝灰岩・火礫凝：火山礫凝灰岩・溶結凝：溶結凝灰岩・石閃：石英閃緑岩・花閃：花崗閃緑岩・泥：泥岩・ホ：ホルンフェルス・珪泥：珪質泥岩・硬砂：硬質砂岩・斑：斑糲岩）

神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅷ

－後期前葉期　堀之内式土器文化期の様相　その２－

－主要遺跡の一括出土事例－

縄文時代研究プロジェクトチーム

Ⅰ．はじめに

本プロジェクトでは昨年度から後期前葉期･堀之内式土器文化期の様相をめぐる研究を開始した。昨年度は報告書を中心とした文献収集、基礎的なデーターベース作成を行い、研究略史、地名表・参考文献を『研究紀要15』に掲載した。２年次目の今年度は資料のデーターシートを作成すると共に、住居址検出遺跡を中心とした主要遺跡の集成化と、来年度以降編年案を構築するため、短期間に形成されたと考えられる一括出土事例（層位的出土事例を含む）の検討を行った。本号では一括出土事例の中から、良好な一括出土事例12例を選んで掲載した。なお挿図の縮尺は住居址が1/120、土器が1/10を基本にしている。本文中の遺構名は報告書に準拠した。土器の脇の括弧内の番号は報告書の図番号を示す。土器の記述は一般的に用いられている用語を使用することにし、磨消縄文という用語には充填縄文を含むものとする。　（松田光太郎）

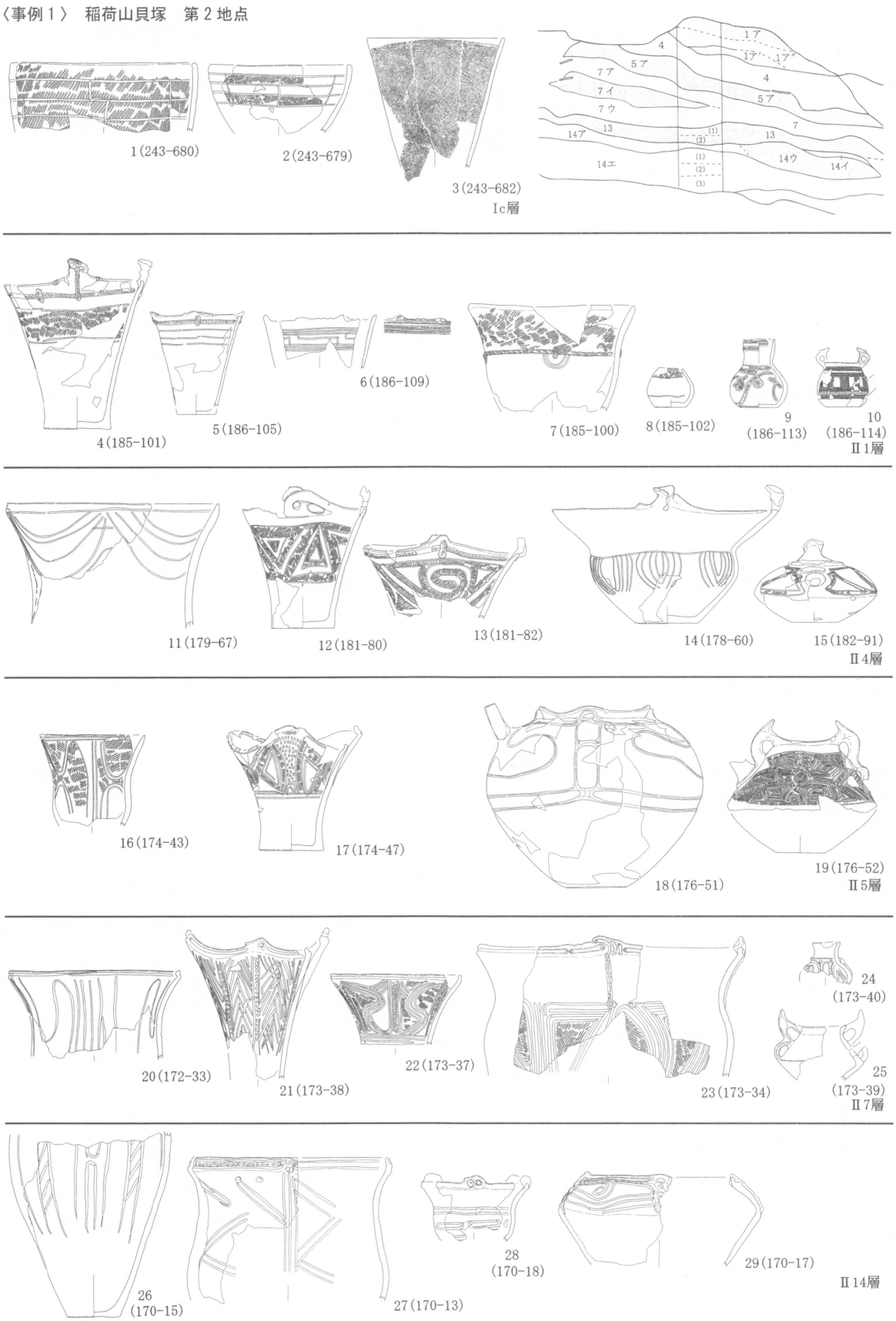
Ⅱ．一括出土事例

〈事例１〉　稲荷山貝塚　第２地点（第１図）

稲荷山貝塚は、横浜市南区山谷に所在する遺跡で、台地上に５ヶ所の貝層が存在していた。1930年の池田健夫氏らの調査で貝層の上下において出土土器に違いがあることが指摘されていたが、2000年のかながわ考古学財団の第１・２地点の発掘調査でも、貝層の層位によって土器の様相に違いが見られた。ここでは第２地点の出土事例を紹介する。第２地点では貝層（Ⅱ層）は14層（Ⅱ１～Ⅱ14層）に細分され、貝層上にＩｃ層（黒色土層）が存在していた。報告書では貝層中では504点、Ｉｃ層では65点の土器が掲載されている。貝層全層位から土器は出土しているが、時期的にまとまりのある層からの出土遺物を抽出して第１図に示した。貝層は原則的に数字の大きい層ほど下位に存在した。Ⅱ14～Ⅱ７層は堀之内1式土器、Ⅱ６～Ⅱ２層は堀之内２式土器、Ⅱ１層は堀之内２式・加曽利Ｂ１式土器、Ｉｃ層は加曽利Ｂ１式土器を主に出土した。

第１図26～29はⅡ14層出土土器である。26は縦位の曲線的沈線文様をもつ深鉢、27は直線的沈線文様をもつ深鉢形土器、28は頸部を無文とする鉢形土器、29は口縁が内湾する土器である。20～25はⅡ７層出土土器である。20～22は深鉢形土器で、20は縦位の曲線的沈線文様をもつもの、21は直線的沈線文様をもつもの、22は沈線文と縄文をもつものである。23は頸部を無文とする鉢形土器、24は壺形土器、25は注口土器である。16～19はⅡ５層出土土器である。16は縦位の曲線的沈線文様をもつ深鉢、17は磨消縄文をもつ深鉢形土器、18は無頸壺のような器形をなし注口をもつもの、19は注口土器である。11～15はⅡ４層出土土器である。11～13は深鉢形土器で、11は縦位の曲線的沈線文様、12・13は磨消縄文をもっている。14は頸部を無文とする鉢形土器、15は注口土器である。４～10はⅡ１層出土土器である。４～６は深鉢形土器で、４は横位帯状の磨消縄文をもっている。７は頸部を無文とする鉢形土器の流れをくむもの、８は口縁が内湾するもの、９は壺形、10は注口土器である。１～３はＩｃ層出土の加曽利Ｂ１式土器。　（松田光太郎）

〈事例１〉　稲荷山貝塚　第２地点



第１図　一括出土事例（１）

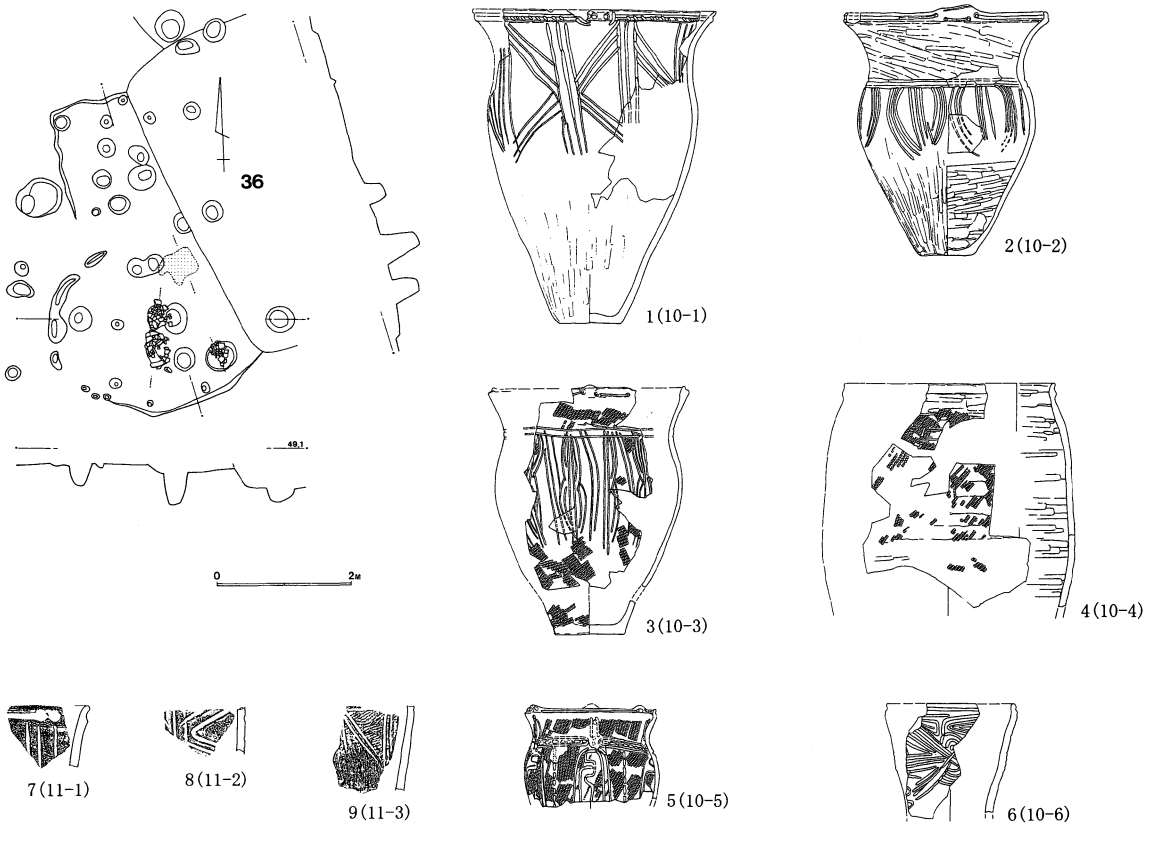
〈事例２〉　岡上丸山遺跡　第Ｊ３号竪穴住居址（第２図）

岡上丸山遺跡は、川崎市麻生区岡上字丸山675番地に所在する。鶴見川の支流によって開析された支丘の舌状台地のつけね部に立地し、標高は約50～60ｍを測る。昭和59年に確認調査、60年に本格調査が実施され、一例ではあるが竪穴住居址が約25軒検出されており、中期末～後期前葉の集落址が確認されている。

第Ｊ３号竪穴住居址は調査区の北西端、Ｂ・Ｃ－４・５グリッドに位置し、住居址の東側1/3程は古墳時代の第36号竪穴住居址に切られており、遺存状態はよくない。炉が住居址のほぼ中央部に配置され、柄鏡形の形態を呈するようであるが、遺存状態のためか不明であると報告されている。遺物は土器が多量に出土しているが、石器は皆無である。報告書には１～９の堀之内1式に帰属する土器が掲載されており、出土位置はいずれも床面に近いものと思われる。１は炉の南西部から出土しており、２と互いの底部を向き合わせるような状況を呈して出土している。頸部がわずかにくびれる深鉢形土器であり、懸垂文と斜位の沈線で文様を描いている。２は頸部に無文帯をもつ深鉢形土器である。胴部に２条の沈線が横位に巡り、その直下に３条１単位の懸垂文、弧状文の沈線で文様を描いている。３は住居址南壁付近から出土した深鉢形土器である。縦位、弧状の沈線で文様を描き、短い単位の縄文を施している。４は炉の南東部から出土した樽形を呈する深鉢形土器である。縄文がほぼ器面全体に施されている。５は頸部がわずかにくびれる小形の深鉢形土器である。縄文を地文とし沈線と刺突により文様を描いている。６は小型の深鉢形土器である。横・斜位、弧状の沈線により文様が描かれている。７～９は口縁部、胴部の破片資料であり、主に沈線により文様が描かれている。

（近藤匡樹）

〈事例２〉　岡上丸山遺跡　第Ｊ３号竪穴住居址

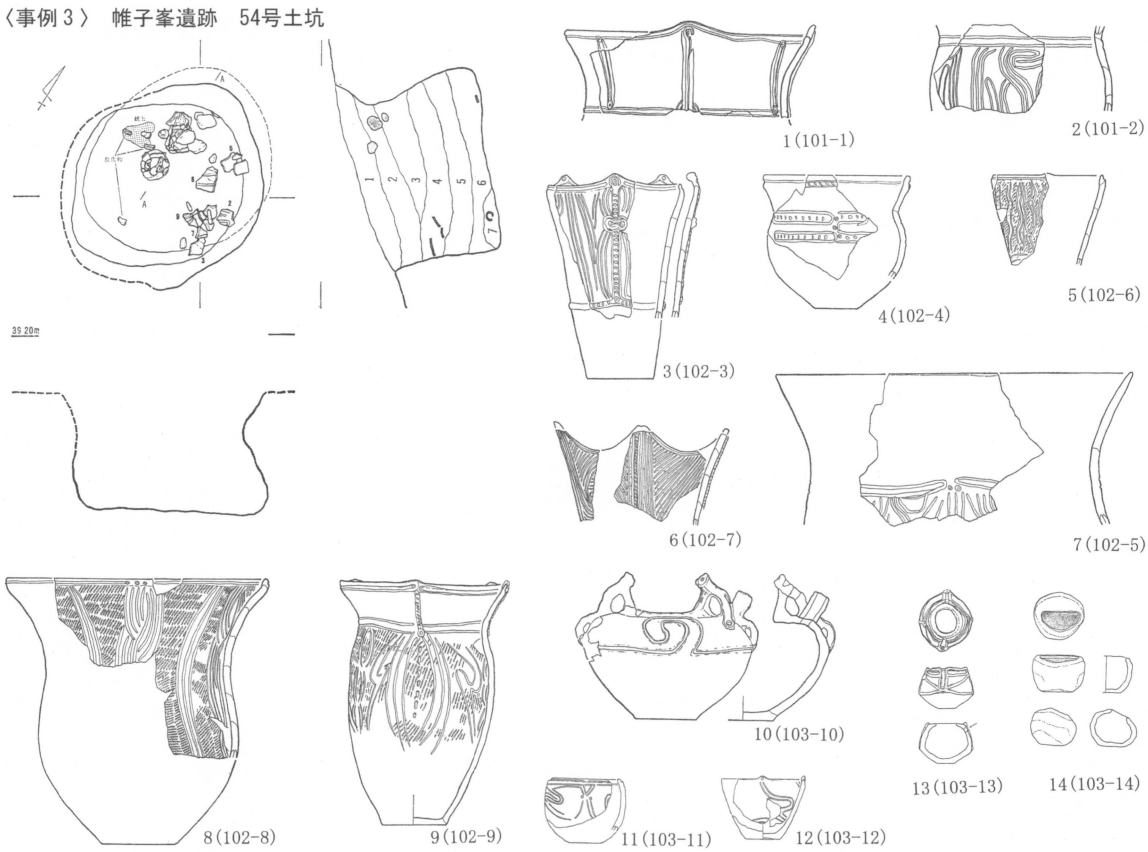


第２図　一括出土事例（２）

〈事例３〉　帷子峯遺跡　54号土坑（第３図）

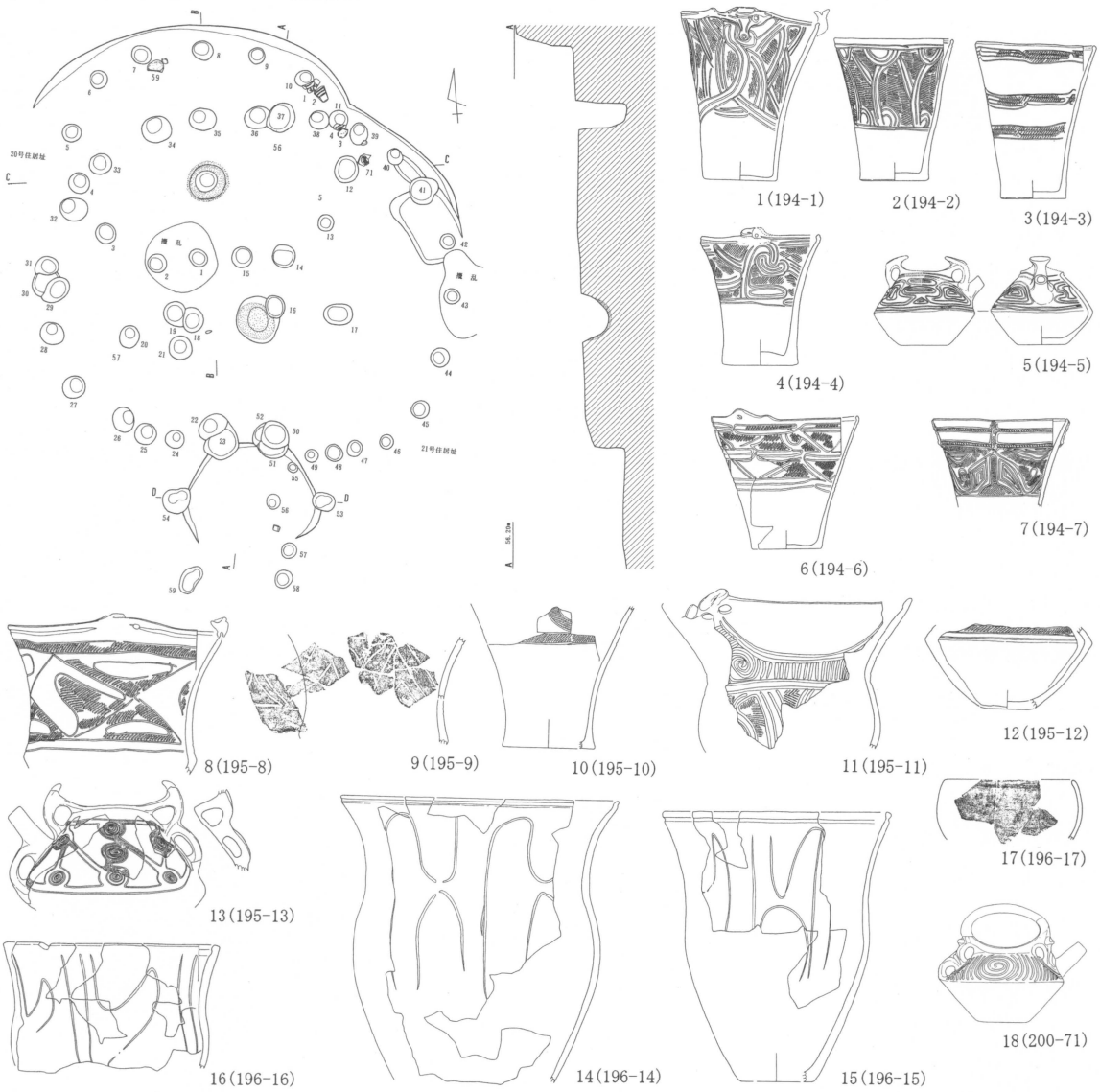
帷子峯遺跡は、横浜市保土ヶ谷区に所在する遺跡で、多摩丘陵の一部、帷子川に臨んだ通称常盤台台地の東南端に位置し、標高35～50ｍを測る。昭和56・57年にかけ断続的に実施された発掘調査により、中期後葉から後期前葉の集落が検出された。

54号土坑は台地南西側斜面に広がる土器捨て場で検出された。底径157cm、深さ126cmを測る比較的大形の土坑である。壁面はオーバーハングし、フラスコ状を呈する。土器140点、石器５点が出土し、報告書中には１～14の土器が掲載されている。土器は覆土中位から出土する土器１～８と土坑底面から出土した９～12に分かれる。底面から出土した９～12は完形ないし略完形で、注口土器と小形土器を含み注目される。１は深鉢の口縁部で緩やかな波状を呈し、沈線と隆帯を垂下させる。２は深鉢の胴部破片。３条の平行沈線で渦巻き文等の文様を描く。３・６・７は口縁に向かって直線的に開く深鉢である。３は３単位の波状口縁で、波頂部から刻み目を持った隆帯を垂下させ、間に沈線で文様を描く。５は縄文の地文上へ蛇行する沈線を垂下させるもの。６も波状口縁で、波頂部から刻み目を持った隆帯を垂下させる。また沈線は密に施され器面を埋めている。４は口径に比較し器高の低い鉢で、沈線で描いた楕円形の区画文を横位に施す。７～９はキャリパー形の深鉢。７は沈線による楕円形区画により口縁部と胴部を画する。８は３条の沈線で文様を描き、間を縄文で埋めたもの。９は沈線で口縁部と胴部を画し、胴部に沈線と縄文を施す。10は注口土器である。注口の上下に把手をつけ、隆線で文様を描く。11～14はミニチュア土器。11・12は沈線で文様を描くもの。13は２対の小把手を有する算盤玉状の土器である。14は無文であるが、内外面が赤彩される。　（小川岳人）



第３図　一括出土事例（３）

〈事例４〉　原出口遺跡　20・21号住居址



第４図　一括出土事例（４）

〈事例４〉　原出口遺跡　20・21号住居址（第４図）

原出口遺跡は横浜市都築区川和台に所在し、多摩丘陵に位置する遺跡である。集落は後期の住居址・掘立柱建物・ピット群・墓廣などで構成され、標高55～60mの台地に密度高く分布している。時期の主体は堀之内1式後半から堀之内２式前半期である。20・21号住居址は重複する住居で、焼失住居の20住居が新しい。緩やかに傾斜する南斜面の集落南端に構築されている。壁は奥壁の一部のみで、20号住居址床面には焼土がやや厚く堆積する。20号住居址の遺物は比較的豊富な量が認められ、復元資料17点・破片資料37点・土製品2点・石器などである。１～５は床面、６～17は覆土である。朝顔形深鉢１～４・６・７・10、深鉢８・９・11、注口土器12・13、沈線文のみで文様が描かれる深鉢形土器14～16などがある。

21号住居址の出土遺物は復元資料１点・破片資料21点・石器・石製品などである。18は算盤玉状の器形を呈する注口土器である。

（天野賢一）

〈事例５〉　小丸遺跡　29号住居址（第５図）

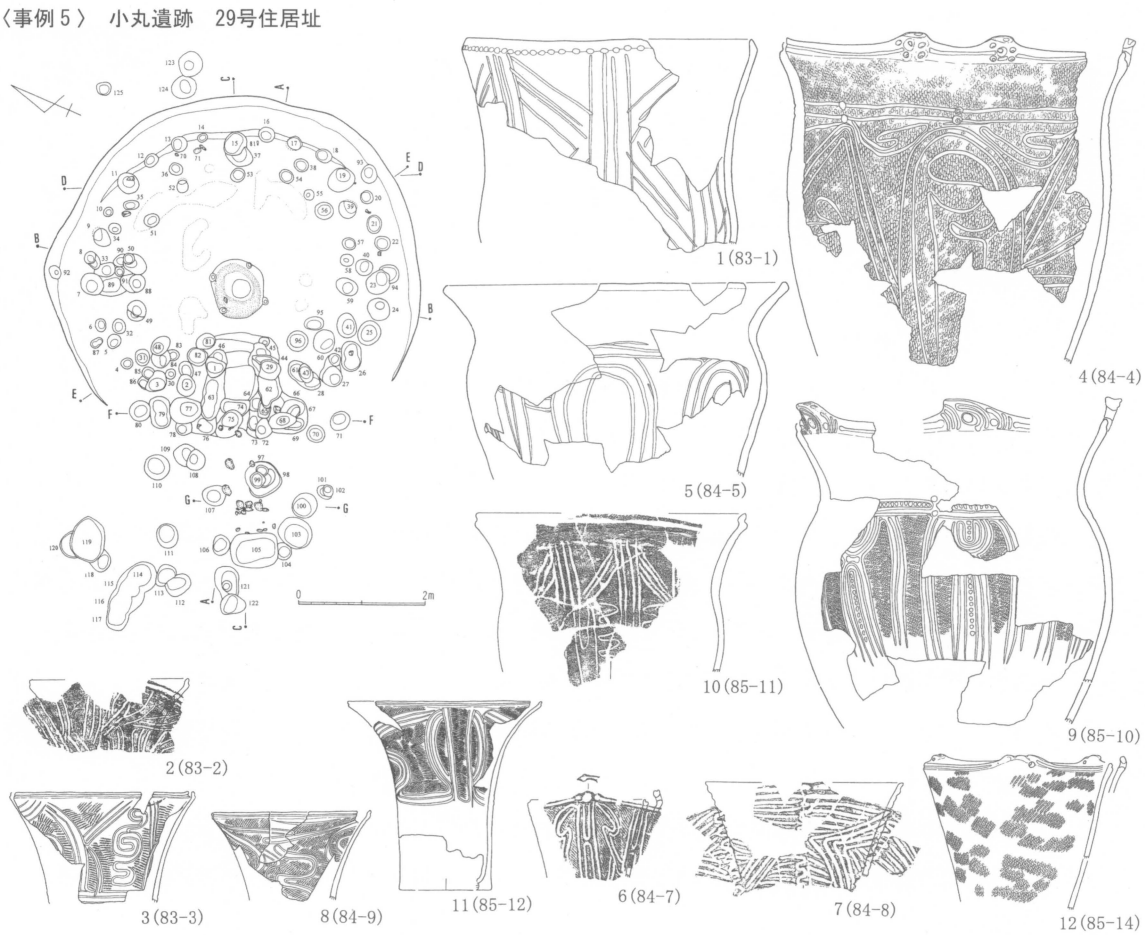
本遺跡は港北ニュータウン地域の西部、横浜市都筑区大丸11付近に所在する。標高53～63mに位置し、第１次調査が昭和50年～51年、第２次調査が昭和57年に行われ、遺跡全体に縄文時代、特に後期前葉から中葉にかけての住居址を中心とする遺構が検出された。

本住居は西側の谷に向かう傾斜地で、標高58mに位置する。奥壁上と主体部入口では１mを超える標高差があるため、入口部分から張り出し部では掘り込みの検出が出来なかった。柱穴の配列から３軒の重複があり、２回の建て替えを考えている。また床面が被熱していたことから火災にあったと報告されている。出土遺物は床直上ではほとんど見られず、大半は覆土からの発見で、住居に伴うものというよりは、周辺に形成された包含層の遺物が本址に流れ込んだと判断している。大半は堀之内１式の後半から終末にかけてのものである。報告者は住居の特徴を加味して、構築時期も出土した土器と同時期と推定している。

報告書には出土遺物は土器を50点、石器を45点掲示している。報告されている土器は、土器蓋２点・土製品１点を除き、すべて深鉢である。頸部がくびれるもの（１・４・５・10・11）、口縁部が外反するもの（２・３・８・12）、底部から直立するもの（７・８・12）が見られる。また体部の施文は、懸垂文や蛇行文といった沈線のみのもの（１・２・５・７・10）、縄文と沈線を組み合わせたもの（３・４・６・８・９・11）、縄文のみのもの（12）が見られる。この紙面に取り上げなかった土器も沈線を主体とするものか、縄文と沈線と組み合わせたものである。

（宗像義輝）

〈事例５〉　小丸遺跡　29号住居址

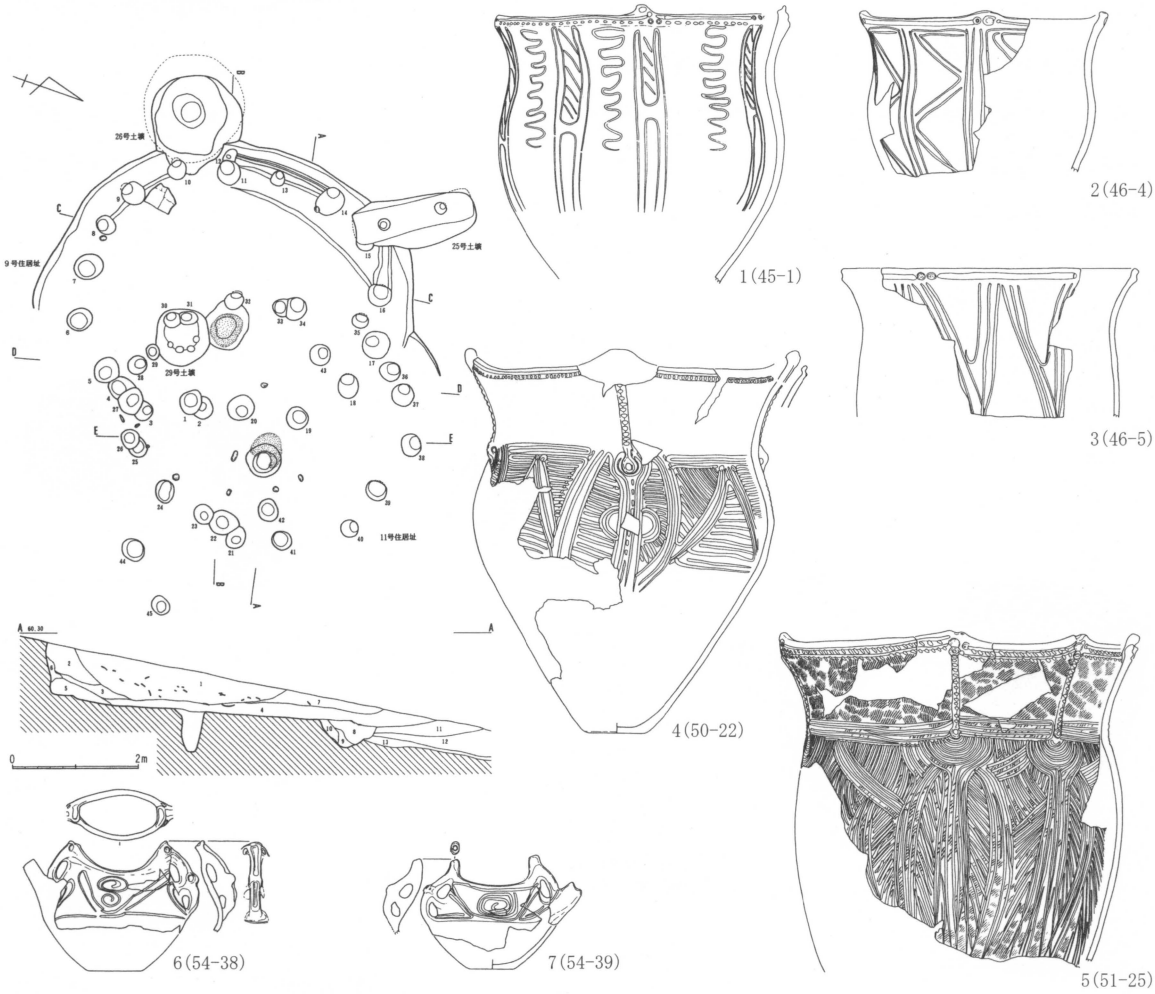


第５図　一括出土事例（５）

〈事例６〉　華蔵台南遺跡　９号住居址（第６図）

本遺跡は港北ニュータウン地域の北西部、都筑区荏田南一丁目20付近の多摩丘陵東端にあり、堀之内１式を主体とする後期の集落址である。９号住居址に堀之内１式の良好な一括出土事例がある。本住居址は標高60m付近の東に下る傾斜地にあり、東半部に11号住居址と切り合いをもちこれを切っている。９号住居址は主軸4.5mほど、副軸5.6mほどの楕円を呈する主体部のみが発見され、張り出し部の検出はない。９号住居址覆土１層下層から２層中に大量の土器片が投棄された。報告書に掲載された復元土器は堀之内１式に帰属する39点、出土した土器片には堀之内1式初頭の土器や主体となる土器群とは時間的間隙をもつ堀之内２式土器も出土している。１は唯一床面で発見された深鉢形土器で、「H」状文と蛇行文を交互に配する。２以下はすべて覆土中からで、２には懸垂文とそれを連結する斜行文、３も２に類するもので「y」字形をなすもの、他に懸垂文に弧状文で取り囲むもの、懸垂文と蛇行文を配するものなどがあり、これらが本地域の主体をなすとされる。４、５は頸部以下の胴部を主文様域とするもので、懸垂文と、渦巻文が多用される。これに比べ丈の短い鉢形土器や渦巻文の施された注口土器（６、７）もある。図示しえないが朝顔形深鉢１点、粗製深鉢（複数沈線、指頭による条痕文、縄文）、浅鉢、壺形土器、袖珍壺、が出土している。報告者によると、これら主体となる土器は堀之内１式の終末に位置づけられる。　（阿部友寿）

〈事例６〉華蔵台南遺跡　９号住居址



第６図　一括出土事例（６）

〈事例７〉　池端･椿山遺跡　Ｊ９号竪穴住居址（第７図）

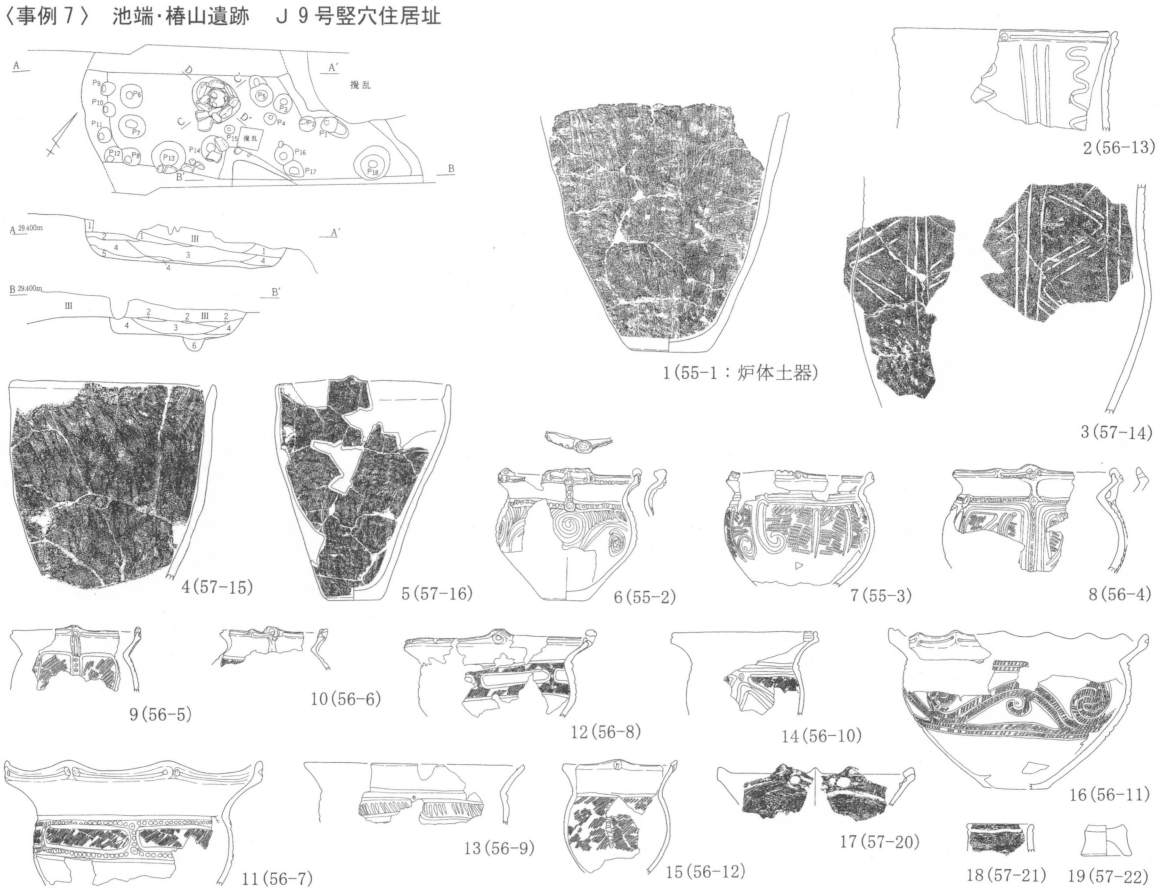
池端・椿山遺跡は、伊勢原市池端に所在する遺跡で、標高30m程の伊勢原台地北縁に位置している。平成14年に実施された発掘調査により、中期中葉・後葉、後期前葉～中葉期の集落の存在が明らかになった。

Ｊ９号竪穴住居址は、いわゆる柄鏡形の形態を採り、石囲埋甕炉が付されている。本址埋没後にＪ１号敷石住居址（堀之内２式期以降か）が構築されており、直接的な切り合いを有する重複事例となっている。報告書には、後期前葉～中葉期に帰属する復元資料22個体(深鉢８・鉢11・浅鉢１・壺形土器１・台付土器１)、破片資料78点（深鉢43・鉢27・浅鉢３・注口土器５）が掲載されている。

第７図１は石囲埋甕炉の炉体土器として用いられていた無文粗製深鉢で、口縁部は意図的に打ち欠かれたものと思われる。２・３は頸部に緩やかな括れを有し、縦位基調の沈線が施される深鉢である。いずれも３単位の沈線による懸垂文が施されているが、２は懸垂文間に縦位蛇行沈線を配し、３は３単位の斜行沈線で懸垂文を連絡している。４・５はナデ基調の調整が施された無文の粗製深鉢で、炉体土器に類似した資料である。６～16は胴部が球胴状をなし、強く外反する口縁部が付された鉢である。口縁部は無文を基調とし、小波状をなすもの（11・16）や小突起が付されるもの（６～10・12・15）が多く、縦位隆帯（６・９・10）や橋状把手（８）が付されるものもある。胴部には縦位基調（７・12)、あるいは幾何学状（６・８～14・16）の区画文が配されており､区画内には縄文（７～12・14・16）や沈線（６・13）が充填されている。11～13・16は胴部文様帯の下端区画が明瞭で、胴部上半を中心とする狭い範囲に文様が展開する。一方、６～９・14・15は下端区画が不明瞭で、施文域は胴部下半にまで及んでいる。17は直線的にひらく無文の浅鉢である。口縁部には小突起が付され、突起下には円形の押捺文が施されている。18は壺形土器、19は台付土器として分類されている小形の資料である。

（井辺一徳）

〈事例７〉　池端･椿山遺跡　Ｊ９号竪穴住居址



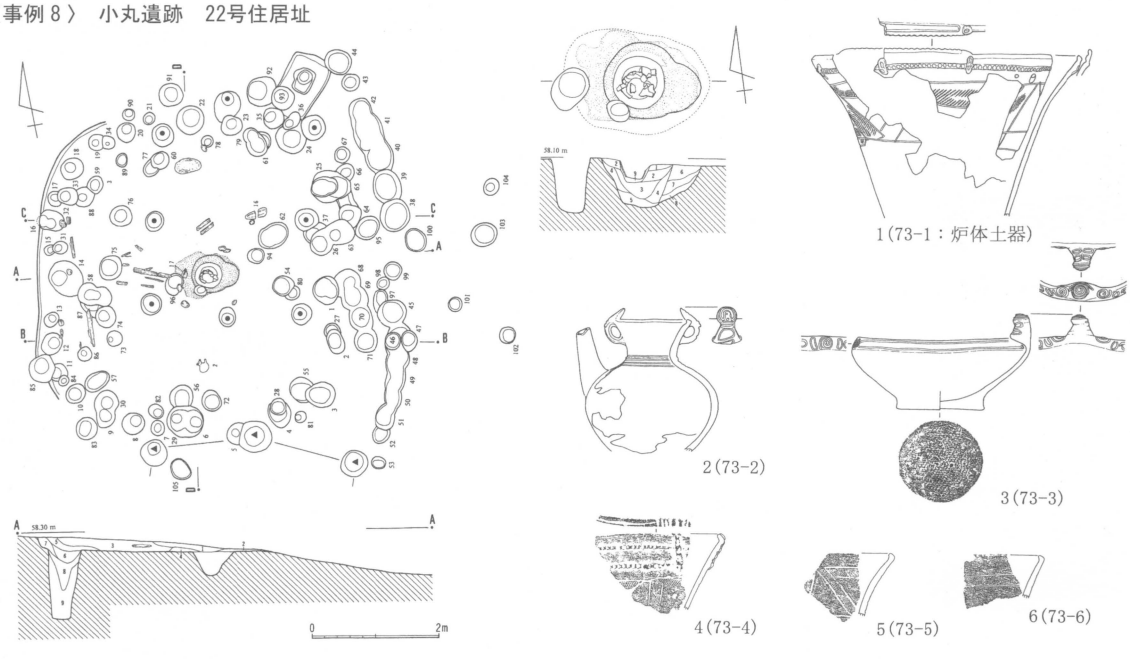
第７図　一括出土事例（７）

〈事例８〉　小丸遺跡　22号住居址（第８図）

遺跡の概要は〈事例５〉で触れている。本遺跡の中で堀之内２式の良好な遺構として22号住居址が挙げられる。標高59mに位置し、東側の谷を望む斜面への占地で入り口を谷の方角へ向けている。周辺には多数の掘立柱建物址が存在しており７号と37号と切りあい関係にあり、本址の方が新しいと判断される。他の竪穴住居との切り合いはみられない。また、本址は最低３回の建て替えがあったと想定されている。もっとも新しいと判断されるａ号は火災にあっていることが床面と覆土中の炭化材の遺存と焼土の堆積から想定されている。ｂ号はａ号とほぼ同じ箇所、もしくはａ号よりわずかに内側に柱穴を配置している。これはａ号がｂ号を踏襲したものと考えられる。ｃ号は奥壁側、左右壁側ともに３柱穴からなる住居址を想定している。出土遺物は土器が14点、石器が５点報告されている。

１はａ号炉址の炉体土器。接合状態が悪いため図上復元となっている。焼成はややもろい面がみられるが、炉に用いられたことによる二次焼成の可能性がある。報告者は口縁部は南三十稲場式の特徴を受け継いでいるとしている。２は注口土器。胴部最大径18cm弱。現器高は17.5cm。黒褐色を基調とした焼成良好な土器。器面は良好に研磨されている。頸部くびれ部をめぐる平行沈線が注口部付け根を巡る沈線と連絡するが、注口部の反対側にはこうした文様の施文はない。把手は全体に施文があるが簡素。炉址の左側空間で出土した。３は完形の浅鉢形土器。口径24cm弱。突起を含めた器高は12.8cm。１箇所のみ棒状の突起がつき、その周囲に集中して文様が施されている。また、その対面にも渦巻文が施されているが、この箇所の口縁はごくわずかに高く成形されており、器面は横位に研磨されている。淡い黒褐色を呈する焼成良好な土器である。床面上から柱穴59にかけて出土した。４～６は破片資料。いずれも平行沈線で横帯区画した部分に充填縄文を施している。４は横帯区画から垂下、５は斜行した区画も見られる。これら以外の破片類は若干古い段階のものも含まれるが、１～３の時期と近い段階のものが主体であると報告されている。　（宗像義輝）

〈事例８〉　小丸遺跡　22号住居址



第８図　一括出土事例（８）

〈事例９〉　稲ヶ原遺跡　B－９号土坑（第９図上段）

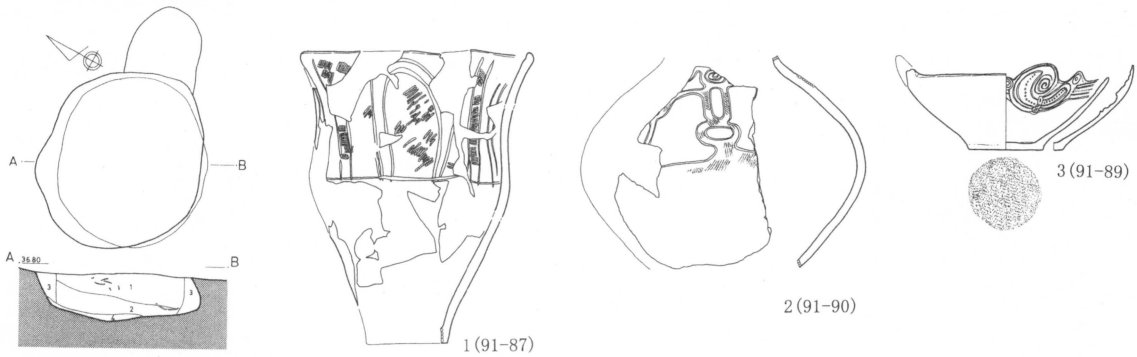
稲ヶ原遺跡は、横浜市緑区に所在する。遺跡は多摩丘陵の一段低位の台地上に位置し、標高は32から35m。鶴見川の支流である恩田川の谷に面している。平成２～３年にかけての調査により、中期後葉、中期末葉～後期前葉の集落が検出されている。うち２基の土坑から後期堀之内式期の良好な資料が得られている。

B－９号土坑は調査区の南端で検出された。タライ形の土坑である。南側の壁面はややオーバーハング気味、北側の壁面は傾斜をもって立ち上がる。報告書には覆土上層から出土した土器１～３が掲載されている。第９図１はキャリパー形を呈する深鉢である。胴上半に平行沈線を垂下させ、間に縄文を充填するが、図左右の沈線間には縄文が施されるのに対し、正面の逆U字形の区画はその外側に縄文が施されるなど、一定していない。２は壺形の土器。上部に把手の欠落痕がある。平行沈線により渦巻き・円形文を描き、平行沈線の中に縄文を充填する。３は浅鉢である。渦巻き状の突起を３箇所に有し、口縁内側には沈線・刺突文をめぐらせる。（小川岳人）

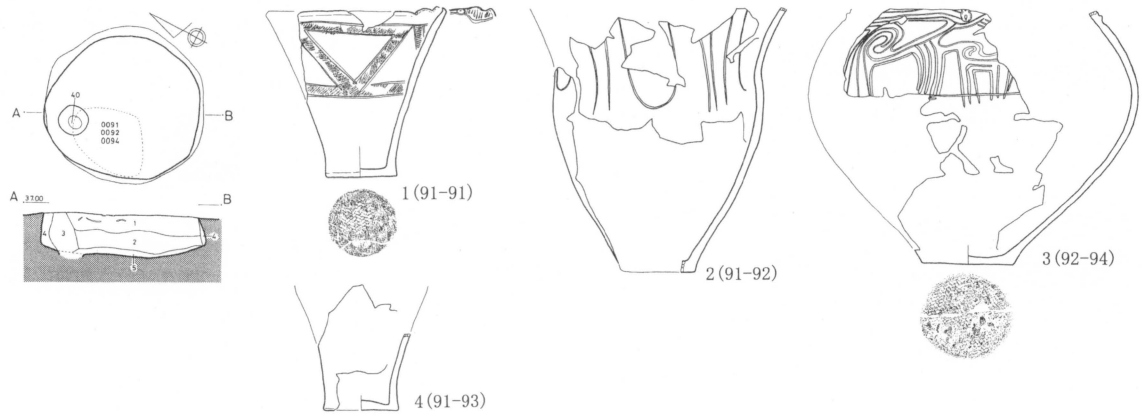
〈事例10〉　稲ヶ原遺跡　B－11号土坑（第９図下段）

B－11号土坑も稲ヶ原遺跡の調査区南端で検出された。B－９号土坑同様タライ形を呈し、壁面は全体にややオーバーハングする。覆土上層からまとまった土器が出土している。１は朝顔形の深鉢で、山形を描く平行沈線内に縄文を施す。口縁には突起を有し、内面に刺突と沈線が施される。２はキャリパー形の深鉢。胴上半に沈線を垂下させる。３は頸部が窄まり、口縁が外側へ開く深鉢とみられる。残存部の上半に沈線で渦巻き文・曲線文を描く。４は無文であるが、朝顔形に開く深鉢の胴下半とみられる。（小川岳人）

〈事例９〉　稲ヶ原遺跡　B－９号土坑

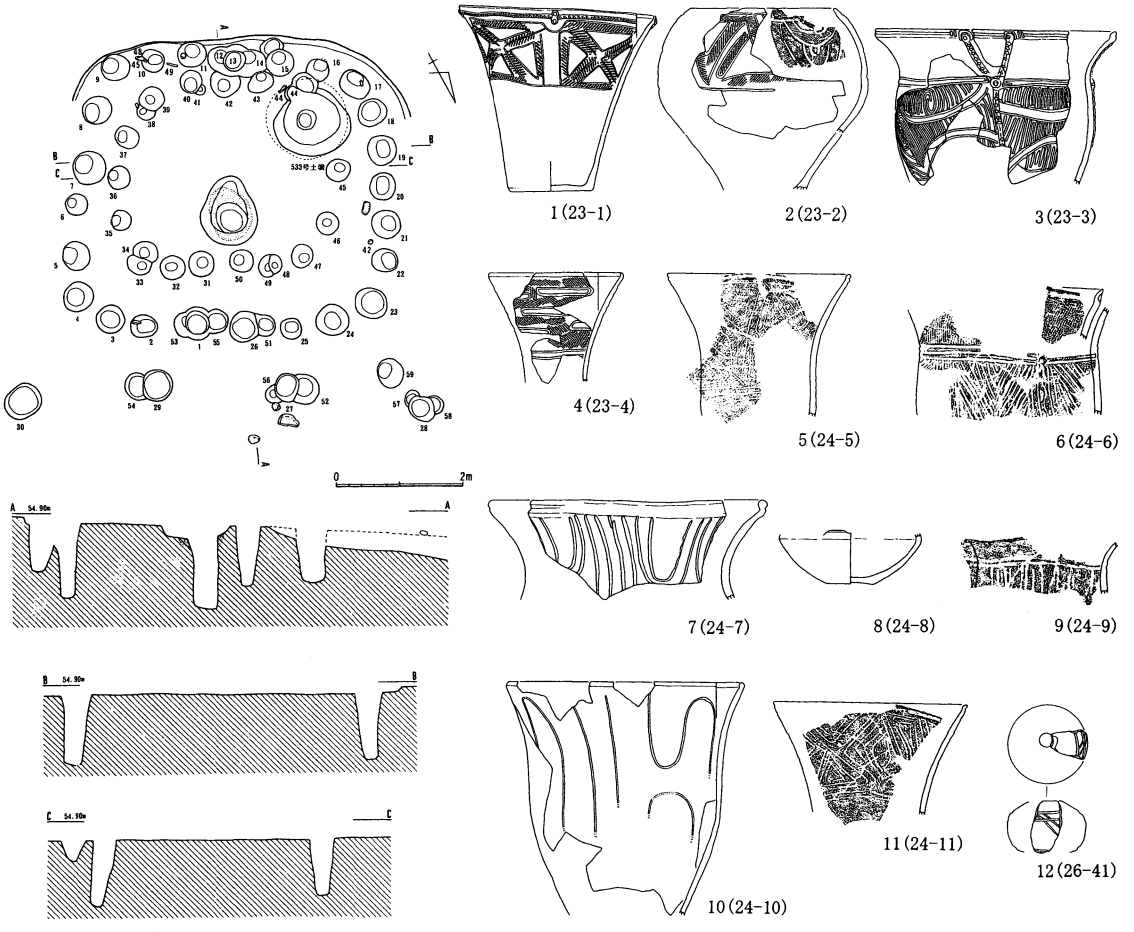


〈事例10〉　稲ヶ原遺跡　B－11号土坑



第９図　一括出土事例（９）

〈事例11〉 川和向原遺跡　8号住居址



第10図　一括出土事例（10）

〈事例11〉 川和向原遺跡　8号住居址（第10図）

川和向原遺跡は横浜市都築区川和台に所在し、多摩丘陵に位置する遺跡である。集落は後期初頭から前葉にかけての住居址・掘立柱建物・ピット群・貯蔵穴・墓廣・単独埋甕などで構成され、標高51～55mの台地西側に密度高く分布している。時期は称名寺式から認められるが、主体は堀之内１式後半から堀之内２式前半期である。８号住居址は緩やかに傾斜する北斜面の集落南端に構築されている。斜面部であることなどから壁は奥壁の一部が確認され、炉と柱穴列などが確認されている。柱穴は方形に近い形態で配列し、内側に古段階の柱穴列が見られる。炉の大部分は重複していると考えられている。住居址の周囲には包含層が広範囲に広がっており、覆土出土遺物との接合関係も多く認められている。遺物は復元資料11点・破片資料28点・土製品１点・石器などである。１は入口部床面相当レベル出土の朝顔形深鉢で、貼付文・刻み隆帯などと四角枠と斜方向の帯縄文により、幾何学的な文様を描く。２は覆土上部出土の無頸の鉢形土器で、帯縄文により枠状・弧線などの文様を描く。３は西側覆土中出土の鉢形土器で、懸垂する隆帯と集合沈線による文様などが描かれている。４・５は覆土と530号土坑など他遺構との接合関係がある資料である。６は緻密な地文の縄文と沈線などによる文様、７は沈線のみで「H」字状などの文様を描く。８は床面出土の注口土器、11は朝顔形の土器で沈線などによる幾何学的な文様を描いている。41は球状を呈する土製品である。

（天野賢一）

〈事例12〉　はじめ沢下遺跡　Ｊ１号敷石住居址（第11図）

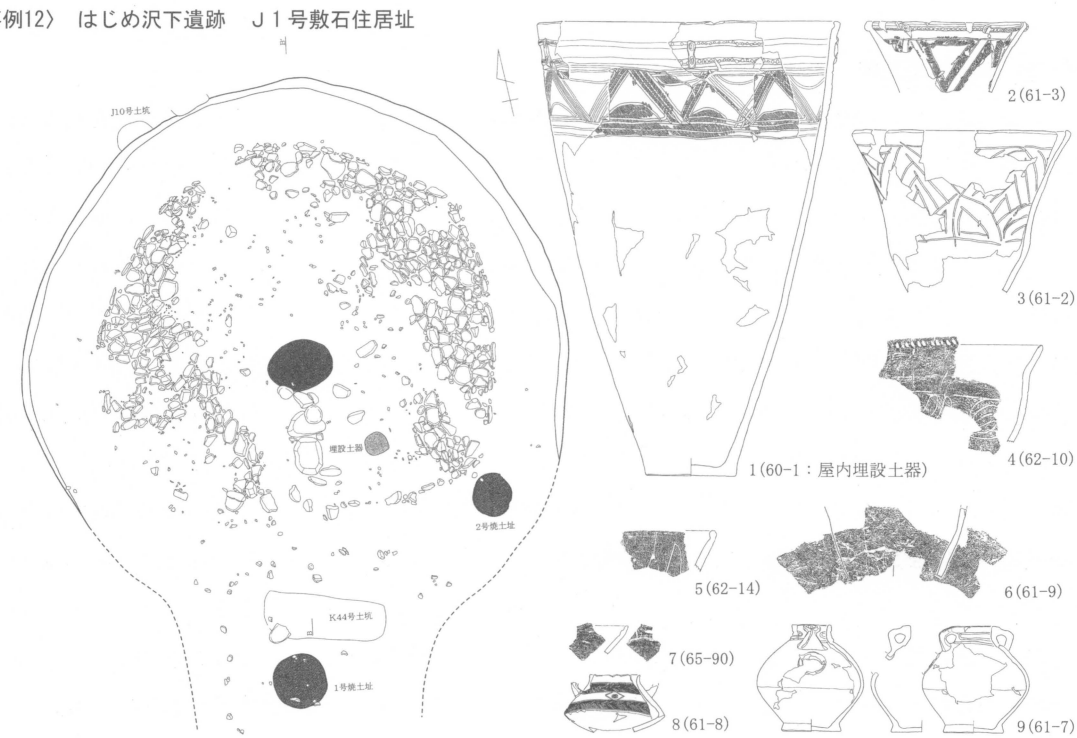
はじめ沢下遺跡は、相模原市緑区城山４丁目に所在する遺跡で、標高160～175mを測る津久井湖北岸の段丘上に位置している。平成18・19年に実施された発掘調査により、敷石住居址・列石・配石遺構からなる後期前葉期の集落が展開している事が明らかになった。

Ｊ１号敷石住居址は主体部径が９ｍを超える大形のもので、主体部全面に縁石を伴う敷石が付され、屋内埋設土器１基、屋内焼土址２（箇所）を伴う。出土遺物は堀之内１式土器と２式土器が混在しているが、量的には堀之内２式土器が主体を占める。報告書には、復元資料９個体（深鉢７・注口土器２）、破片資料78点（深鉢59・鉢11・浅鉢１・注口土器３）が掲載され、埋設土器の帰属時期をもって堀之内２式期の住居址とされている。

第11図１はピット状の掘り方中に破砕された状態で埋置されていた埋設土器である。大形の朝顔形深鉢で、縦長の８字状貼付文で連絡された２条の隆線が巡り、その下段には三角形と半円形を組み合わせた幾何学的な磨消縄文帯が配されている。２は内折する口唇部直下に円形貼付文を伴う隆線が廻る朝顔形深鉢形で、磨消縄文により三角形基調のモチーフが表出されている。３は幅広の口縁部文様帯を有する朝顔形深鉢で、沈線のみで表出された重三角形基調のモチーフが展開している。４・５は頸部に緩やかな括れを有し、縦位基調の沈線が施される深鉢である。４は口縁部～頸部に広い無施文部をもち、口唇部内面に刻みが施されている。５は口唇部が内折するもので、逆Ｕ字基調の懸垂文が粗く配されている。６は外面にケズリにちかい調整が施された粗製の深鉢である。７はやや内湾ぎみにひらく無文の浅鉢で、波状口縁をなすようだ。内面に沈線による文様が施されているがモチーフ等は判然としない。８・９は把手が付された注口土器である。８は胴部が算盤玉状を呈するもので、胴部上半に綾杉状沈線を充填した横帯が２段廻っている。９は床面からやや浮いた状態で出土したものである。直立気味に立ち上がる口縁部には窓枠状の区画沈線が施され、渦巻文が施された橋状の把手が付されている。

（井辺一徳）

〈事例12〉　はじめ沢下遺跡　Ｊ１号敷石住居址



第11図　一括出土事例（11）

神奈川県内出土の弥生時代金属器（3）

－まとめ－

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

これまでに「神奈川県内出土の弥生時代金属器」として、二回に亘って鉄器と銅製品の集成を行ってきたのであるが、今回は集成結果に基づいて若干の分析を行い、神奈川県内における弥生時代から古墳時代前期の金属器の出土傾向についてまとめを行うこととする。分析にあたって、時期区分は弥生時代中期後半、弥生時代後期前半、弥生時代後期後半、弥生時代後期末～古墳時代初頭、古墳時代前期前半に区分することとした。各遺物の時期判断は基本的に報告書に記載された出土遺構の時期判断に従っているが、弥生時代後期とだけ報告されている事例については、伴出土器を検討して区分できるものについては区分し、時期区分ができる土器が出土していない事例、遺構外出土資料および未報告資料については、今回の分析対象から省略した。なお、新たに報告された資料について追加集成し、検討材料に加えた。追加集成した資料については第14・15図と第３・４表として巻末に掲載した。挿図中の遺物番号は鉄器、銅製品ともに当初の集成（弥生時代研究プロジェクトチーム2008・2009）の続き番号としてある。当初集成を併せて見て頂きたい。今回の追加集成及び分析にあたってはプロジェクトメンバーで作業分担し、文責は各文末に記した。　（池田　治）

神奈川県内における鉄器の出土傾向について

弥生時代中期後半から古墳時代前期における鉄器出土遺跡総数および出土鉄器総数は61遺跡120点である。今回は弥生時代中期後半から古墳時代前期前半のうち、共伴土器から帰属時期を判断可能な53遺跡112点について、時期別の数量推移と出土遺跡の分布の傾向について分析を行った。対象遺物の帰属時期は第１表の通り。なお、遺物単体の器種では数量傾向が捉えにくいため、農工具（板状鉄斧、袋状鉄斧、鉇、鉄鑿、刀子、鉄鎌）・武器（鉄剣、鉄鏃）・漁労具（釣針、ヤス）・装身具（鉄釧）・その他（上記以外）の大きく５つの用途種類別に集計を行い、数量推移を示した（第１図）。

１．弥生時代中期後半

11遺跡から31点の鉄器が出土している。農工具が圧倒的に大きな割合を示している。遺物の内訳をみると板状鉄斧が最も多く出土し、次いで鉄鑿が多く出土している。板状鉄斧は基本的に片刃で、大きさ・厚さにバリエーションがあり、伐採用と加工用のものが存在するものと考えられる。砂田台遺跡では合計11点の鉄器が集中して出土している。同遺跡出土の板状鉄斧は鉄剣を再加工して作られており、注目される。

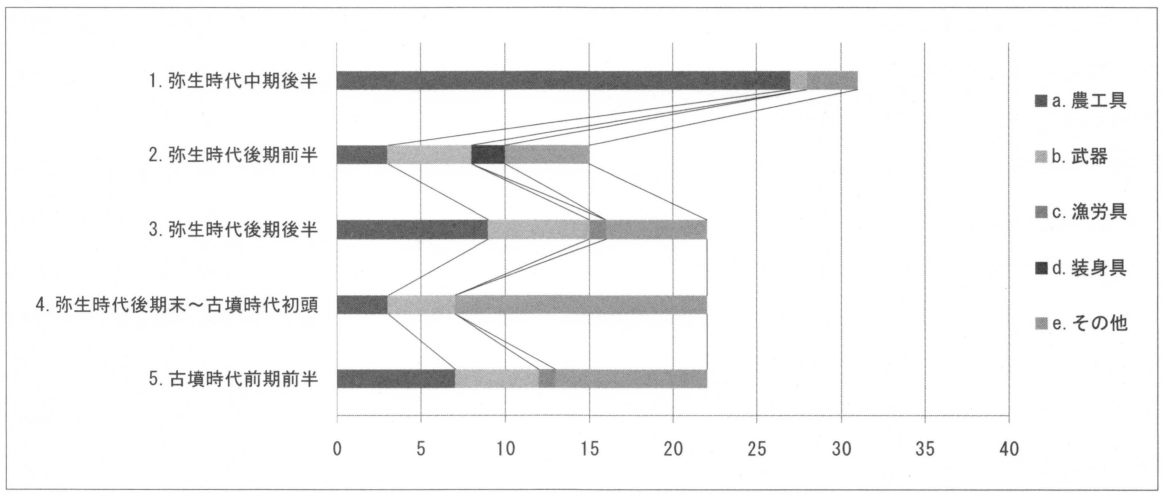
遺跡分布は下末吉台地・多摩丘陵に集中し、三浦半島にも分布する。県東部に偏りが見られる。

２．弥生時代後期前半

11遺跡から15点の鉄器が出土している。農工具の出土割合が減少し、武器・装身具の割合が増加する。この時期から武器に鉄剣、装身具に鉄釧が出現する。これらが出土する遺構は主に方形周溝墓からで、この時期に鉄器の副葬が開始される。鉄鏃が３点出土しているが、いずれも三角形状の無茎鏃で、そのうち２点は逆刺をもつ。農工具は鉄鎌が出現し、器種が増加する。

第１表　鉄器の時期別分布（数字は図版の遺物番号）

112点	a．農工具	b．武器	c．漁労具	d．装身具	e．その他
1．弥生時代中期後半	1～7，9～11，13，14，17～22，24～29，31，34，38	71			35，98，99
2．弥生時代後期前半	39，45，46	55，62，65，68		77，78	51，103～105
3．弥生時代後期後半	15，16，32，33，37，44，107	52，60，61，69，73，75	50		79，95，97，102，110，114
4．弥生時代後期末～古墳時代初頭	8，40	56，66，70，76			81～90，94，100，101，116
5．古墳時代前期前半	12，30，42，43，47，48，106	57，63，64，72，74，108	49		36，41，109，111，112，118，120



第１図　鉄器時期別種類構成

遺跡分布は弥生時代中期後半と同様に、下末吉台地・多摩丘陵、および三浦半島に分布が偏る。

３．弥生時代後期後半

16遺跡から21点の鉄器が出土している。出土遺跡数は最大となる。農工具が出土資料の約半分の割合を占める。新たに有茎の鉄鏃が出現する。新たな器種として、漁労具である釣針が毘沙門洞穴遺跡から出土している。鉄剣の副葬は継続して行われる。

遺跡分布は県北西部の丹沢山地等を除いて、下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島、境川流域、相模川流域、金目川流域、酒匂川流域と弥生時代中期後半、後期前半と比べ、県内に広く分布する。

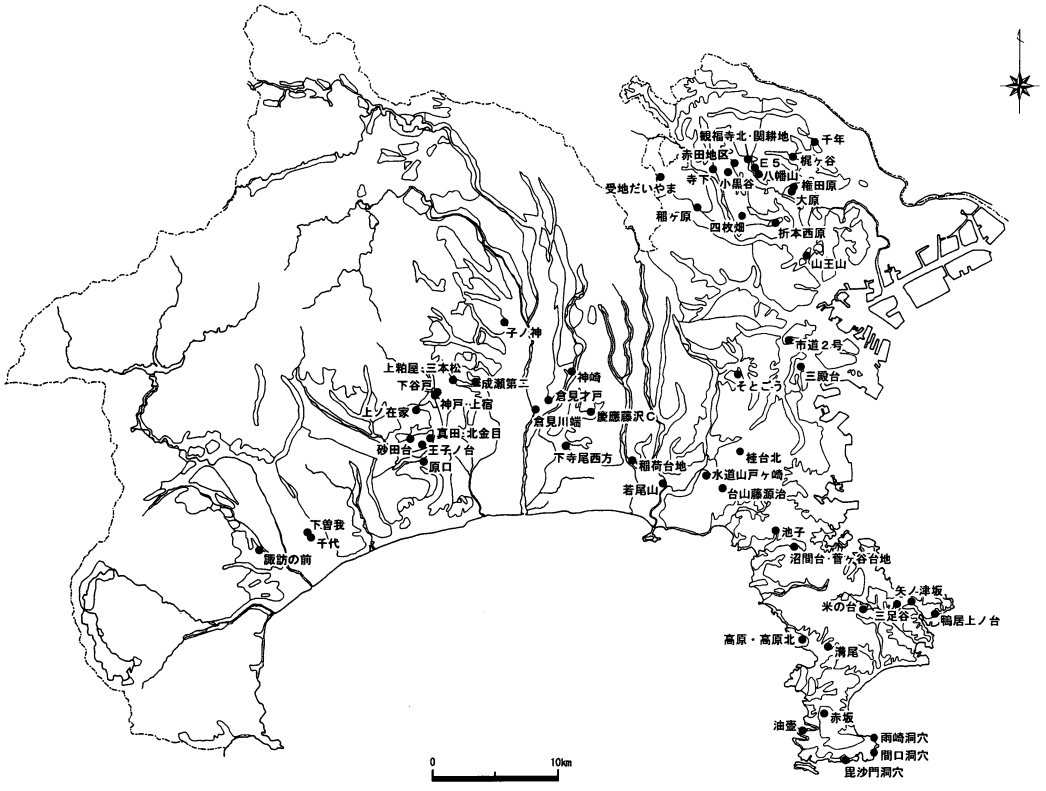
４．弥生時代後期末～古墳時代初頭

11遺跡から22点の鉄器が出土している。資料の大半がその他に分類されるため、数量の傾向は捉えにくい。その他を除けば、農工具、武器がほぼ半々の割合で出土する。鉄剣の副葬は継続される。その他の鉄器の中には、三角形状の鉄片や棒状の鉄片が見られる。これらは鉄製品の破片と考えられるが、村上恭通氏が指摘するような鍛冶を行った際に切りおとされた鉄片の可能性も考えられる（村上 1998）。

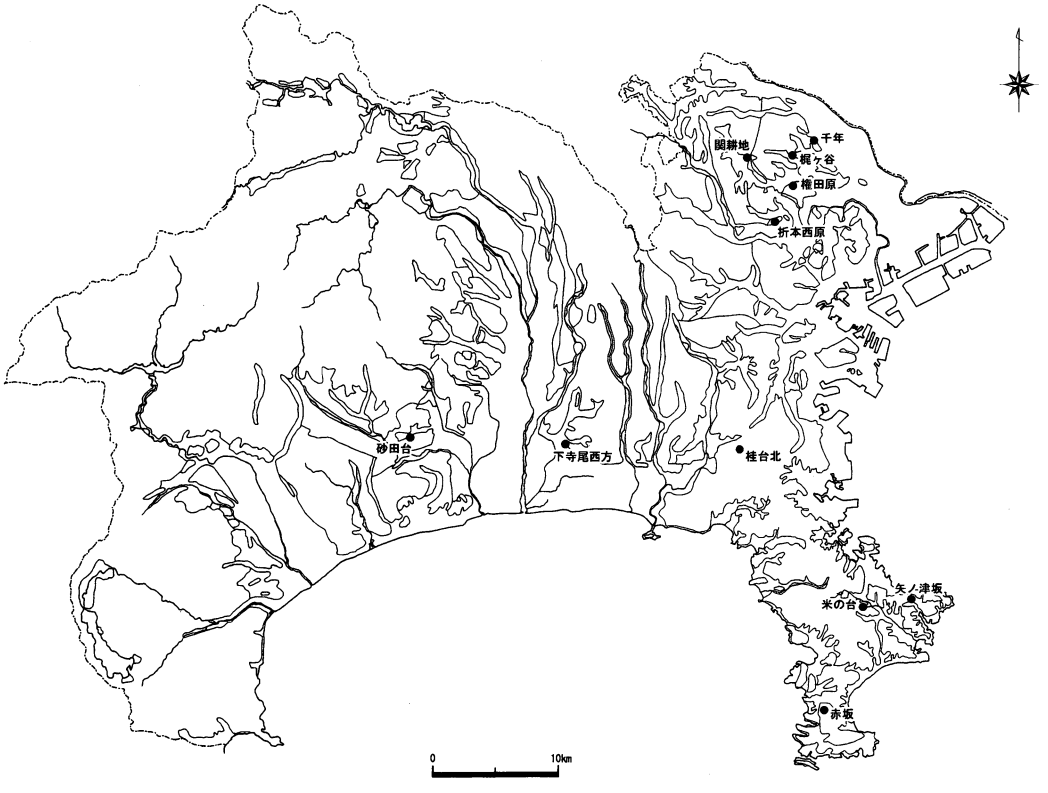
遺跡分布は弥生時代中期後半から後期後半まで下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島といった県東部に集中する傾向が見られたが、この時期は相模川流域、金目川流域といった県央部に集中する。

５．古墳時代前期前半

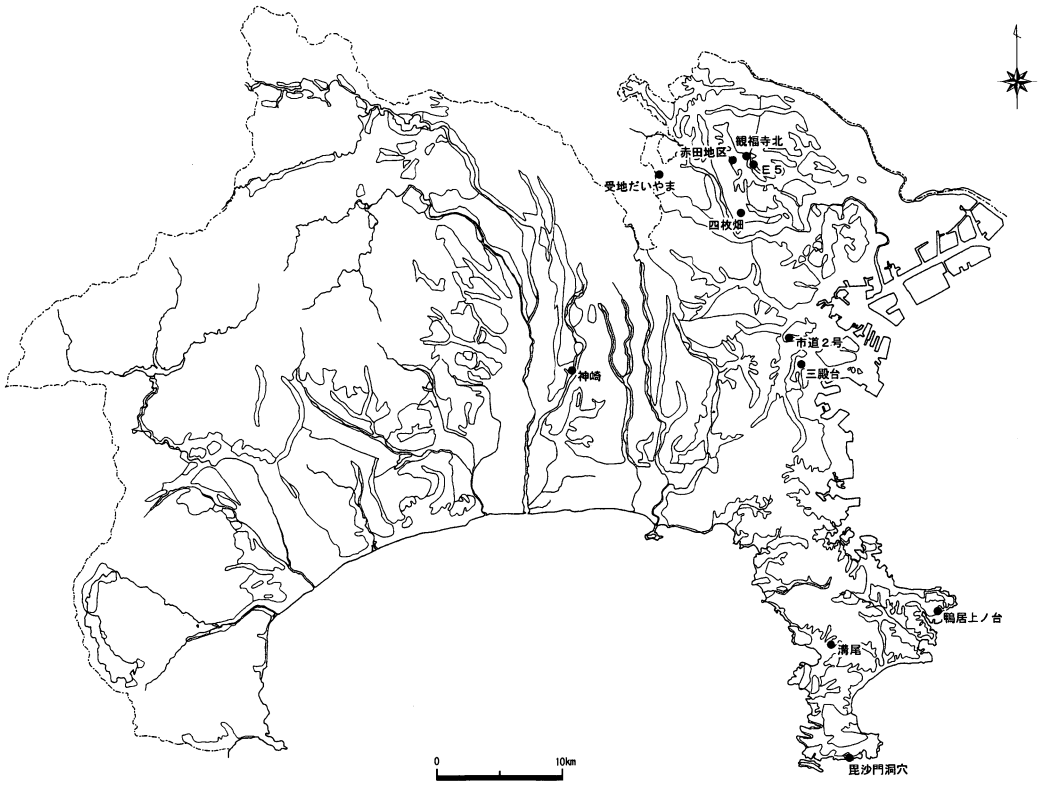
10遺跡22点の鉄器が出土している。新たな器種として、農工具で神戸・上宿遺跡から袋状鉄斧、漁労具で油壺遺跡からヤスが出現する。ヤスは釣針同様、沿岸部の遺跡から出土しており、立地に伴う遺跡特有の遺



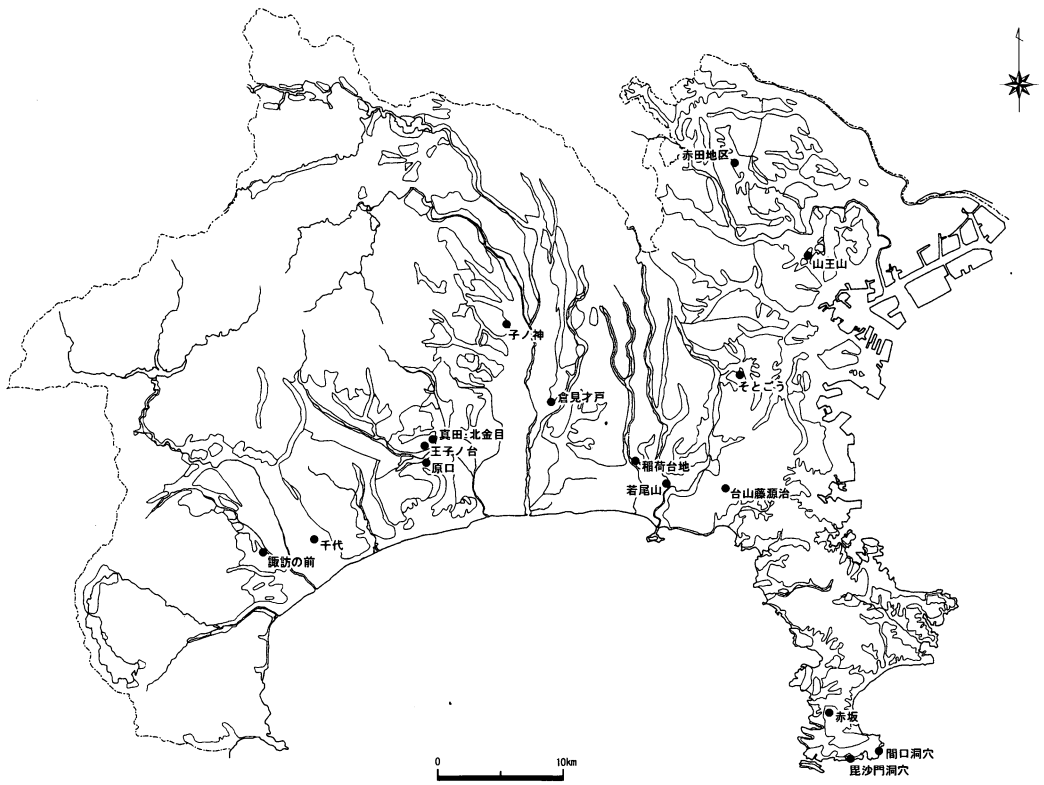
第2図　鉄器出土遺跡分布図（全時期）



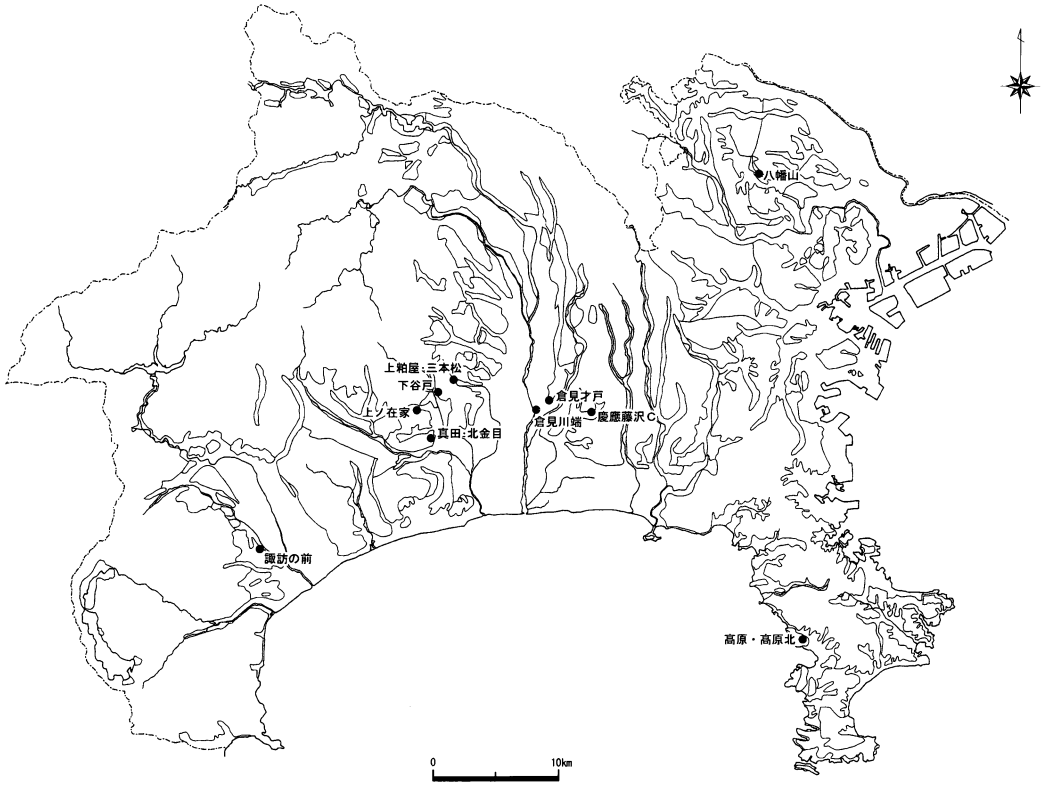
第3図　鉄器出土遺跡分布図（弥生時代中期後葉）



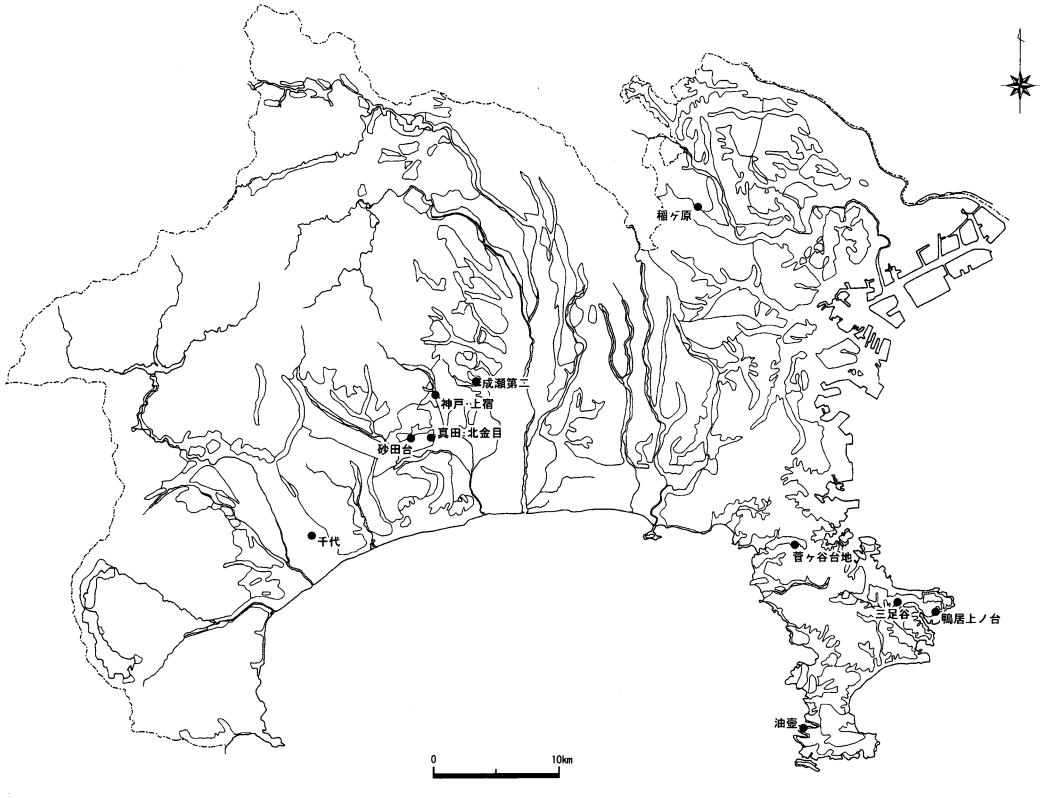
第4図　鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期前半）



第5図　鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期後半）



第6図　鉄器出土遺跡分布図（弥生時代後期末～古墳時代初頭）



第7図　鉄器出土遺跡分布図（古墳時代前期前半）

物と考えられる。鉄鏃にも新たな形態が出現する。現時点では墳墓から鉄器が出土した例はなく、弥生時代後期前半から古墳時代初頭まで続いていた鉄器の副葬が途切れる。小田原市千代南原遺跡第Ⅳ地点から鉄滓が出土しており、高温操業可能な鍛冶を行っていたことを示唆する。真田・北金目遺跡出土の鉄鏃（第14図108）は鉄鏃と報告されているが、鉈の可能性がある。また、同遺跡から出土している鉄鎖破片（第14図120）は覆土中からの出土状況や形態から古墳時代前期前半以降のものである可能性がある。

遺跡分布は金目川流域を中心とする県央部、弥生時代後期末から古墳時代初頭に一旦希薄となった三浦半島を中心に分布する。（戸羽康一）

神奈川県内における銅製品の出土傾向について

神奈川県内出土の弥生時代から古墳時代前期前半の銅製品は、今回の追加集成資料を含めて196点が集成された。このうち分析にあたって時期別推移を示す資料としたものは、時期判断可能な伴出土器が報告されている遺構出土資料に限定したため、対象資料数は87点である。対象遺物の帰属時期は第２表に示した。

出土銅製品の種類は、銅鏃、銅釧、銅環（小銅環）、銅鏡、小銅鐸（銅鐸形銅製品）、筒状銅製品などがあり、また板状銅製品や銅板破片、不明銅製品、用途不明品の名称で報告されているものがある。これらを用途別にまとめると、銅鏃は弓矢の矢の鏃であり武器、銅釧は本来腕輪であり呪術的要素を有しているが装身具、指輪状を呈する銅環または小銅環とされるものは、具体的に指輪としての使用状況を示す出土例はないが、銅釧とともに装身具と考える。また、これら銅釧と銅環（小銅環）の破片は元の用途に従って装身具類として集計する。板状銅製品、銅板破片、不明銅製品と報告されているものは、細く扁平な板状を呈するものであるが、幅や厚み、断面の形状をみると、帯状銅釧を切断して丸みを延ばした再加工品と推測される。再加工後の用途は不明である。ここでは銅釧の断片を再加工・再利用していると考えられる物品も、装身具として集計した。銅鏡、小銅鐸（銅鐸形銅製品）、筒状銅製品は、数量が少なく特殊品であることから祭祀具と考えるべきかもしれないが、今回は「その他」として括ることにする。用途不明品とされているものは、不定形の銅薄板を折り曲げたもので、鋳造時の素材や失敗品の可能性があるが、これ自体が製品であることはないと思われる。これも「その他」として扱うこととする。

限られた資料数であるが、以下に出土銅製品の時期別数量推移と出土遺跡分布について概略をまとめる。

１．弥生時代中期後半

神奈川県内では、弥生時代中期の銅製品は出土例がなく、弥生時代後期になってから出現する。

２．弥生時代後期前半

５遺跡10点の銅製品が出土している。この時期から銅製品が出土するようになり、武器類である銅鏃と装身具類である銅釧、銅環がある。銅釧は貝輪系の銅釧片のみで、三浦半島の基部に所在する手広八反目遺跡や持田遺跡で出土している。また銅環が下末吉台地の山王山遺跡や三浦半島の高原遺跡で出土している。帯状銅釧もこの時期に出現していると考えられるが未だ出土例はない。銅鏃は三浦半島の高原遺跡と県央部に位置する相模川左岸の目久尻川流域にある神崎遺跡で各１点出土している。

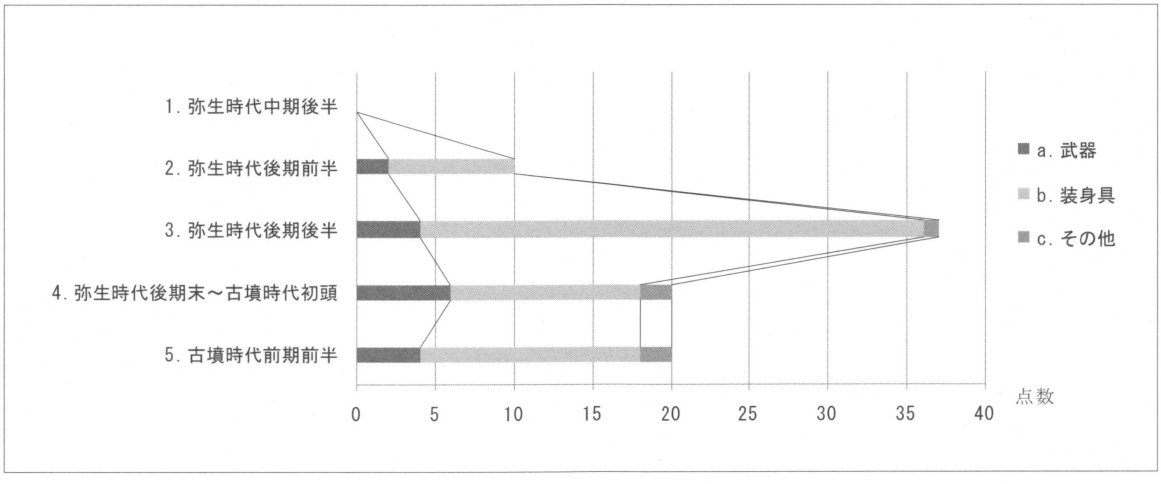
この時期は全般的に銅製品の出土は県東部地域に偏っていて、県西部では未だ出土していない。

３．弥生時代後期後半

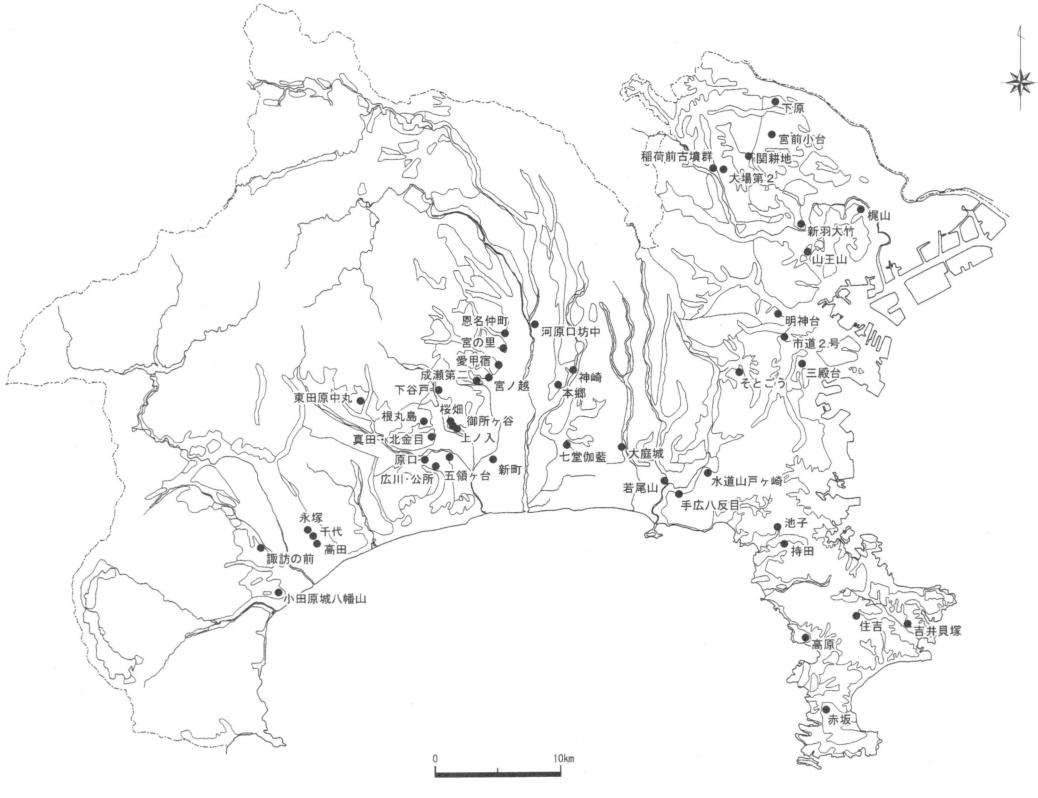
11遺跡37点の銅製品が出土している。この時期には武器類の銅鏃、装身具類の銅釧、銅環に加え、銅鏡の出土例がある。銅鏃は４遺跡４点が出土していて、そのうち酒匂川左岸の千代台地に立地する千代仲ノ町遺

第2表　銅製品の時期別分布（数字は図版の遺物番号）

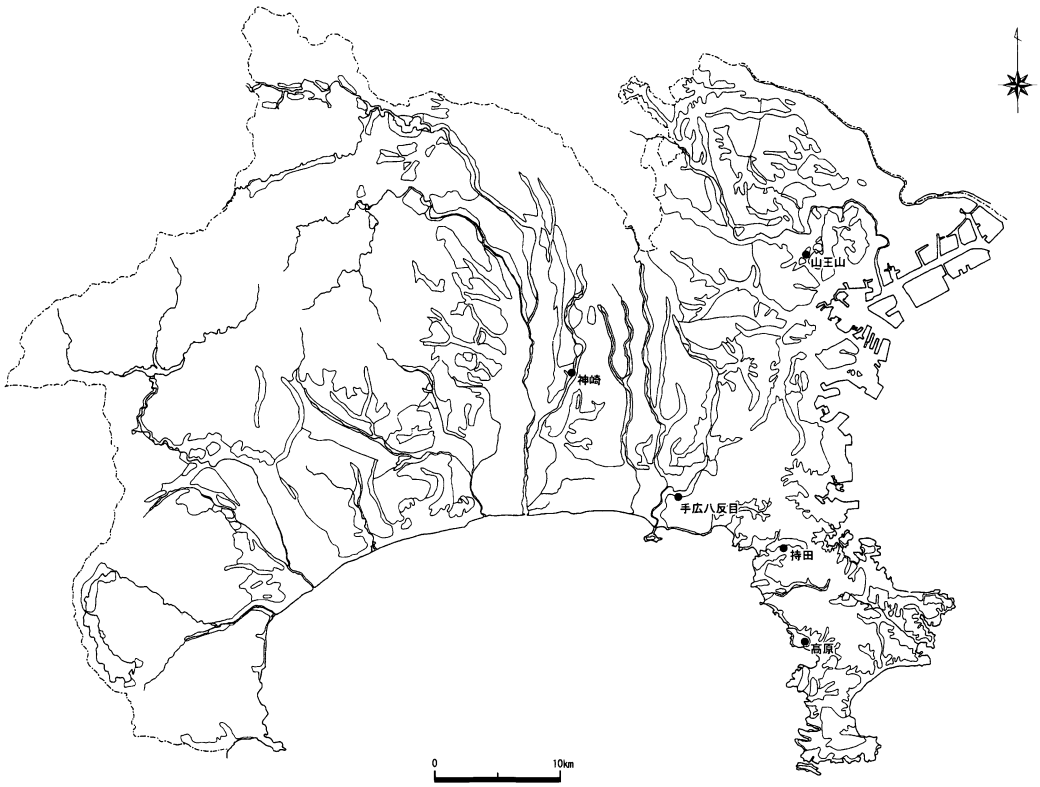
87点	a．武器	b．装身具	c．その他
1．弥生時代中期後半			
2．弥生時代後期前半	8，13	36，39，73～77，80	
3．弥生時代後期後半	2，14，23，106	31，49，52～55，60，68，72，79，81，87，90～93，109，110，113，118～120，125，128，129	126
4．弥生時代後期末～古墳時代初頭	1，4，7，10，17，20	32～35，38，45，84，89，96，114，117，123	99，105
5．古墳時代前期前半	15，16，29，30	46，48，51，56，57，59，85，88，95，111，112，115，116，122	102，103



第8図　銅製品時期別種類構成

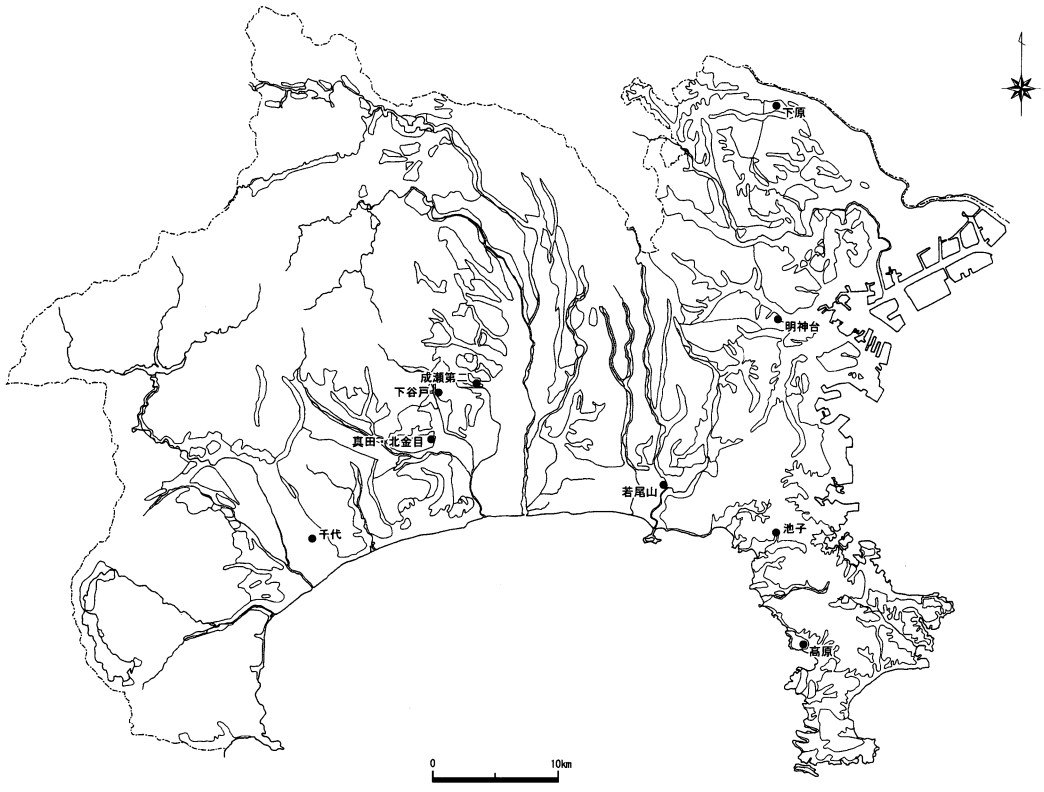


第9図　銅製品出土遺跡分布図（全時期）

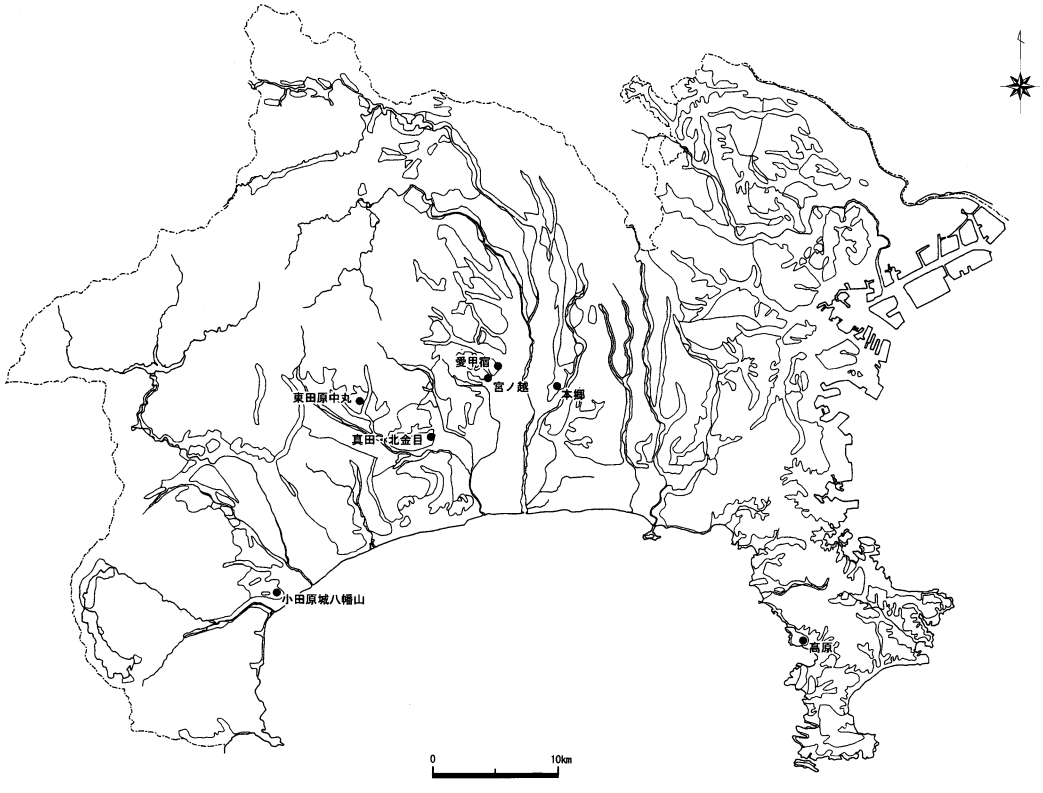


第10図　銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期前半）

第11図　銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期後半）



第12図　銅製品出土遺跡分布図（弥生時代後期末～古墳時代初頭）



第13図　銅製品出土遺跡分布図（古墳時代前期前半）

跡では、多孔銅鏃が出土している。銅釧では帯状銅釧の完形品が多摩丘陵の関耕地遺跡と金目川流域の原口遺跡、真田・北金目遺跡群で出土していて、原口遺跡と真田・北金目遺跡群では方形周溝墓の埋葬施設から出土している。また真田・北金目遺跡群では重圏文鏡と推測される破片が出土していて、注目される。

この時期に銅製品出土量は増大し、出土遺跡も県東部から県央部、県西部まで県内全域に広がる。

4．弥生時代後期末～古墳時代初頭

9遺跡20点の銅製品が出土している。この時期は、銅鏃、銅釧、銅環、銅鏡、用途不明品が出土している。前時期より装身具類の出土量が減少したため全体の出土量は減るが、武器類（銅鏃）の出土量は増加している。銅鏃は6遺跡で出土していて、出土遺跡は下末吉台地・多摩丘陵、三浦半島、境川流域、金目川流域に所在し広範囲である。装身具類は4遺跡で出土しているが、前時期の9遺跡から遺跡数、数量ともに大きく減少している。相模川右岸の成瀬第二地区遺跡群で小型倣製鏡が出土している。

この時期の特徴として、県東部から県西部まで出土遺跡が分布するが、県央部での出土が希薄である。

5．古墳時代前期前半

7遺跡20点の銅製品が出土している。前時期と出土点数は変わらないものの、出土遺跡数は9から7へ減少している。装身具類出土遺跡は、金目川流域の真田・北金目遺跡群で銅釧と銅環が出土しているほかは、東田原中丸遺跡で銅環1点が出土しているだけである。稀少遺物として、三浦半島の高原遺跡で筒状銅製品が出土し、相模川左岸の本郷遺跡で小銅鐸が出土している。

この時期の出土遺跡分布は、県東部の下末吉台地・多摩丘陵での出土は見られなくなり、県央部の相模川左岸でも希薄である。相模川右岸から金目川流域に出土遺跡が多くなっている。（池田）

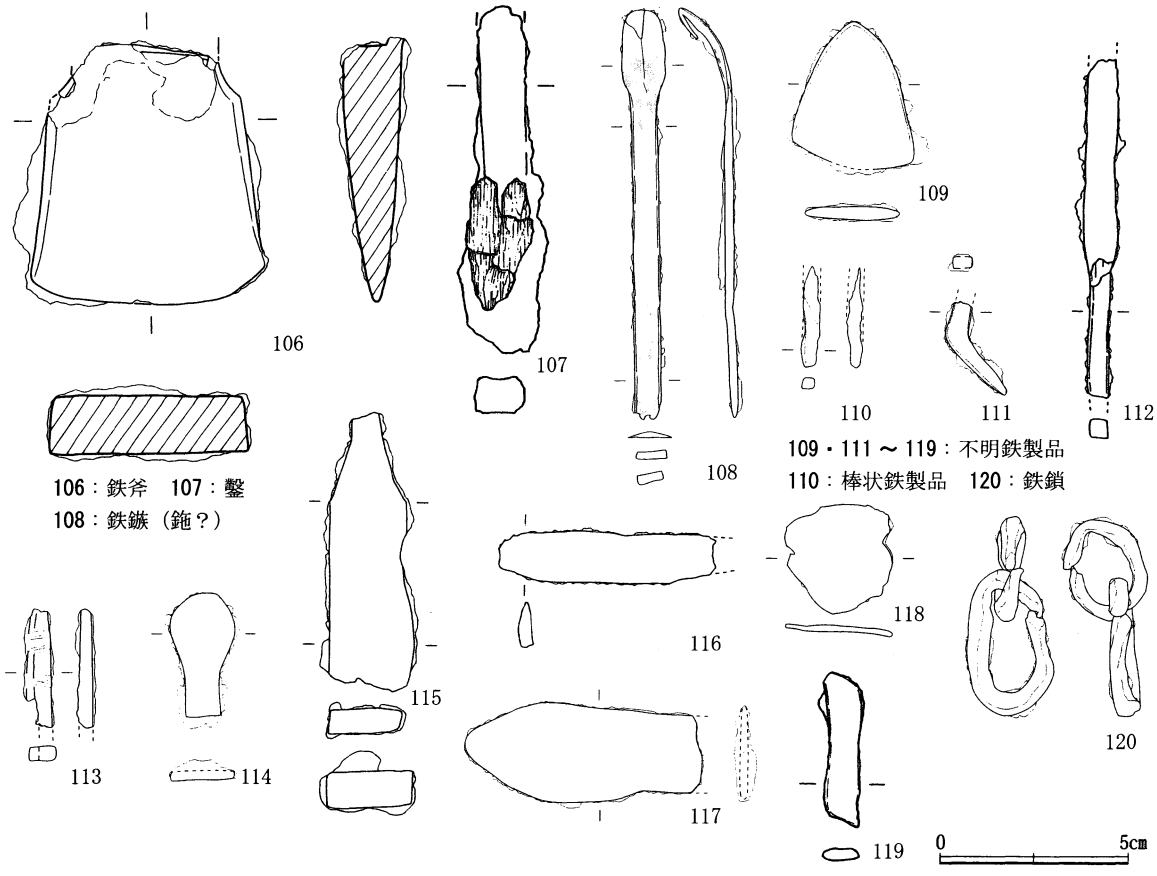
まとめ

弥生時代から古墳時代前期にかけての鉄器および銅製品の出土傾向について分析を行い、特徴を時期別にまとめてきた。鉄器は弥生時代中期後半から農工具を主として出現するようになり、後期前半に装身具の出現、武器類の増加があり、後期後半には漁労具が新たに加わり、古墳時代前期に至って新たな器種の出現と鉄滓の多量出土という現象が見られる。これに対して銅製品は弥生時代後期になってから出現し、武器、装身具が基本的器種であり、後期後半に数量が増大し、鏡などのその他器種が散見されるようになり、以後数量は減少するという傾向があり、鉄器とは異なる推移を示している。一方、出土遺跡の分布については両者同様の傾向を示し、当初は県東部に多く、後期後半以降広範囲に広がり、次第に県西部に分布中心が移ることが共通した傾向である。これは遺跡全体の時期別分布動向と関連する現象と考えられる。（池田）

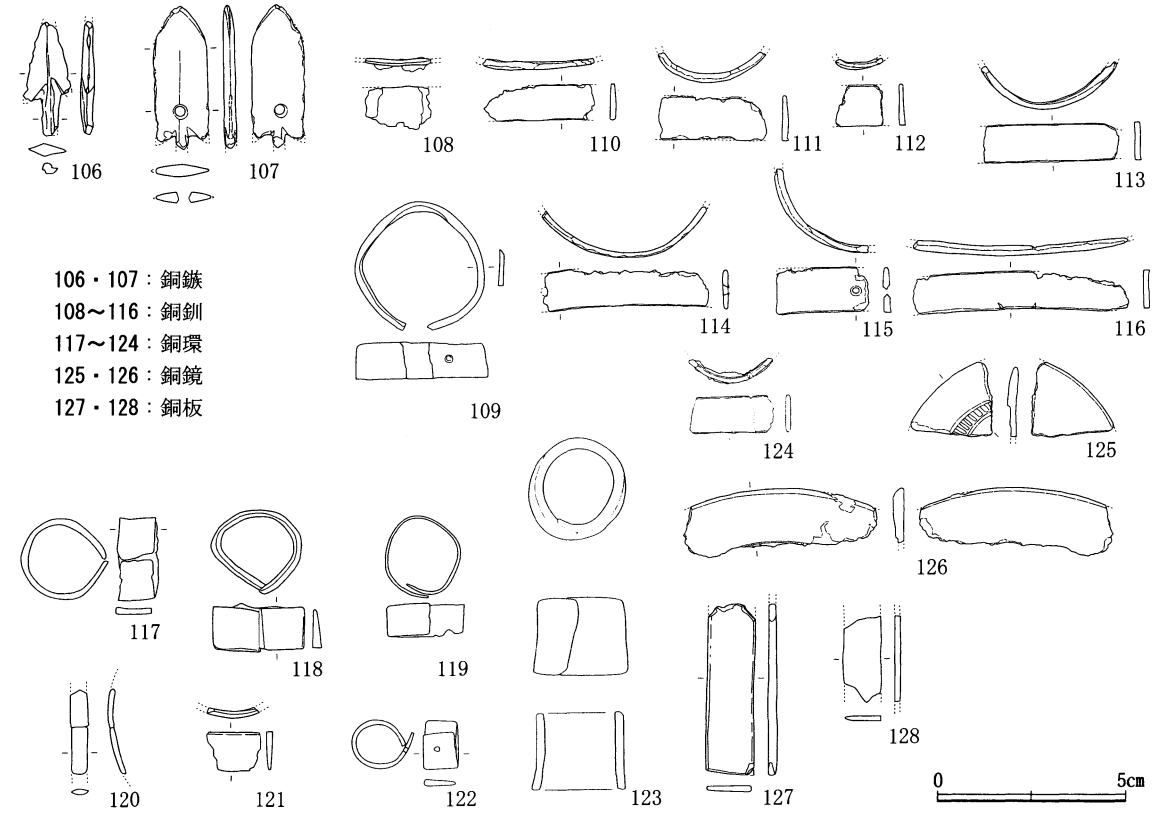
追加集成報告書等文献（第3・4表に対応）

a．平塚市真田・北金目遺跡調査会　2010『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書7』平塚市真田・北金目遺跡調査会

b．小田原市教育委員会　2010『千代南原遺跡第XVI・XVIII・XX地点』小田原市文化財調査報告書第154集



第14図　鉄器追加集成［S＝1/2］



第15図　銅製品追加集成［S＝1/2］

第3表　鉄製品追加資料一覧表

市町村		遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
平塚市		真田・北金目遺跡群	34B区　ＳＩ０９１	鉄鏃	1	古墳前期	108	鏃の可能性有	a
			44　区　ＳＩ００９８	不明鉄製品	1	古墳前期	109		
			34A区　ＳＩ０４０	棒状鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	110		
			44　区　ＳＩ００７５	不明鉄製品	1	古墳前期	111	角釘状の破片	
			36B区　ＳＩ１０２３	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	112	棒状で断面方形	
			34B区　ＳＩ０９４	不明鉄製品	1	弥生後期	113	棒状の鉄製品二本	
			44　区　ＳＩ０１６１	不明鉄製品	1	弥生後期後半	114	杓子形	
			34E区　ＳＩ１００１	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	115	板状、一端が尖る	
			36B区　ＳＩ１０３６	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	116	覆土出土	
			44　区　ＳＫ０２２２	不明鉄製品	1	古墳前期末葉	117	覆土下層出土	
			34A区　ＳＩ０３１	不明鉄製品	1	古墳前期	118	薄手の鉄板状	
			34A区　ＳＩ０４６	鉄鎖破片	1	古墳前期	120	鎖二連部分の破片	
小田原市		千代南原遺跡　第ＸⅥ地点	６号住居址	鑿	1	弥生後期	107	柄の木質一部残存	b
		千代南原遺跡　第ＸⅧ地点	遺構外	不明鉄製品	1	弥生後期～古墳前期	119		

第4表　銅製品追加資料一覧表

市町村	遺跡番号	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
平塚市	38	真田・北金目遺跡群	23B区　ＳＩ１００３	銅鏃	1	弥生後期～古墳前期	106		a
			44　区　遺構外	銅鏃	1	弥生後期～古墳前期	107	茎部欠損	
			34A区　ＳＩ０５０	銅釧片	1	弥生後期	108		
			36B区　ＳＤＨ１００１	銅釧	1	弥生後期	109		
			44　区　ＳＩ００４５	銅釧破片	1	古墳前期	110		
			44　区　ＳＩ００７３	銅釧破片	1	古墳前期	111		
			44　区　ＳＩ０１３１	銅釧破片	1	弥生後期後半	112		
			44　区　ＳＩ０１４６	銅釧破片	1	弥生後期後半	113		
			44　区　ＳＩ００９７	銅釧破片	1	古墳前期前半	114		
			44　区　ＳＩ００７５	銅釧破片	1	古墳前期	115		
			44　区　ＳＩ００９０	銅釧破片	1	弥生後期後半	116		
			12F区　ＳＩ５０３８	銅環	1	弥生後期～古墳前期	117		
			34B区　ＳＩ０８８	銅環	1	弥生後期	118		
			36B区　ＳＩ１０３１	銅環	1	弥生後期	119		
			28C区　遺構外	銅環破片	1	弥生後期～古墳前期	120		
			34C区　ＳＩ１６３	銅環破片	1	古墳前期	121		
			34F区　ＳＤＨ２００２	銅環	1	弥生後期～古墳前期	122		
			47　区　遺構外	銅環	1	弥生後期～古墳前期	123		
			49A区　ＳＩ００８	銅環破片	1	弥生後期	124		
			44　区　ＳＩ０１５９	銅鏡片	1	弥生後期後半	125	重圏文鏡か	
			44　区　遺構外	銅鏡片	1	弥生後期～古墳前期	126	連弧文鏡か	
			23C区　ＳＩ２０１５	銅板破片	1	弥生後期	127		
			34C区　ＳＩ１４２	銅板破片	1	弥生後期	128		

神奈川県における古代の鉄（1）

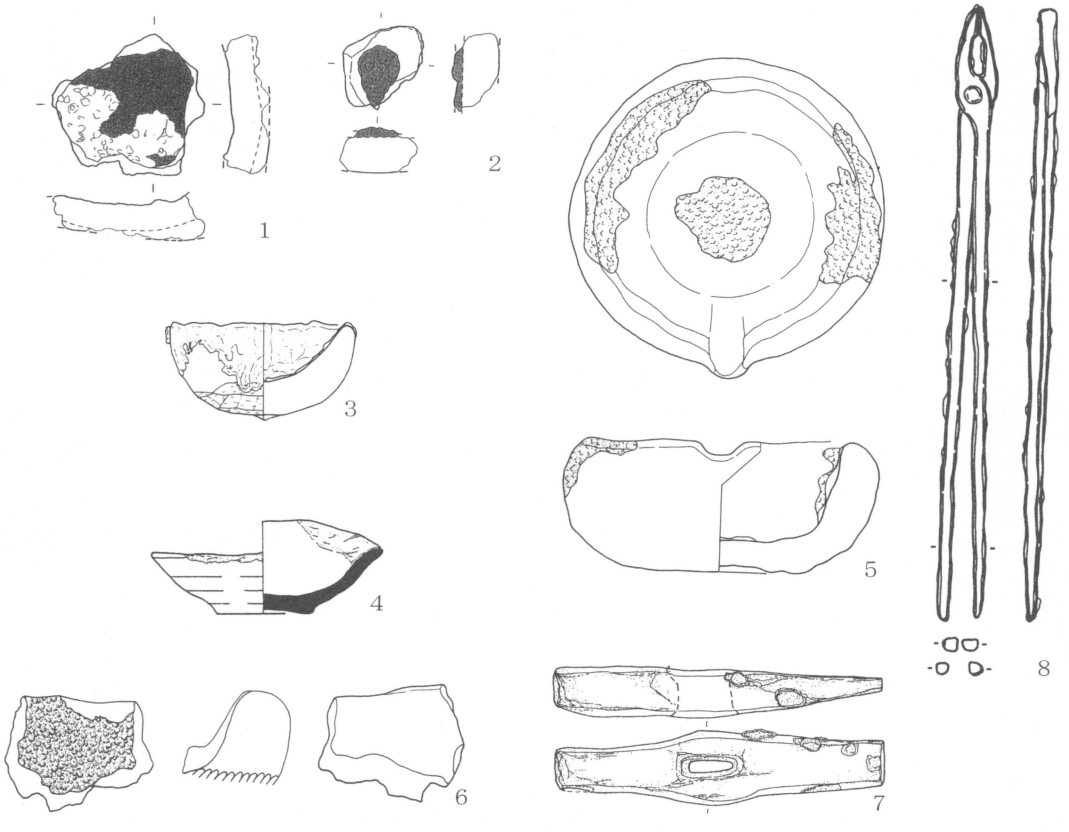
－生産関連遺物の集成－

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

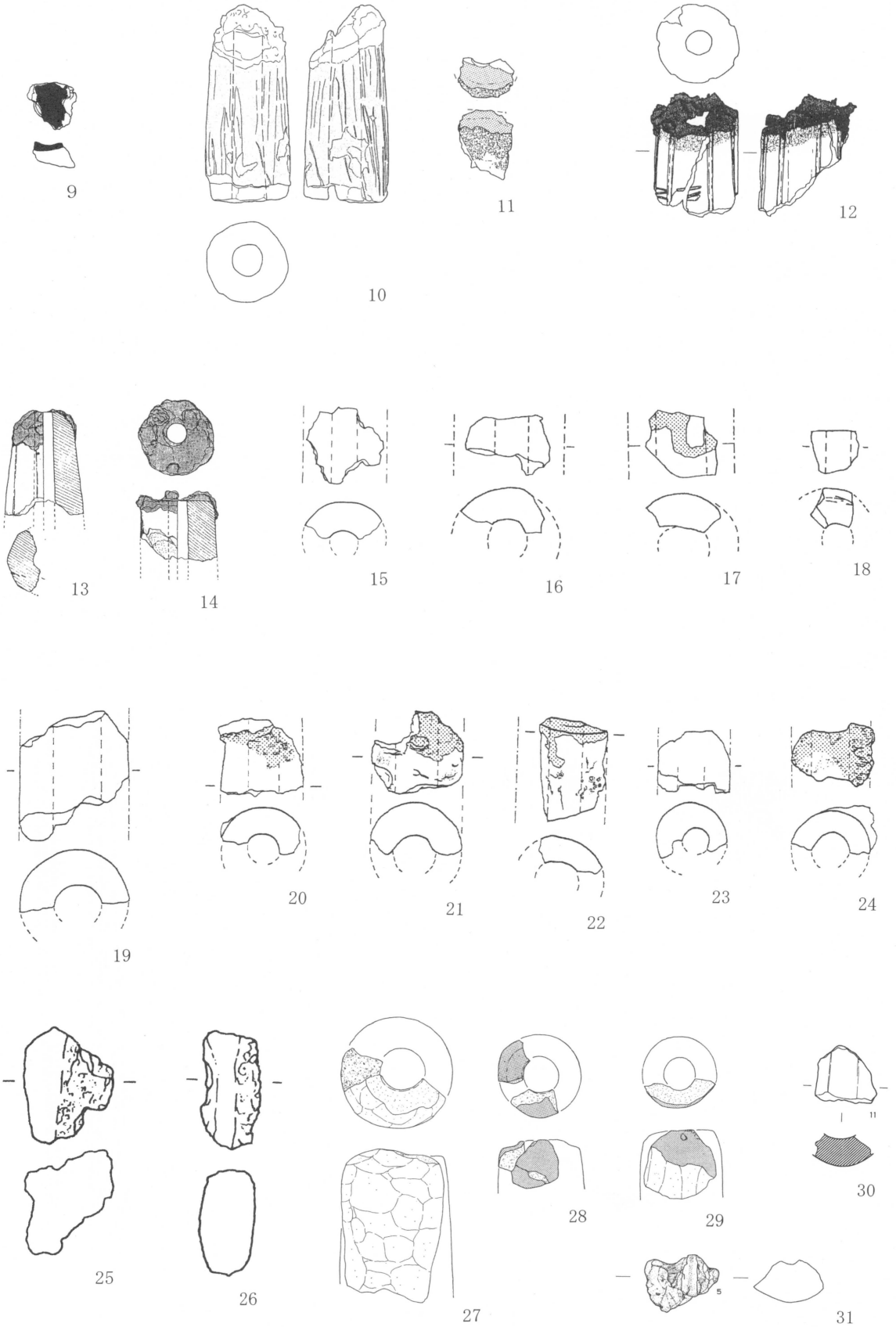
1．はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは以前、「神奈川県内における奈良・平安時代の農具」という題で鉄製農具の集成を行ったことがある。そのときは旧相模国地域出土の鎌、穂摘み具、鋤鍬先について考察を行っている。鉄製品は破損・欠損しても貴重な原料として再利用される確率が高い。たとえ再利用されなくても土器や石器と違い長い年月地中にあると、腐蝕が進み遺存していない場合も多いだろう。そしてそれらがどこで生産され、流通していったのか不明であった。近年の発掘で、平塚市の六ノ域遺跡から鍛冶工房址が発見されたことにより神奈川県内での生産の一端が明らかになった。

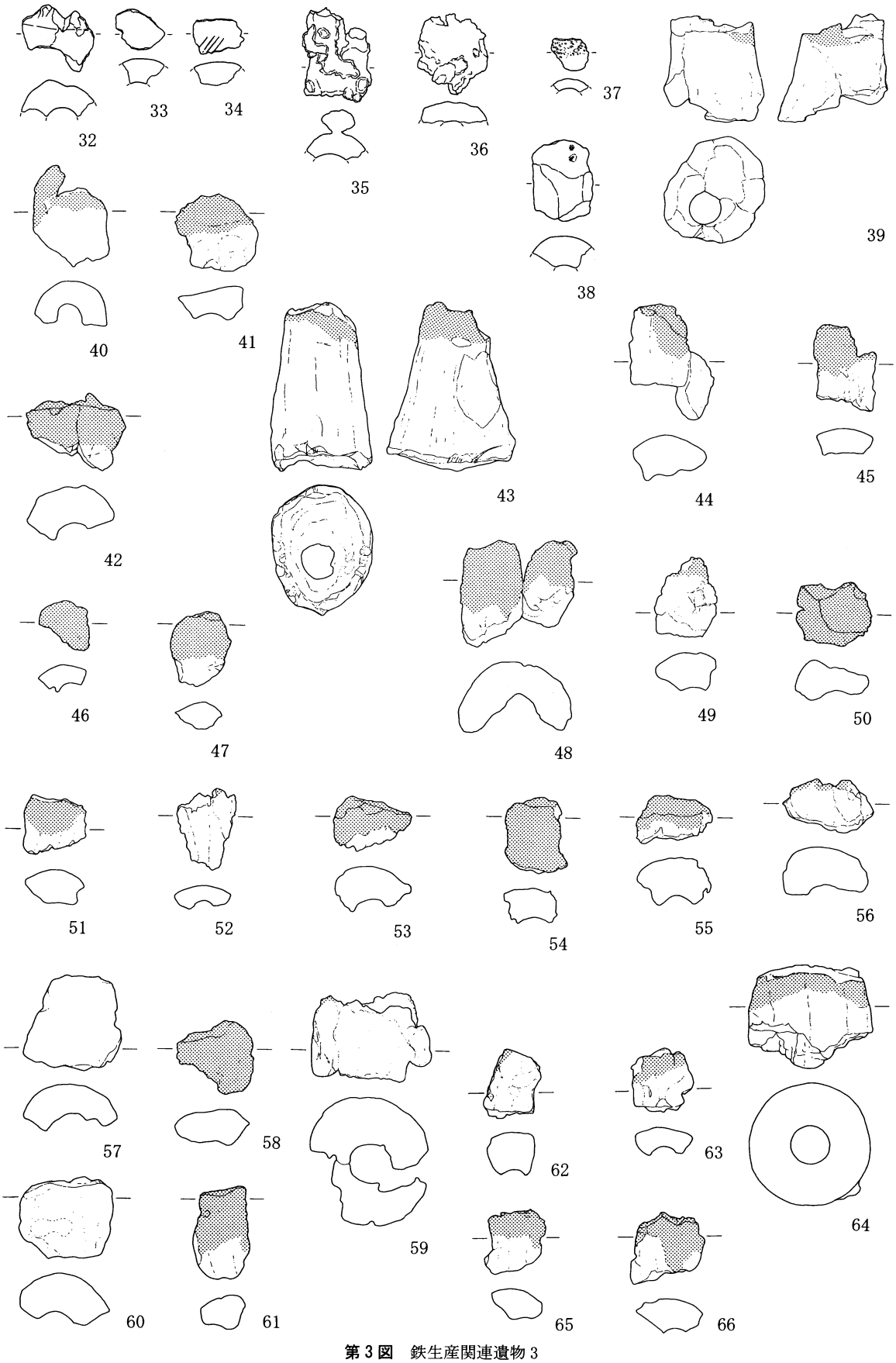
今回、奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、県内各地で出土した鉄生産に関連する遺物の集成を行った。他にどのような規模、施設で生産行為が行われていたのか、地域差があるのか明らかにすることを目指すことにした。鉄滓については主に椀形滓を中心に掲載し、遺構内であっても単独で出土した小鉄滓は除いた。紙面の都合により、横浜市・川崎市の旧武蔵国と発見例の多い平塚市は次年度に送る。表の計測値は報告書に記載が無く、図がある場合は計測した。また、図版はすべて 1/4 に統一した。



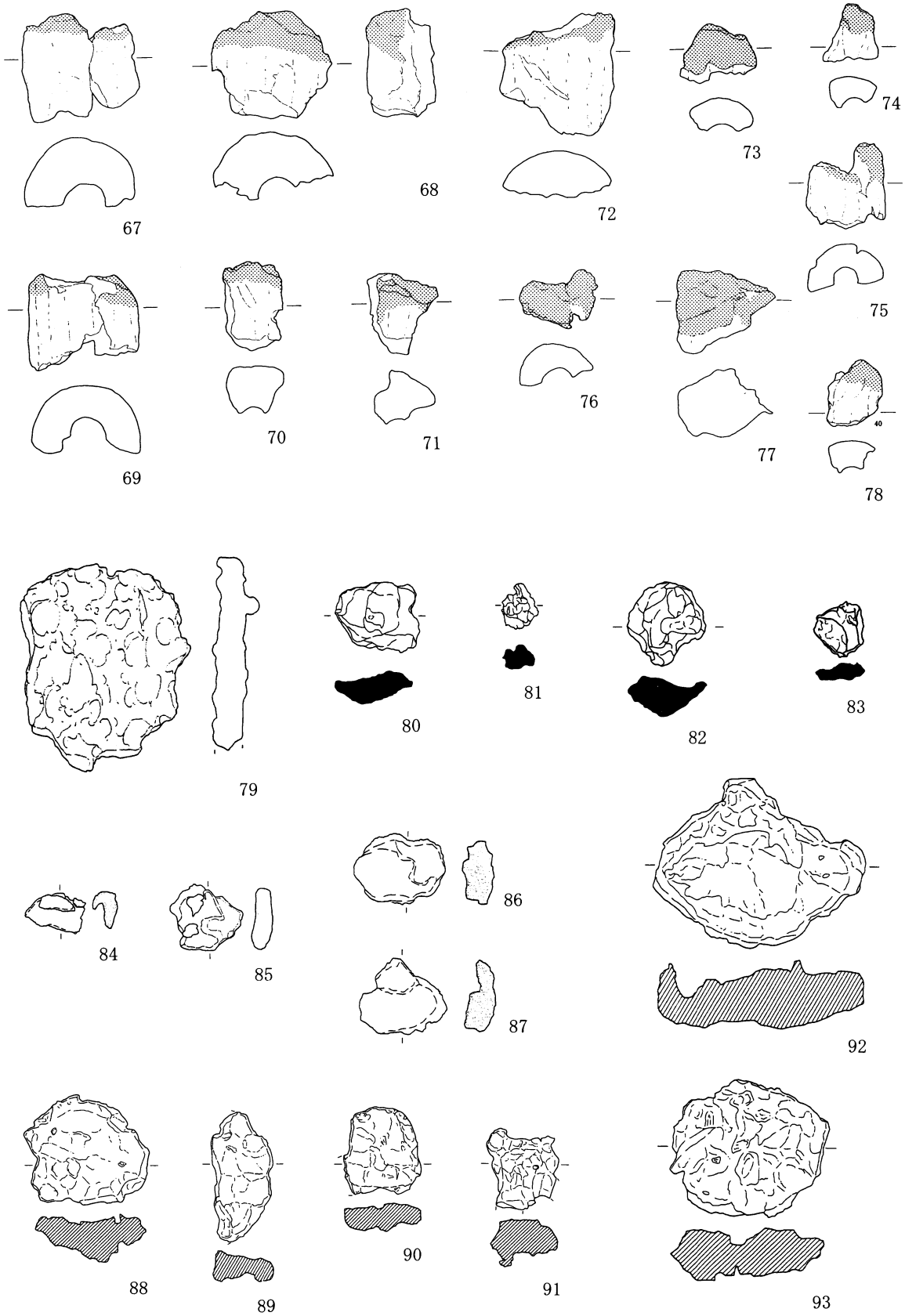
第１図　鉄生産関連遺物１



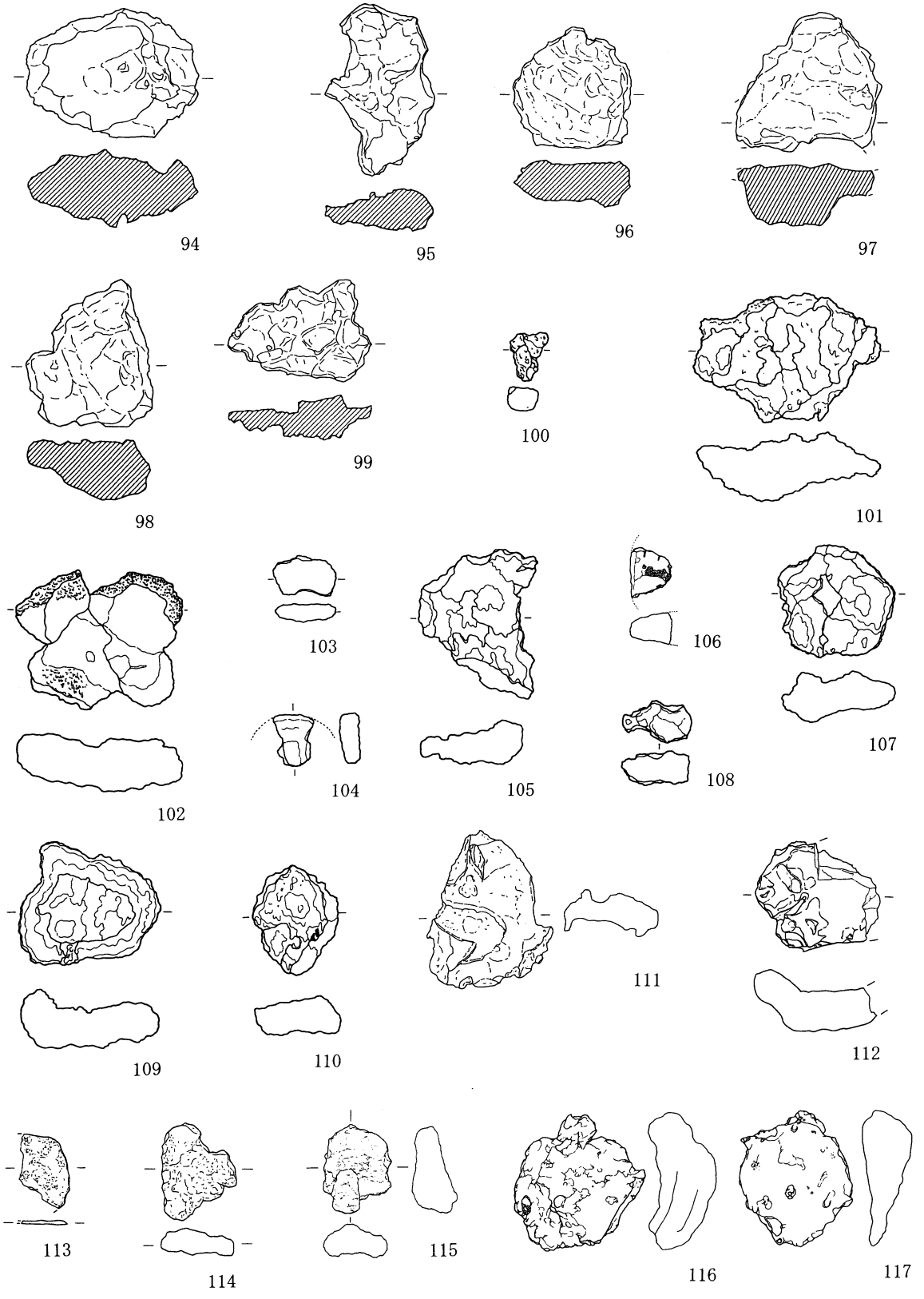
第2図　鉄生産関連遺物2



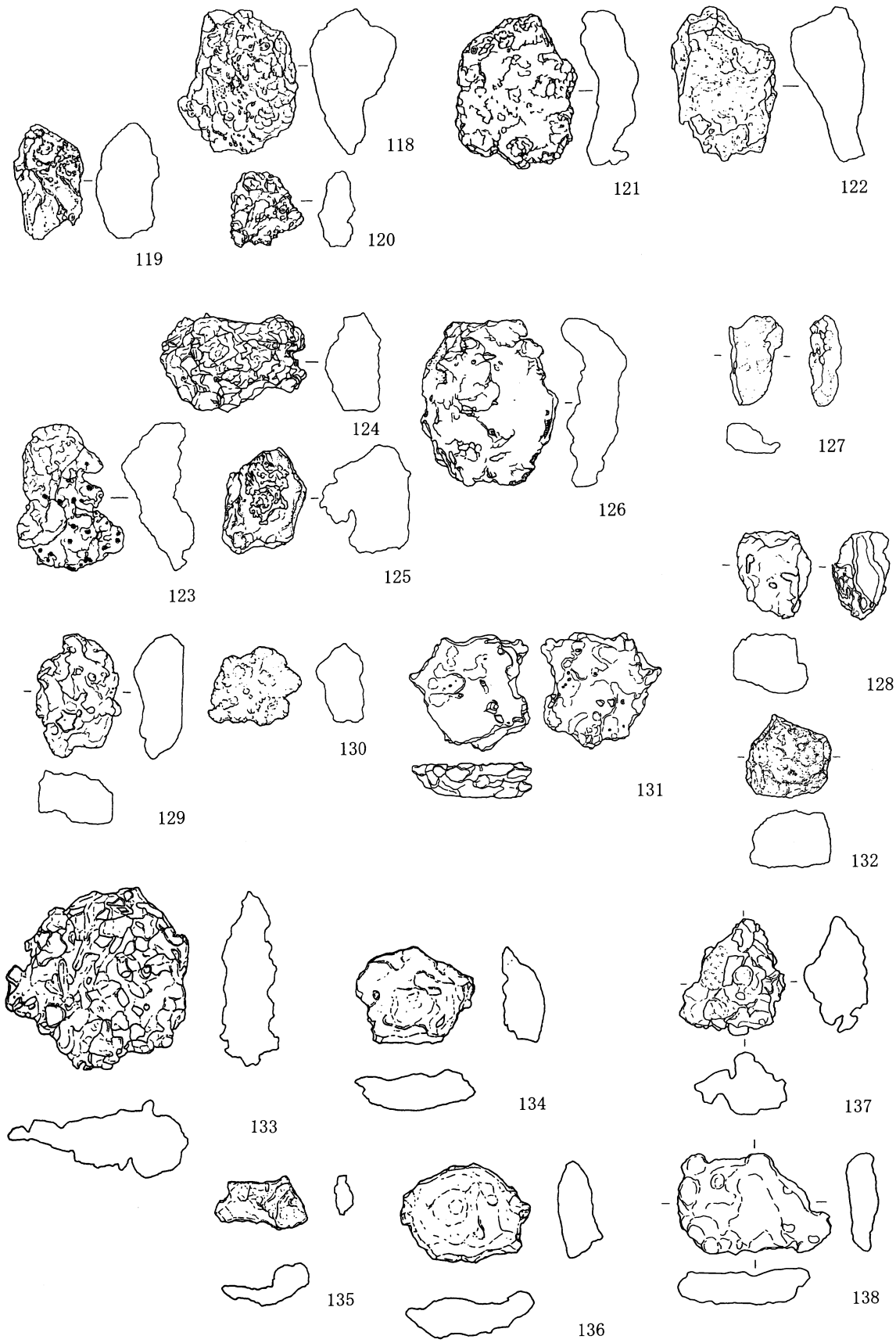
第3図　鉄生産関連遺物3



第4図　鉄生産関連遺物4



第5図　鉄生産関連遺物5



第6図　鉄生産関連遺物6

【坩堝・取瓶】

・横須賀市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
1	坩堝	宋元寺Ｄ地点		１トレンチ		(7.0)	(7.5)	2.2			発泡	横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺Ｃ・Ｄ地点確認調査報告
2	坩堝	宋元寺Ｄ地点		１トレンチ		(4.0)	(4.0)	2.3			発泡、鉄分付着	横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺Ｃ・Ｄ地点確認調査報告

・茅ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
3	坩堝	七堂伽藍跡	２トレンチ 竪穴住居址			9.8	－	5.1			銅精錬　土師器転用	大村浩司2004『下寺尾七堂伽藍跡確認調査概報』
4	取瓶	小出川遺跡群	Ｈ１号川道			12.7	5.3	5.3	139.7		須恵器坏転用	小川岳人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ』

・座間市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
5	取瓶	平和坂遺跡	第２号住居址			14.7	9.6	7.6		８世紀後半～ ９世紀前半	炉あり	小池聡他1993『平和坂遺跡』
6	取瓶	平和坂遺跡	第２号住居址			－	－	－			小破片	小池聡他1993『平和坂遺跡』

【鉄製品】

・厚木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
7	鎚	鳶尾遺跡	55号竪穴住居址	－		13.8	3.2	2.0	10世紀後半		国平健三他1975『鳶尾遺跡』

・相模原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み			
8	カナハシ	田名塩田原遺跡	８号住居址	覆土	完形	34.0	－	－	９世紀後半		滝澤亮他1993『田名塩田原遺跡』

【羽口】

・小田原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
	羽口	永塚下り畑遺跡	Ｈ９号住居址	覆土か	－	－	－	－	－			斎木秀雄他2002『下曽我遺跡・永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点』

・秦野市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
9	羽口	諏訪原遺跡	SD008		1/4以下	(4.3)	4.5	－	－	中世にはいる？	内面に鉄付着。色調：橙色	霜出俊浩他2006『諏訪原遺跡　秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』
10	羽口	鶴巻天神台遺跡 (9902地点)	SI04	南壁際	床面直上	(17.8)	7.7	7.5	2.7	８世紀後半	先端に鉄付着	霜出俊浩他2007『秦野の遺跡』
	羽口	草山遺跡	SI01	覆土中～下層		－	－	－	－	９世紀前半	鉄滓・鞴片多数	安藤文一他1983『草山遺跡№24地点』
11	羽口	草山遺跡	Ｈ２号竪穴住居址			(3.5)	－	－	－	10世紀		村上吉正他2000『草山遺跡』
12	羽口	中里遺跡（№31）	遺構外	－		(8.0)	8.0	8.0	2.6	－	ガラス状の鉄滓の付着。外面に縦方向のＵ字状の浅い溝六ヶ所あり	村上吉正他1997『中里遺跡（№31）・西大竹　上原遺跡（№32）』

・厚木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
13	羽口	鳶尾遺跡	遺構外	-		(5.3)	4.0	4.0	1.0	奈良・平安		国平健三他1975『鳶尾遺跡』
14	羽口	鳶尾遺跡	遺構外	-		(3.3)	3.7	3.7	1.0	奈良・平安		国平健三他1975『鳶尾遺跡』
15	羽口	及川天台遺跡	11号住居址	覆土中層		(5.2)	(5.4)	2.0	-			日野一郎1997『及川天台遺跡』
16	羽口	及川天台遺跡	1号鍛冶址	覆土		(7.2)	-	-	(2.8)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
17	羽口	及川天台遺跡	1号鍛冶址	覆土		-	-	-	-	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
18	羽口	及川天台遺跡	1号鍛冶址	覆土		(6.3)	-	-	(2.2)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
19	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(7.2)	-	-	(3.2)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
20	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(5.6)	-	-	(2.1)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
21	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(6.0)	-	-	(2.8)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
22	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(6.0)	-	-	(2.2)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
23	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(5.0)	-	-	(1.8)	9～10世紀		日野一郎1997『及川天台遺跡』
24	羽口	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		(5.2)	-	-	(2.4)	9～10世紀	タール状に固結	日野一郎1997『及川天台遺跡』
25	羽口	下荻野山中遺跡	遺構外	-		(5.6)	4.2	-	-	-		日野一郎1998『下荻野山中遺跡』
26	羽口	下荻野山中遺跡	遺構外	-		(5.9)	2.0	-	-	-		日野一郎1998『下荻野山中遺跡』

・相模原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
	羽口	橋本遺跡	73号住居址	覆土		-	-	-	-	10世紀第2四半	重量54.2g	土井永好他1986『橋本遺跡』
27	羽口	相原田ノ上遺跡	7号竪穴住居址	覆土		(10.2)	(7.6)	(7.5)	(3.00)	9世紀前半～中ごろ		青木豊他1980『相原田ノ上遺跡』
28	羽口	相原田ノ上遺跡	7号竪穴住居址	覆土		(3.2)	(5.6)	(5.6)	(2.30)	9世紀前半～中ごろ	先端付着物あり	青木豊他1980『相原田ノ上遺跡』
29	羽口	相原田ノ上遺跡	7号竪穴住居址	覆土		(4.6)	5.0	-	-	9世紀前半～中ごろ	先端付着物あり	青木豊他1980『相原田ノ上遺跡』

・海老名市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
	羽口	海老名本郷	19号住居址			-	-	-	-			合田芳正ほか1987『海老名本郷（Ⅲ）』
30	羽口	海老名本郷	42号住居址			-	-	-	-			合田芳正ほか1987『海老名本郷（Ⅲ）』
31	羽口	海老名本郷	ＭＰＮ８号住居址			(3.2)	(5.0)	-	-			合田芳正ほか1988『海老名本郷Ⅱ』

・茅ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
32	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址			(4.6)	(4.9)	2.0	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
33	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址			(2.8)	(3.3)	1.7	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
34	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址			(2.4)	(3.4)	1.6	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
35	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址			(6.8)	(5.1)	4.5	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
36	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址			(5.8)	(5.0)	1.4	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
37	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址			(2.3)	(2.7)	0.7	-	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
38	羽口	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｈ１号鍛冶炉			(5.5)	(4.3)	2.0	-	8世紀以降		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』

・鎌倉市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
	羽口	今小路西遺跡	古代層			-	-	-	-	古代		鎌倉市教育委員会1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書　第１分冊本文編』

・逗子市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
	羽口	池子遺跡群	第３号溝状遺構			-	-	-	-			

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）				遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み	孔径			
39	羽口	池子遺跡群		CⅧ62区		(7.0)	(6.3)	(7.2)	2.2		182.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
40	羽口	池子遺跡群		CⅧ62区		(7.2)	5.0	(3.0)	1.7		63.9g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
41	羽口	池子遺跡群		BⅧ80区		(5.3)	(5.6)	(2.8)	-		56.6g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
42	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(5.4)	(6.5)	(3.6)	-		73.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
43	羽口	池子遺跡群		CⅧ71区		(11.5)	6.6	8.7	2.2		337.4g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
44	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(7.9)	(5.7)	(3.4)	-		68.7g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
45	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(5.9)	(4.3)	(1.8)	-		35.7g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
46	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(2.8)	(3.9)	(1.6)	-		12.5g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
47	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(5.0)	(4.1)	(2.1)	-		34.2g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
48	羽口	池子遺跡群		BⅧ81区		(7.3)	(7.8)	(5.0)	2.0		170.5g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
49	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(5.4)	(4.3)	(2.6)	-		41.2g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
50	羽口	池子遺跡群		CⅧ81区		(4.9)	(5.1)	(2.3)	-		48.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
51	羽口	池子遺跡群		CⅧ81区		(4.2)	(4.4)	(2.2)	-		30.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
52	羽口	池子遺跡群		CⅧ81区		(5.4)	(4.2)	(1.6)	-		20.4g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
53	羽口	池子遺跡群		BⅧ90区		(4.1)	(5.3)	(2.8)	-		37.5g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
54	羽口	池子遺跡群		BⅧ90区		(5.4)	(4.3)	(2.4)	-		50.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
55	羽口	池子遺跡群		BⅧ90区		(4.3)	(5.2)	(2.7)	-		41.7g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
56	羽口	池子遺跡群		BⅧ95区		(3.6)	(6.2)	(3.1)	-		52.9g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
57	羽口	池子遺跡群		CⅧ91区		(6.4)	(6.7)	(3.6)	-		115.4g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
58	羽口	池子遺跡群		BⅧ99区		(5.2)	(5.2)	(2.8)	-		40.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
59	羽口	池子遺跡群		BⅧ89区		(6.5)	(8.2)	8.4	3.2		229.1g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
60	羽口	池子遺跡群		BⅧ100区		(5.5)	(6.5)	(3.2)	-		98.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
61	羽口	池子遺跡群		BⅧ100区		(6.3)	(4.1)	(2.3)	-		54.6g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
62	羽口	池子遺跡群		BⅨ９区		(4.7)	(4.0)	(3.1)	-		40.0g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
63	羽口	池子遺跡群		BⅨ９区		(4.2)	(4.3)	(1.7)	-		24.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
64	羽口	池子遺跡群		BⅧ100区		(7.2)	8.5	8.5	2.6		382.0g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
65	羽口	池子遺跡群		BⅨ10区		(4.0)	(4.5)	(2.2)	-		31.4g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
66	羽口	池子遺跡群		BⅨ28区		(5.0)	(5.3)	(2.9)	-		48.6g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
67	羽口	池子遺跡群		BⅨ28区		(7.6)	(7.5)	(4.2)	2.7		143.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
68	羽口	池子遺跡群		BⅨ39区		(7.5)	(8.2)	(4.5)	2.6		178.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
69	羽口	池子遺跡群		BⅨ20区		(6.3)	(7.4)	(4.6)	2.3		152.0g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
70	羽口	池子遺跡群		BⅨ28区		(5.9)	(4.0)	(2.9)	-		60.1g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
71	羽口	池子遺跡群		BⅨ39区		(5.6)	(4.1)	(3.7)	-		53.5g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
72	羽口	池子遺跡群		CⅨ51区		(8.5)	(7.7)	(3.1)	-		140.2g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
73	羽口	池子遺跡群		BⅨ50区		(4.0)	(5.2)	(2.4)	-		34.7g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
74	羽口	池子遺跡群		CⅨ68区		(3.8)	(3.8)	(2.0)	-		16.6g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
75	羽口	池子遺跡群		CⅨ67区		(6.2)	5.3	(3.1)	1.6		55.8g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
76	羽口	池子遺跡群		CⅨ67区		(4.4)	(5.2)	(2.7)	-		26.4g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
77	羽口	池子遺跡群		CⅨ90区		(5.9)	(6.8)	(3.9)	-		84.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
78	羽口	池子遺跡群		CⅨ79区		(4.4)	(3.7)	(1.9)	-		27.3g	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』

【鉄滓】

・小田原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
79	鉄滓	千代南原遺跡（第ＸＶ地点）	遺構外	-	-	6.9	5.6	1.9	-	-		滝澤亮他2008『千代南原遺跡第ＸＶ地点・千代南原遺跡第ⅩⅨ地点』

・秦野市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
80	鉄滓	諏訪原遺跡	SI001竪穴住居址	覆土	-	4.1	3.3	2.0	26.0	古墳時代後期以降		霜出俊浩他2006『諏訪原遺跡　秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
81	鉄滓	諏訪原遺跡	SI001竪穴住居址	覆土		7.0	6.1	2.3	153.0		発泡	霜出俊浩他2006『諏訪原遺跡　秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』
82	鉄滓	諏訪原遺跡	SD001	覆土		5.5	5.4	2.6	84.0		発泡	霜出俊浩他2006『諏訪原遺跡　秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』
83	鉄滓	諏訪原遺跡	PIT097	覆土		3.8	3.3	1.0	15.0		発泡	霜出俊浩他2006『諏訪原遺跡　秦野市今泉諏訪原土地区画整理事業に伴う調査報告』
84	鉄滓	鶴巻天神台遺跡（9902地点）	SI03	覆土		4.9	3.2	2.0	25.0			霜出俊浩他2007『秦野の遺跡』
85	鉄滓	鶴巻天神台遺跡（9902地点）	SI04	覆土か		5.8	5.8	1.7	78.0	8世紀後半		霜出俊浩他2007『秦野の遺跡』
86	鉄滓	小南遺跡	SP20	覆土か		5.8	8.5	2.8	210.0	時期不詳		霜出俊浩他2007『秦野の遺跡』
87	鉄滓	小南遺跡	遺構外	-		6.5	8.1	3.0	190.0	-		霜出俊浩他2007『秦野の遺跡』
88	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		7.2	7.9	2.9	177.8		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
89	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		8.6	4.1	2.1	100.6		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
90	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		5.6	5.1	1.9	77.8		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
91	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		5.3	4.5	3.1	60.1		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		4.4	3.4	2.6	45.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		4.4	3.3	2.6	43.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		5.7	3.9	2.7	42.0		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		4.5	3.2	2.7	39.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		4.5	2.8	2.1	34.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		4.1	3.5	2.0	33.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.9	3.8	2.1	29.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		5.9	2.9	1.5	27.1		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.6	2.5	2.0	23.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		-	-	-	23.4		破損品	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.6	3.0	2.2	23.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		3.3	2.9	1.4	22.0		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	新カマド		5.1	3.4	1.8	21.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		3.0	2.9	1.6	21.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.3	2.8	2.7	20.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		2.8	2.6	1.6	20.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		2.9	2.9	1.6	18.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.3	2.3	1.9	17.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.7	3.3	2.0	17.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	旧カマド		3.6	2.4	2.5	16.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		2.6	1.9	1.9	15.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.6	2.4	2.1	15.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.6	2.6	1.3	14.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.1	3.2	1.9	13.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		3.4	2.4	1.5	13.6		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		3.2	2.1	1.1	12.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.5	2.2	1.6	12.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.3	2.2	1.4	11.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		-	-	-	11.2		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.5	2.2	1.4	10.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土上層		2.9	2.8	1.7	10.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.6	2.3	1.5	9.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.6	1.7	1.5	8.9			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		3.0	2.5	1.4	8.5		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.4	1.6	1.6	7.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.1	1.6	1.6	7.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	新カマド		1.8	1.8	1.5	6.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.8	1.4	1.4	5.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.0	1.4	1.3	5.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.0	0.9	0.8	2.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.2	1.7	6.2	2.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	1号竪穴住居	覆土		2.1	1.6	1.3	1.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
92	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			8.5	10.4	3.3	232.2		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
93	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			6.9	7.8	2.6	149.2		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
94	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			6.4	8.4	3.5	212.9		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
95	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			8.4	5.4	2.0	79.2		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
96	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			5.9	5.8	2.1	127.9		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
97	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			7.6	6.8	3.0	137.1		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
98	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			7.3	6.1	2.8	152.5		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
99	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居			5.0	7.1	2.1	66.9		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		8.4	5.8	2.4	176.6		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		8.8	4.0	2.7	99.2		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	カマド		7.9	4.6	2.0	84.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		5.4	4.4	2.1	77.9		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.2	3.3	2.2	65.6		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		6.1	3.5	2.8	65.4			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		5.4	4.0	2.6	64.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.5	3.7	3.4	59.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		5.3	5.1	2.1	59.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.9	3.7	1.9	59.4		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		7.0	4.3	1.9	58.4		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.7	3.6	2.6	52.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		6.2	3.1	1.7	50.2		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	カマド掘方		4.5	2.8	2.4	48.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.9	3.4	2.7	45.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.6	2.9	1.9	39.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.6	2.9	2.6	36.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.1	3.6	2.9	34.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.9	3.2	1.5	32.5		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		6.0	2.8	1.7	28.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.5	2.9	2.2	28.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		－	－	－	25.9		破損品	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.4	3.3	1.9	23.3		椀形滓	村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.4	3.1	1.7	21.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		4.7	3.3	2.1	19.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.6	2.9	1.5	19.7			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.8	2.3	1.8	19.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.3	3.1	2.3	19.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.9	2.4	1.9	18.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.7	2.7	1.4	16.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	床下		3.7	3.0	1.7	15.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.4	2.9	1.7	15.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	－		3.3	2.3	1.8	15.0			村上吉正他2000『草山遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.6	2.4	1.8	15.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.4	1.9	1.5	12.1			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.3	2.1	2.4	11.9			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.3	2.0	1.4	10.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.8	3.2	1.6	10.6			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.0	1.7	1.3	10.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		3.1	2.4	1.8	9.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.8	1.7	1.2	6.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.4	1.5	1.3	5.9			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.4	2.1	1.4	5.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		1.9	1.3	0.5	3.5			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.5	1.4	1.6	3.2			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.0	1.4	1.1	2.8			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		2.2	1.8	1.4	2.3			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		1.8	1.4	0.7	1.9			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		1.7	1.5	1.1	1.0			村上吉正他2000『草山遺跡』
	鉄滓	草山遺跡	2号竪穴住居	覆土		1.9	1.3	0.9	0.8		椀形滓・他鉄滓21点中8点椀形	村上吉正他2000『草山遺跡』

・大磯町

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	祇園塚遺跡（D地点）	SK02	復土か		－	－	－	－	－		鈴木一夫他1993『発掘調査の記録Ⅱ－大磯町文化財調査報告書　第38集－』
	鉄滓	祇園塚遺跡（D地点）	SD01	復土か		－	－	－	－	9～10世紀		鈴木一夫他1993『発掘調査の記録Ⅱ－大磯町文化財調査報告書　第38集－』

・伊勢原市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
100	鉄滓	天王原遺跡	1号住居址	復土下層		2.3	1.9	1.1	7.3	9世紀後半		後藤喜八郎1996『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
101	鉄滓	天王原遺跡	7号住居址	復土上層		9.0	6.2	3.0	148.9	8世紀後半～9世紀	椀形滓	後藤喜八郎1997『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
102	鉄滓	天王原遺跡	10号住居址	復土上層		8.2	6.9	2.5	201.6	8～9世紀	椀形滓	後藤喜八郎1998『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
103	鉄滓	天王原遺跡	43号住居址	復土表層		3.2	1.7		5.6	9世紀前半	椀形滓	後藤喜八郎1999『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
104	鉄滓	天王原遺跡	43号住居址	復土下層		2.5	2.1	4.6	6.9	9世紀前半	椀形滓	後藤喜八郎2000『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
105	鉄滓	天王原遺跡	53号住居址	貼り床		7.4	6.0	2.2	88.0	9世紀後半	椀形滓	後藤喜八郎2001『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
106	鉄滓	天王原遺跡	79号住居址	床直		3.2	2.7	2.0	23.5	9世紀中～後半	椀形滓　木質付着	後藤喜八郎2002『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
107	鉄滓	天王原遺跡	79号住居址	復土中層		5.6	5.4	2.5	60.8	9世紀中～後半	椀形滓	後藤喜八郎2003『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
108	鉄滓	天王原遺跡	103号住居址	貼り床		3.4	2.0	1.5	12.3	9世紀後半		後藤喜八郎2004『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
109	鉄滓	天王原遺跡	29号掘立柱建物P4	復土		6.8	6.1	2.9	98.3	8世紀後半	椀形滓	後藤喜八郎2005『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
110	鉄滓	天王原遺跡	ピット555	復土		5.4	4.3	1.9	45.0	－	椀形滓　木質付着	後藤喜八郎2006『天王原遺跡発掘調査報告書第Ⅲ地点』
111	鉄滓	弥杉・上ノ台遺跡	3号住居址	復土		7.7	6.1	1.9		7世紀後半～		田尾誠敏1995『弥杉・上ノ台遺跡』
112	鉄滓	下糟屋・丸山遺跡	H5号竪穴住居址	復土	1/4	6.1	5.4	3.0	95.0	古墳後期末～奈良初頭	椀形滓	渡辺外他2010『下糟屋・丸山遺跡（第6地点）』
113	鉄滓	石田・羽黒遺跡	5号住居址	復土		4.8	3.0	4.0	－	10世紀後半		降屋順子1998『石田・羽黒遺跡　Ⅱ』
114	鉄滓	石田・羽黒遺跡	5号住居址	復土		6.6	4.9	1.8		10世紀後半		降屋順子1998『石田・羽黒遺跡　Ⅱ』
115	鉄滓	石田・羽黒遺跡	6号掘立柱建物址	覆土		8.0	6.0	3.6	－			降屋順子1998『石田・羽黒遺跡　Ⅱ』

・厚木市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
116	鉄滓	及川天台遺跡	11号住居址	覆土中層		8.8	8.5	3.8	－		1250g出土	日野一郎他1997『及川天台遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
117	鉄滓	及川天台遺跡	11号住居址	覆土中層		9.1	7.4	3.4	－		1250g 出土	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
118	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	覆土		9.8	8.0	5.8	350.0	－	発泡状を呈す	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
119	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	覆土		7.8	4.7	4.3	150.0	－	発泡状を呈す	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
120	鉄滓	及川天台遺跡	12号住居址	覆土		5.1	5.0	2.5	50.0	－	タール状に固結	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
121	鉄滓	及川天台遺跡	1号鍛冶址	覆土		10.4	8.4	3.2	280.0	－	椀形滓	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
122	鉄滓	及川天台遺跡	1号鍛冶址	覆土		10.4	7.2	4.9	305.0	－	椀形滓	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
123	鉄滓	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		10.0	7.0	4.7	175.0	－	アメーバ状に小瘤を有す。底面に木質小片付着	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
124	鉄滓	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		6.8	9.9	3.8	155.0	－	鍾乳石状を呈す	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
125	鉄滓	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		7.2	5.3	6.0	179.0	－	鍾乳石状を呈し、炭化物の付着あり	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
126	鉄滓	及川天台遺跡	2号鍛冶址	覆土		11.3	9.3	4.5	320.0	－	椀形滓。ガラス質部分、発泡部分あり	日野一郎他1997『及川天台遺跡』
127	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	3号住居址	覆土		5.9	3.5	－	48.0			日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
128	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	7号住居址	覆土		5.8	5.0	－	95.0			日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
129	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	15号住居址	覆土		8.3	5.1	－	160.0			日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』
130	鉄滓	及川宮ノ西遺跡	遺構外			－	－	－	150.0			日野一郎他1996『及川宮ノ西遺跡』

・清川村

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
131	鉄滓	北原遺跡	H2号竪穴住居址	復土	完形	6.1	5.4	1.9	68.4	9世紀中～		市川正史他1997『宮ヶ瀬遺跡群IX』

・海老名市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	海老名本郷遺跡	19号住居址			－	－	－	－	10世紀後半		合田芳正他1987『海老名本郷（Ⅲ）』
	鉄滓	海老名本郷遺跡	20号住居址			－	－	－	－			合田芳正他1987『海老名本郷（Ⅲ）』
	鉄滓	海老名本郷遺跡	42号住居址			－	－	－	－	9世紀後半		合田芳正他1987『海老名本郷（Ⅲ）』
132	鉄滓	尼寺北方遺跡	1号住居址	覆土		5.5	5.5	3.7	172.0	9世紀前半		千田利明2009『尼寺北方遺跡第36次調査』

・茅ヶ崎市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
133	鉄滓	七堂伽藍跡	34号竪穴住居址	覆土		12.3	12.9	5.2	551.4	8世紀中～後半		小川岳人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ』
134	鉄滓	七堂伽藍跡	34号竪穴住居址	覆土		6.5	8.1	2.9	－	9世紀中～後半		小川岳人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ』
135	鉄滓	七堂伽藍跡	36号竪穴住居址	覆土		3.6	6.3	2.3	59.6	8世紀前半		小川岳人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ』
136	鉄滓	七堂伽藍跡	36号竪穴住居址	覆土		6.6	8.8	3.0	151.4	8世紀前半		小川岳人2010『小出川河川改修事業関連遺跡群Ⅲ』
	鉄滓	七堂伽藍跡	H1号竪穴住居址	覆土		－	－	－	－	9世紀前半	椀形滓	大村浩司他2005『下寺尾七堂伽藍跡の調査』
	鉄滓	七堂伽藍跡	H1号竪穴住居址	覆土		－	－	－	－	9世紀前半	椀形滓	大村浩司他2005『下寺尾七堂伽藍跡の調査』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		8.0	6.6	3.1	126.4	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		7.0	5.5	3.0	105.4	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		7.3	6.1	2.6	73.5	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		6.5	5.2	1.4	47.5	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		6.4	4.3	3.2	26.6	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		3.8	2.8	1.6	14.0	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		3.6	1.8	1.0	7.1	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		－	－	－	6.8	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		2.4	1.9	1.6	5.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		3.8	2.4	1.0	5.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』
	鉄滓	西方A遺跡	H1号竪穴住居址	覆土		3.4	1.5	1.3	3.2	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方A遺跡』

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址	覆土		2.0	2.3	0.8	2.4	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址	覆土		－	－	－	1.5	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址	覆土		4.3	2.5	1.6	1.3	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ１号竪穴住居址	覆土		1.9	1.5	1.3	1.3	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		9.2	8.0	7.0	288.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		9.4	6.4	7.5	265.8	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		8.6	5.1	3.3	133.2	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		7.6	7.0	2.7	74.5	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		6.3	5.7	1.7	66.1	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		6.0	4.7	4.1	50.6	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		4.8	3.3	2.9	50.0	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		3.6	3.5	25.2	33.6	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		5.7	3.4	1.7	31.5	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	床直		4.8	4.4	3.4	25.9	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		5.8	4.8	1.6	24.0	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		5.0	3.0	1.4	22.0	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		4.5	3.6	1.9	21.6	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		4.2	3.4	2.4	19.5	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		3.7	2.6	2.5	16.9	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		3.0	2.6	1.4	9.4	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		3.1	2.4	1.7	7.1	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.8	1.5	0.8	5.4	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.6	1.7	1.3	5.2	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.0	1.7	1.0	3.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.2	1.8	1.0	3.7	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.5	1.5	1.1	3.4	8世紀第2四半期	椀形滓	村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.5	1.6	0.9	2.8	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』
	鉄滓	西方Ａ遺跡	Ｈ２号竪穴住居址	覆土		2.1	2.0	1.2	0.4	8世紀第2四半期		村上吉正他2003『下寺尾西方Ａ遺跡』

・横須賀市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
137	鉄滓	宗元寺	１トレンチ			7.0	6.5	3.8	103.7			横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺Ｃ・Ｄ地点確認調査報告
138	鉄滓	宗元寺	１トレンチ			6.2	9.4	2.7	146.0			横須賀市教育委員会2007『横須賀市文化財調査報告書第44集』宗元寺Ｃ・Ｄ地点確認調査報告

・逗子市

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法量（cm）			重量（g）	遺構時期	備考	文献名
						長さ	幅	厚み				
	鉄滓	池子遺跡群		ＢⅧ89区		－	－	－	－		40点1.02kg	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』
	鉄滓	池子遺跡群		ＢⅨ28区		－	－	－	－		14点1.6kg	長谷川厚他1999『池子遺跡群Ⅷ』

神奈川の中世城館（3）

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは「神奈川の中世城館」と題し、県内城館の集成を行っている。前回は、後北条氏の本城である小田原城を取り上げ、堀の規模・形態・年代に関する基礎集成を行った。今回は、基礎集成の対象を県内全域へ広げ、今後の検討につなげることを目的としている。

例　言

1．本集成は、前回の基礎集成に基づき、対象範囲を県内の中世城館に広げたものである。検討対象としたのは、本プロジェクトの「神奈川の中世城館（1）」で行った発掘調査が実施されている中世城館である。また、この集成時から新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡と遺漏があった遺跡については、今回検討対象に追加している。なお、今年度（平成22年度）に刊行された報告書については、入手可能な範囲で追加を行っている。

2．集成は、報告書において堀と報告されるもの、また堀の機能が推測されている溝なども含んでいる。基本的には中世の堀を対象としているが、古代から続く堀や近世へと続く堀も対象としている。

3．集成表の項目は基本的に前回・前々回と同様であるが、変更した個所については以下のとおりである。

（1）遺構名：原則的に発掘調査報告書で使用されている名称を使用した。同じ遺構で異なる地点を発掘調査している場合は、調査区名・トレンチ名を追加している。

（2）傾斜角：法面の傾斜角が異なる場合は分けて記した。法面が曲輪の内側・外側に対応する場合は、その旨を記入し、不明な場合は方角で記した。

（3）文献番号：「神奈川の中世城館（1）」に対応する。

4．新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡と遺漏があった遺跡については概要を巻末に記した。項目は「神奈川の中世城館（1）」に準じ、参考文献は以下のとおりである。

参考文献

117　依田亮一ほか　2007『湘南新道関連遺跡Ⅰ－大会原遺跡・六ノ域遺跡－』かながわ考古学財団調査報告 208
118　馬淵和雄　1986『相模玉縄城』鎌倉考古学研究所報告第3集　鎌倉考古学研究所
119　宍戸信悟ほか　2003『上ノ町遺跡』かながわ考古学財団調査報告 143
120　冨永樹之ほか　2009『上ノ町遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 232
121　近藤英夫・石丸熙・野口浩史　2003『津久井城の調査　1996-2001』1　津久井城遺跡調査会・津久井町教育委員会
122　近藤英夫・野口浩史・佐藤昌彦・米山あかね　2005『津久井城の調査　2002-2004』2　津久井城遺跡調査会・津久井町教育委員会
123　近藤英夫・佐藤昌彦・新田宏子・上本進二　2009『津久井城の調査　2006-2008』3　相模原市教育委員会
124　畠中俊明・澁谷正信・櫻井真貴ほか　2010『津久井城跡馬込地区』かながわ考古学財団調査報告 249
125　滝沢亮・小池聡・細井佳浩ほか　1997『神明若宮地区内遺跡』　神明若宮地区内遺跡発掘調査団
126　香川達郎・北平朗久　2009『丸山遺跡第Ⅳ地点発掘調査報告書』　玉川文化財研究所
127　北平朗久・香川達郎　2010『丸山遺跡第5地点発掘調査報告書』　玉川文化財研究所
128　渡辺外・大塚健一・能芝勉・林雅恵　2010『下糟屋・丸山遺跡（第6地点）』かながわ考古学財団調査報告 260
129　加藤拓也・砂田佳弘・藤波啓容　2009『河村城跡』神奈川県山北町文化財調査報告3　神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

横浜市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
茅ヶ崎城	茅ヶ崎城址	6Ｔ内確認	5.8×2.0×2.5	－	東：60 西：65	×	×	－	国産陶器、板碑	14世紀代		1
		8Ｔ内確認	2.3×－×1.9	－	80	○	×	－				
		10Ｔ内確認	4.0×1.2×－	－	75	×	×	－				
		14Ｔ内確認	5.4×3.9×1.6	－	70	×	×	－				
		22Ｔ内確認	6.4×3.3×4.5	－	北：70 南：83	×	×	－				
		23Ｔ内確認	3.8×2.2×2.5	－	80	×	×	－				2
		24Ｔ内確認	4.9×3.7×3.2	－	69	○	×	－				
		25Ｔ内確認	3.3×1.1×3.0	－	80	×	×	－	常滑甕、瀬戸灰釉皿・擂鉢、かわらけ	15世紀後半～16世紀		
		北壁外周部西堀	3.3×2.5×1.0	箱	内：70 外：60～70	×	○	1－B	青磁碗、常滑甕、かわらけ	15～16世紀		3
		北郭外周部北堀	3.8×1.7×2.5	箱	内：70 外：60～70	×	○	1－B				
		西郭南堀		箱	内：55 外：60	○	○	1－B				
		西郭北堀	4.0×2.0×(1.3)	箱	内：50 外：65	○	○	1－B				
		中郭中堀	4.0×1.1×5.0	箱	－	○	×	－				
		H15年度調査区	(4.2)×(2.7)×(1.6)	箱	70	×	×	－				4
		H17年度調査区Ａ区	(4.0)×(0.6)×(1.0)	箱	－	×	×	－				
		H17年度調査区Ｂ区	(5.5)×3.0×4.25	箱	70	×	×	－	かわらけ			
		H17年度調査区Ｃ区	2.9～3.8×1.1～1.35×4.25	箱	70	×	×	－	かわらけ			

横須賀市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
衣笠城	衣笠城跡		－×－×－	－	－	－	－	－			土塁・堀切のみの確認。詳細不明。	8
奴田城	吉井城山	ＳＤ０１	4.4×2.2×1.7	箱	55	×	×	－				17
		ＳＤ０２	5.7×3.1×1.6	箱	45	×	×	－				

平塚市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
岡崎城	岡崎城跡		－×－×－	－	－	－	－	－			確認調査のため詳細不明	18
	桜畑遺跡	館址	1.0～1.2×0.5～1.0×0.2～0.3	箱	80	－	－	－			館の区画溝が北辺を除く３辺が検出。	21
	御所ヶ谷遺跡	７号溝	西方1.8～2.2、東方2.4～2.5 ×西方0.3、東方1.5～1.6 ×西方1.4、東方1.0	箱	西：45 東：60	－	－	－	かわらけ、古瀬戸鉄釉瓶子、常滑甕、石鍋	鎌倉から室町時代		27
		10号溝	1.6×0.3～0.4×0.7	箱	50	－	－	－	常滑甕	13世紀後半～14世紀前半		
片岡砦(城)	片岡遺跡	１Ｔ	1.5×0.5×1.2	箱	80	－	－	－				28
		２Ｔ	1.8×0.5×1.1	箱	60	－	－	－				
		ＳＤ０１	2.2×0.5×0.9～2.2	箱	55	－	－	－				29
		１号縦堀状遺構	4.8×1.7×0.7	箱	－	－	－	－				
真田城	真田・北金目遺跡群	10区堀ＳＤ００１	東側1.4～2.3、西側2.0～3.4× 東側0.4～1.2、西側1.0～1.9×2.3	箱	50～66	－	－	－	かわらけ、瀬戸美濃擂鉢、漆椀、小柄	16世紀代		36
		10区堀ＳＤ００２	3.9～4.0×2.0～2.2×2.1	箱	65	－	－	2－A				
		10区堀ＳＤ００３	-×-×1.3	箱	40	－	－	－	かわらけ、常滑壺、把手付板状製品	15世紀後半		
		10区堀ＳＤ００４	南北方向3.5×0.8～0.9×2.3 東西方向4.0×1.2～1.4×2.3	箱	南北方向60 東西方向 北52南40	－	－	－	かわらけ、常滑壺	中世		
		10区堀ＳＤ００５	2.5×1.6×1.9	箱	60～70	－	○	－				
		10区堀ＳＤ００６	3.4×2.8～2.9×2.0	箱	75	－	－	－				

真田城	真田・北金目遺跡群	19A区堀ＳＤ００１	6.2×1.3～1.7×1.8～2.1	箱	北：60 南：70	－	－	－	常滑甕、渥美甕	小破片のため詳細不明		36
		19B区堀ＳＤ００１	6.6×－×2.3	箱	60	－	－	－				37
豊田館 (豊田堀の内)	豊田本郷	ＳＤ４６	2.0～4.0×0.8～1.6×1.0～1.4	箱	東：50 西：60	－	－	－	かわらけ	中世後半		39
堀ノ内館 (藤間豊後守屋敷)	堀ノ内館跡	ＳＤ０１	2.8×13×1.1	箱	50	－	－	－	調査では瀬戸丸皿、志野丸皿が出土	16世紀後半		40
		堀状遺構	2.1～3.8×0.7～1.0×1.0～2.3	箱	80	－	－	－	青磁盤、瀬戸瓶子・四耳壷、五輪塔	15世紀		41
吉沢館	上吉沢市場地区遺跡群	１号堀	2.5×0.5×1.5	箱	65	○	－	－				42
	高林寺遺跡 第７・９・12地点	ＳＤ０１	2.3～2.6×0.6～1.0×1.0～1.6	箱	40～80	－	－	－				43・ 44・45
杉浦屋敷	六ノ域遺跡	Ｃ８号溝状遺構	2.2～3.0×0.4～1.0×0.6～0.8	箱	40	－	－	－				117
		Ｃ９号溝状遺構	1.6～3.8×0.2～0.4×1.4	箱	北：60 南：50	－	－	－	白磁皿、古瀬戸灰釉縁釉皿、卸皿、瀬戸錆釉擂鉢、瓦質土器、常滑甕・片口鉢	14世紀後半～15世紀前半、16世紀後葉		
		Ｃ11・18号溝状遺構	1.4～3.4×0.2～0.4×0.6～1.4	箱	北：60 南：50	－	－	－	かわらけ、古瀬戸灰釉平碗・縁釉皿、瀬戸鉄釉稜皿、常滑甕	12世紀後半、14世紀後葉、15世紀中～後半、16世紀後葉		
		Ｃ14号溝状遺構	2.0×1.0×0.6	箱	北：50 南：55	－	－	－	瀬戸灰釉花瓶、常滑甕・片口鉢	12世紀中頃～後半、13世紀初～後半、14世紀中頃～後葉		
		Ｃ17号溝状遺構	1.2～1.8×0.2～0.5×0.8～1.2	箱	東：55 西：45	－	－	－	青磁碗、かわらけ、古瀬戸灰釉縁釉皿、瀬戸錆釉擂鉢、常滑甕・片口鉢	12世紀中～後半、15世紀前半～中葉、16世紀代		
		Ｃ21号溝状遺構	1.5～2.7×0.1～0.7×0.5～1.0	箱	東：40 西：35	－	－	－	常滑甕	12世紀末～13世紀初		

鎌倉市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ(m)	形態	傾斜角(°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
杉本寺周辺遺跡	杉本寺周辺遺跡群	堀１	3.2×0.4×1.3	箱	東：40 西：45	－	－	－	青磁碗・鉢、渥美鉢、常滑鉢・甕、木製品	12世紀後半		49
玉縄城	玉縄城跡	西側堀切	11～14×1.5～2.0×1.5～10.8	箱	約45	○	×	１－Ｂ			堀底に畝１個所、段２個所。外側に土塁。	52
		東側堀切	7.5～11×2.2～2.8×1.5～9.4	箱薬研	内：35～75 外：50～75	×	○？	１－Ｂ	常滑		堀底に土橋１個所、段２個所。土橋は堀障子の役割か。	
		竪堀１	約13～25×－×約８	薬研	北：40 南：30	×	×	－			堀切２に繋がるか。	118
		竪堀２	約13.5～15×－×約4.8	薬研	北：40 南：30	×	×	－			上部より下部の方が狭い。	
		竪堀３	約14×－×約4.5～５	箱	北：35 南：40	×	×	－				
		竪堀４	約９～22×－×約８	薬研	北：30 南：20	×	×	－			上部に比べて下部が極端に狭い。	
		竪堀５	約15～20×－×約８	薬研	北：40 南：34	×	×	－				
		竪堀６	(18～19)×－×3.5以上	箱？	－	×	×	－			現況確認。竪堀７と対応する位置で、間に堀切が存在か。	
		竪堀７	(20～21.5)×－×10以上	薬研？	－	×	×	－			現況確認。竪堀６と対応する位置で、間に堀切が存在か。	
		竪堀８	約10～21×－×約3.5	箱	－	×	×	－			自然地形とも考えられる。	
		竪堀９	約14.5～16×－×約５	箱	－	×	×	－			堀切２に繋がるか。	
		堀切１	約10.3～14×1.3～1.5×約４	薬研～箱	北：30 南：35	×	×	－			３時期確認。薬研堀から箱堀へ。	
		堀切２	15以上×1前後×7.3以上	薬研～箱	北：40 南：50	×	×	－			６時期確認。薬研堀から箱堀へ。	

藤沢市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
大庭城	大庭城址		－×－×－	－	－	－	－	－			土塁・堀切のみの確認。詳細不明。	63
			－×－×－	－	－	－	－	－			土塁・堀切のみの確認。詳細不明。	64
	西部211地点遺跡	堀ＳＤ０１	7.0×0.4×2.4	箱	80	○	－	－				66
		堀ＳＤ０７	4.2～5.0×0.3×2.3	箱	南：40 北：65	○	－	－				

茅ヶ崎市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
近藤右衛門尉経秀居館	上ノ町遺跡	49・80・87号溝	2.5～3.85×0.5～1.1×1.1～1.4	箱	東：40～60 西：50～60	－	－	－	青磁碗・鉢、青白磁合子、瀬戸美濃天目椀・灰釉平椀・挟み皿・端反皿・鉄釉皿、志戸呂鉄釉稜皿・錆釉擂鉢、常滑片口鉢、かわらけ、内耳鍋	14世紀後半～16世紀後半		119
		Ｋ１・17号溝	3.8～4.5×0.3～0.8×0.2～1.4	箱	東：60 西：40	－	－	－	青磁碗・酒会壺、白磁碗、明染付椀、古瀬戸卸皿、瀬戸美濃灰釉碗・錆釉擂鉢、常滑甕、かわらけ、伊勢系羽釜	13世紀～16世紀前半		120

逗子市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
岩殿寺城郭遺構	逗子市№71遺跡		－×－×－	－	－	－	－	－			表面調査で堀切状遺構が確認される	67

相模原市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ (m)	形態	傾斜角 (°)	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
津久井城	津久井城跡（御屋敷）	１号堀	2.5～３×1.5～3.2×1.7～2.5	箱	75	○	×	－	白磁坏、明代染付碗・合子、漳州窯碗、瀬戸・美濃灰釉端反皿（大窯１）、瓦質火鉢	15世紀末～16世紀	三増峠の戦いを契機に普請され、天正18年の落城後、埋め立てられる。外側に２号土塁。	121 122
		２号堀	(1.5～２)×0.7×1.3	箱	北：75 南：50～80	×	×	－			１号焔硝蔵を守るための防御施設。	121
	津久井城跡（城坂曲輪群）	１号竪堀１（トレンチ１）	2.72×－×1.1	箱	62	×	×	－			竪堀１～６は連続する。東側法面を確認。	123
		１号竪堀２（トレンチ１）	－×－×－	箱	－	×	×	－			未調査のため、規模など不明。	
		１号竪堀３（トレンチ２）	(2.8)×－2.0以上	箱	64	×	×	－			東側法面を確認。堀底まで調査せず。	
		１号竪堀４（トレンチ３）	－×－×－	薬研	39～87	×	×	－			４～６の堀底は階段状。東側肩部のみ確認。	
		１号竪堀４（トレンチ４）	3.8×0.61×1.79	薬研	50～80	×	×	－				
		１号竪堀５（トレンチ４）	4.6×－×2.03	箱	59	×	×	－			堀底に大型の礫・砂利を充填し平坦面を造成。東側法面を確認。	
		１号竪堀６	5.2×－×3.1	箱薬研？	46～70	×	×	－			東側法面を確認。	
	津久井城跡馬込地区	空堀	6.2～9.0×2.2～4.2×(1.1～5.1)	箱	北：33 南：22	×	×	－	近世陶磁器	近世	テラス状の付帯施設。２時期の堀底。	124

三浦市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
新井城	新井城跡	ＳＤ０１	2.2×1.3×0.6	箱	－	－	－	－	瀬戸縁釉皿	15世紀末～16世紀後半		89
		ＳＤ０２	2.2×1.3×0.7	箱	－	－	－	－				

大和市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
下鶴間城	下鶴間城山	堀状遺構	－×－×2.5以上	箱？	－	○	×	－			堀底まで調査せず	97
深見城	深見城跡	外堀（郭Ⅲ）（第１トレンチ）	3.5×2.5×約2.0	箱	70	○	×	－			法面は傾斜角が変化するか。	98
		内堀（郭Ⅲ）（第１トレンチ）	4.3×3.5×約2.2	箱	内：45～75 外：75	○	×	－			本郭土塁頂部から堀底までは5.8m。外側法面は傾斜角が変化するか。	
		外堀（郭Ⅲ）（第３・４トレンチ）	約５×約２×－	箱？	50～70	○	○	－	火鉢（土橋反対側の内堀から出土）	14世紀		
		内堀（郭Ⅱ・Ⅲ）（第５トレンチ）	－×－×約３	？	60	×	○	－				
		外堀（郭Ⅰ）（第６トレンチ）	4.0×3.1×約2.2	箱	内：85 外：80	○	×	－			法面は傾斜角が変化するか。	
		内堀（郭Ⅰ）（第６トレンチ）	4.7×3.3×約2.6	箱	内：75 外：70	×	×	－			法面は傾斜角が変化するか。	
		外堀（郭Ⅱ）（第９トレンチ）	3.3×2.6×2.1	箱	85	○	×	－			法面は傾斜角が変化するか。	
		内堀（郭Ⅱ）（第９トレンチ）	4.5×3.5×2.6	箱	内：75 外：70	×	×	段差			法面は傾斜角が変化するか。	
		外堀（郭Ⅱ東）（第８トレンチ）	－×－×－	－	－	×	×	－			外堀の途切れを確認。	
		外堀（郭Ⅱ）（第12トレンチ）	－×－×－	箱	内：80 外：75	×	○	－			法面は傾斜角が変化するか。	
		外堀（郭Ⅱ）（第11トレンチ）	－×－×－	箱	－	×	○？	－				
		外堀（天竺坂）（第14トレンチ）	－×－×－ －×－×－	箱 －	内：70 外：65 －	× ×	× ×	－ －			天竺坂側に外堀が２本存在することが確認された。	
		堀（郭Ⅰ西）（第15トレンチ）	4.1×2.9×1.6	箱	内：75 外：65	×	×	－				
		外堀（天竺坂）（第13トレンチ）	－×－×－ －×－×－	－ －	－ －	× ×	× ×	－ －			天竺坂側に外堀が２本存在することが確認された。	
		内堀（本郭・郭Ⅱ）（第10・22トレンチ）	8.3×－×1.6～2.2	－	85	○	○	－			内堀の端部を検出。礎石は大手門と考えられる。	
		内堀（内堀・郭Ⅱ）（第21トレンチ）	約７×－×－	－	－	○	○	－				
		西内堀（主郭・郭Ｂ）	4.2～4.7×2.8×（主郭）4.85、（Ｂ郭）約3.0	箱	80	○	○	－			土橋１の西側。	99
		中央内堀（主郭・郭Ｂ）	4.5～5.0×3.8～4.5×（主郭）5.50、（Ｂ郭）3.6	箱	内：75 外：70	○	○	－	瀬戸美濃擂鉢（大窯３）、砥石	16世紀中頃	土橋１と土橋２の間。	
		外堀（Ａ郭・外外郭）（トレンチ24）	－×－×（郭Ａ）3.7、（外外郭）2.2	箱	（60）～85	○	－	－			法面崩落により傾斜角が変わる。	
		中央外堀（郭Ｃ・外外郭）（トレンチ26）	3.5×2.5～2.7×（郭Ｃ）2.6、（外外郭）2.1	箱	内：75 外：70	○	－	－				
		天竺坂堀（トレンチ27～29）	（20）×1.5～2.8×5.7～8.3	薬研	40～50	○	×	－			堀底は薬研から箱へ改変か。廃城後は堀底道として利用。	
		内側堀（トレンチ27～29）	10×３×7.2	箱	内：80 外：70	○	×	－			天竺坂堀と内側堀の間に障壁。	
	神明若宮地区内遺跡	第３号溝状遺構	約４～７×1.5～2.65×1.28～2.24	箱	内：50 外：30～50	×	×	１－Ｂ ２－Ａ	近世陶磁器	近世のみ	周辺の遺構との関係から、15世紀後半と推定される。	125

伊勢原市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
丸山城	上粕屋・小山遺跡	第１号溝	4.1×1.6×2.36	箱	東：55 西：65	×	×	－	寛永通宝	近世	周辺の遺跡から、丸山城関連の遺構と推測される。	102
		第２号溝	4.76×2.6×2.24	箱	70	×	×	－				
		第３号溝	4.12×1.9×1.9	箱	北：40～60 南：70	×	×	－	寛永通宝	近世		
	成瀬第二地区遺跡群	堀 (29トレンチ)	16以上×－×－	－	30～60	×	×	－			堀の片側法面を確認。堀底まで調査せず。	104
		堀 (34トレンチ)	－×－×約２	箱	60	×	×	１－Ｂ			堀の片側法面を確認	
		堀 (36トレンチ)	－×－×－	薬研	35	－	－	－			堀の片側法面を確認	
	成瀬第二地区遺跡群 下糟屋Ｃ地区第一地点	１号堀	4.4×3.5×1.45	箱薬研	北：40～60 南：50～60	×	×	－	かわらけ、同安窯系青磁	12世紀後半、15世紀後半～16世紀代	帯郭の堀か。	105
	成瀬第二地区遺跡群 下糟屋Ｄ地区	１号堀	6.0～8.0×0.8～2.0×2.4～2.7	箱薬研	34～68	○	×	－	かわらけ、龍泉窯系青磁碗、瀬戸美濃天目碗、近世陶磁器	13世紀前半、16世紀後半、近世	法面から橋の支える柱のピットか。	
		２号堀	15.0×10.0×6.0～9.8	箱薬研	北：40～70 南：40～75	○	○	１－Ｂ	常滑、近世陶磁器	16世紀後半、近世	堀障子、階段、３号堀と連結。	
		３号堀	4.0～5.0×0.4～2.4×2.1～2.6	薬研	50	○	×	－	かわらけ、古瀬戸壷、常滑鉢、白磁、龍泉窯系青磁、近世陶磁器、瓦	11世紀後半～近世	犬走り状の平場、２・４号と連結。	
		４号堀	－×５×2.3	－	－	×	×	１－Ｂ？			上幅は調査区外のため不明。	
	丸山遺跡第Ⅳ地点	１号堀 （Ａ区）	(15)×２以上×3.6～5.15	箱	65	×	×	－	古瀬戸瓶子		堀の西肩を検出。	126
		１号堀 （Ｂ区）	(10)×2.4以上×1.7～2.7	－	－	×	×	－	かわらけ、常滑片口鉢	15世紀後半～16世紀前半	堀の北東肩を検出。堀底に段差。	
	丸山遺跡第５地点	１号堀 （１ａ・ｂ区）	約13.5×－×1.5以上	－	－	×	×	－	かわらけ、近世陶磁器		北の郭崖線際で犬走り検出。	127
		１号堀 （２ａ・ｂ区）	(17)×－×－	－	－	×	×	－			堀の郭外側（北西側）肩を検出。	
		１号堀 （４区）	8.0～10.1×1.7～4.0	箱	内：40 外：45	×	×	－				
		１号堀 （５区）	13.5×－×２以上	－	－	×	×	－	かわらけ		堀の肩を検出。	
	上粕屋・〆引北遺跡	１号堀	2.4～3.8×0.7～1.4×1.1～1.8	箱	内：49 外：44	○	○	－	かわらけ、古瀬戸小壷、常滑片口鉢・甕、瓦質火鉢、明染付皿	13～16世紀	館を囲む堀。14世紀中葉の遺構とされる。	107
	下糟屋・丸山遺跡 （第６地点）	堀 （Ａ地区）	約17×約7.5×約５	箱	内：35～65 外：15～55	×	○？	１－Ｂ	かわらけ、常滑甕、銭		土橋は堀障子の可能性あり。堀底に犬走り。	128
		堀 （Ｂ地区）	約６×約0.7×約３	箱薬研	北：40～65 南：45～60	×	×	－	かわらけ、渥美甕、常滑甕、古瀬戸小皿、青磁碗、瓦	13世紀～16世紀	瓦が多く出土した。	
岡崎城	岡崎城跡	空堀 （第３トレンチ）	－×－×約3.5	－	60～75	×	×	－			御殿の堀。	18
		堀 （２グリッド）	－×－×－	－	約50	×	×	－			御殿の堀。堀の肩を検出。	
		ＳＤ－２	－×－×1.9	－	50	×	×	－			二ノ郭の堀。堀の片側法面を確認。	
		ＳＤ－３	４×－×－	－	内：65 外：70	×	×	－			二ノ郭の堀。堀底は未検出。	
		ＳＤ－４	1.6×－×－	－	内：60 外：90	×	×	－			二ノ郭の堀。堀底は未検出。	
		堀状遺構 （第１トレンチ）	－×0.6×1.5以上	薬研	－	？	×	－			岡崎神社裏で検出。堀の肩は未検出。	
		堀 （第１グリッド）	－×－×－	－	50～65	×	×	－			屋敷で検出。堀の東肩を検出。	

南足柄市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
浜居場城	浜居場城跡	空堀（4号トレンチ）	－×－×1～2.4	薬研	東：45 西：10	×	×	－			主郭と西櫓台の間の堀。	109
		空堀（6号トレンチ）	－×－×3.4	－	40	×	×	－			主郭側の法面のみ確認。	
		空堀（7号トレンチ）	－×－×－	－	16～50	×	×	－			主郭側の法面のみ確認。	
		空堀（8号トレンチ）	－×－×1.6～3.95	薬研	北：10 南：27	×	×	－			主郭と北櫓台の間の堀。	
		空堀（9号トレンチ）	－×－×4.05	薬研	30～50	×	×	－				
		空堀（10号トレンチ）	－×－×2.9	薬研	東：15 西：31	×	×	－				
		空堀（3号トレンチ）	－×－×2.4	薬研	東：37 西：15	×	×	－			西櫓台と西側平場の間の堀。	
		空堀（5号トレンチ）	－×－×1.42～2	箱	北：22 南：44	×	×	－				
沼田城	沼田城跡	北大空堀（1号トレンチ）	－×5×0.8以上	箱	外：10～40	○	×	－			外側に土塁。	110
		北大空堀（2号トレンチ）	－×3.4×－	箱	内：40～47 外：45～60	○	×	－				
		空堀A	約3.5×約2.1×約0.9	箱	北：40～50 南：55	×	×	－			通路として使用されていた可能性あり。	111
		空堀B	約3.6×約2.2×約1	箱	北：40～80 南：20～80	×	×	－				

綾瀬市

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
早川城	早川城跡	堀切（ⅠA－10T）	13.95×2.3×4～5.7	箱	内：45～60 外：20～40	×	×	－				112
		堀切（Ⅱ－2T）	8.82×2.4×0.3～6.1	箱	内：50 外：40	○	×	－				
		堀切（Ⅱ－3T）	9.24×2.2×.5～6.7	箱	内：50 外：50	○	×	－			堀底に段。	
		堀切（Ⅱ－4T）	－×2.4～4.6×2.1	－	内：40～50	○	×	－			竪堀と重複。	
		堀切（Ⅱ－5T）	－×2.8×0.32	箱	内：70 外：25	×	×	－				
		堀切（Ⅲ－1T）	－×0.86×2.68	箱	内：60 外：65	×	×	－				
		堀切（Ⅲ－2T）	10.45×1.88×0.86～6.15	箱	内：35～60 外：30	○	×	－				
		堀切（Ⅲ－3T）	－×1.26～3.5×1.42～3	箱	内：50～60 外：35	○	×	－			堀底に段。	
		堀切（Ⅴ－2T）	6.8×1.1×0.4～5.75	箱	内：30～50 外：55	○	×	－				
		堀切（Ⅴ－5T）	－×1.2×0.94	箱	内：60 外：65	×	×	－			堀底に段。	
		堀切（Ⅴ－6T）	－×1.48～1.6×1.46	箱	内：45 外：40～55	×	×	－			堀底に段。	
		堀切（Ⅴ－7T）	－×2.62×0.3	箱	内：50 外：35	×	×	－				
		堀切（Ⅴ－8T）	－×2.24×0.75	箱	内：50 外：40	×	×	－				
		堀切（Ⅴ－9T）	8.5×1.45～1.9×1.04～6.3	箱	内：25 外：40～70	×	×	－			堀底に段。	
		堀切（Ⅴ－10T）	－×1.92×1.10	箱	内：40～60 外：50	×	×	－			堀底に段。	

早川城跡	早川城跡	堀切 （Ⅵ－３Ｔ）	8.55×0.95×0.9～4.3	箱	内：30～50 外：40	×	×	－				112
		堀切 （ＩＢ－１Ｔ） （ＩＢ－３Ｔ） （Ⅳ－６Ｔ）	3.5～４×0.26～0.86×1.5～2.1	箱薬研	内：40～80 外：50	×	×	－				

松田町

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
松田城	松田城址	空堀	5.2×2.4×1.6～2.6	箱	北：55 南：60	×	○？	－			西端に土橋か。	114
		堀切	約６×約4.2×６～８	箱	北：45 南：50	×	×	－			竪堀と連結。	
		竪堀	約２～2.7×1.5～1.7×0.1～1.5	箱	60	×	×	－			堀切と連続。東側は低い。	

山北町

名称	遺跡名	遺構名	堀上幅×堀底幅×深さ（m）	形態	傾斜角（°）	土塁	土橋	堀底形状	出土遺物	遺物年代	備考	文献番号
河村城	河村城跡	堀切２	約25×約16.6×約12	箱	東：40～50 西：50	×	○	１－Ｂ	青磁皿、明代染付碗、常滑甕、近世陶磁器	15世紀前半～16世紀後半、近世	障子堀。	115 116 129
		堀切３	約20×約0.3～0.5×約８	薬研	東：40～60 西：40～70	×	×	－	常滑甕		最上層の硬化面時に橋脚遺構を伴う。	115
		空堀１	約10×約1.7×約３	箱	東：40～50 西：45	×	×	－			空堀２より古い。	
		空堀２	約13～18×約2.4×約８	箱	東：30～50 西：60～70	×	×	－			空堀３と連続する。堀底を通路として使用か。３～４回掘り直し。	
		空堀３	約11～17×約３×約５	箱	約40	×	×	－	かわらけ		空堀２と連続する。	
		空堀４	約11×約1.5×約3.5～５	箱	北：20～５ 0南：30～60	×	×	－	青磁碗、常滑甕、かわらけ			
		空堀５	約７×約１×約４	箱	20～60	×	×	－	古瀬戸梅瓶（後期Ⅰ）、常滑甕	14世紀後半～15世紀前半		
		空堀６	12.5×－×６以上	箱	東：50 西：40 南北：55	×	×	１－Ｂ	かわらけ、常滑甕、瀬戸美濃丸皿、近世陶磁器	16世紀中葉～近世	堀障子。	115 125
		空堀７	約６～８×約１×約５	箱	東：40 西：50	×	×	－	舶載褐釉四耳壺		空堀６・竪堀１より古い。	
		竪堀１	約14×－×2.5以上	－	東：20～50 西：30～50	×	×	－	常滑甕	16世紀後半	空堀７より新しい。	115

遺漏・新規追加

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
杉浦屋敷	六ノ域遺跡	平塚市真土字六ノ域232-９他所在	７条の溝状遺構に区画された竪穴状遺構・井戸・土坑が確認されている。調査地点の北西側一帯が、後北条氏の家臣の杉浦藤佐衛門の屋敷地であるとの伝承が残っている。	117
玉縄城	玉縄城跡	鎌倉市城廻字打越165	東側斜面で６条、西側斜面で３条の竪堀が検出され、５～10m間隔で構築されている。堀切は２か所で確認され、それぞれ３時期、６時期の掘り直しが確認され、大きく薬研形で深いものから箱形へと変遷することが指摘されている。	118
近藤右衛門尉経秀居館	上ノ町遺跡	茅ヶ崎市西久保地先	溝状遺構に区画された掘立柱建物、ピット、井戸が集中して確認され、主殿として報告されている。近藤右衛門尉経秀の居館の別宅の可能性が指摘されている。	119 120
津久井城	津久井城跡馬込地区	相模原市小倉字馬込135-１、127-２外	津久井城関連の堀、土塁を伴う曲輪を検出。この他に、地下式抗、道状遺構を検出した。	124
	神明若宮地区内遺跡	大和市福田510番外	中世から近世にかけての掘立柱建物や井戸、地下式抗、土坑などを検出。また、これら遺構群を取り囲むように溝が検出され、溝によって囲まれた屋敷地と考えられる。	125
丸山城	丸山遺跡第Ⅳ地点	伊勢原市下糟屋字丸山2191-１外	北の郭の崖線に沿う堀を検出。堀、溝状遺構、道状遺構などから丸山城の虎口の一つと想定される。この他、掘立柱建物、柵列、竪穴状遺構、地業層などが確認されている。	126
	丸山遺跡第５地点	伊勢原市下糟屋字丸山2191-１外		127
	下糟屋・丸山遺跡（第６地点）	伊勢原市下糟屋2181、2202ほか	丸山城の外周を巡る堀から土橋状の堀障子を検出した。また堀の外側からは溝や段切りによる区画を検出した。この他に北の郭と内郭の間の堀を検出した。	128
河村城	河村城跡	足柄上郡山北町山北・岸	堀切２、近藤郭、馬違戸の調査。堀切２からは第３の堀障子を確認した。また、空堀６からも堀障子を確認している。	129

近世民家の集成（8）

近世プロジェクトチーム

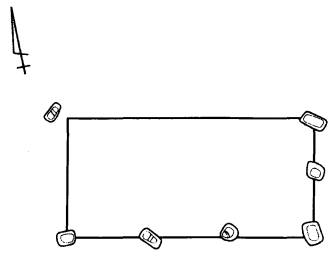
はじめに

県内の近世民家の集成の第８回目である。本プロジェクトチームでは、県内で調査された近世建物址の集成を行い、これまでに229棟分のデータを蓄積してきた。前回をもっておおむね県内で報告されている近世建物を収集できたと思われるが、2009年から2010年３月までに刊行された報告書にも報告例が認められる。今回は、平塚市真田・北金目遺跡群、相模原市はじめ沢下遺跡、同市津久井城跡馬込地区の23棟分を追加した。

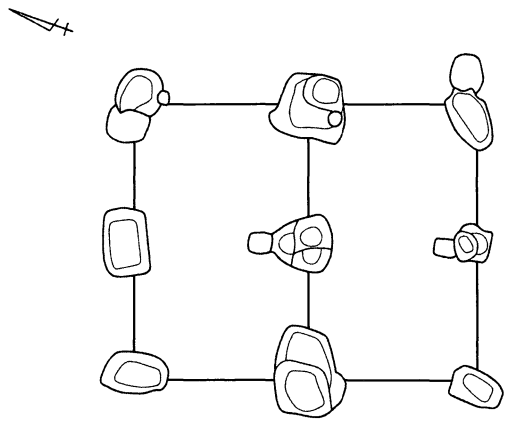
凡　例

・資料№は近世民家の集成（１）からの続き番号である。
・遺構名は報告書の記載に基づく。
・建物の縮尺は1/100とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについては適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを示した。
・梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した１間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
・坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3㎡で除したものである。
・建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

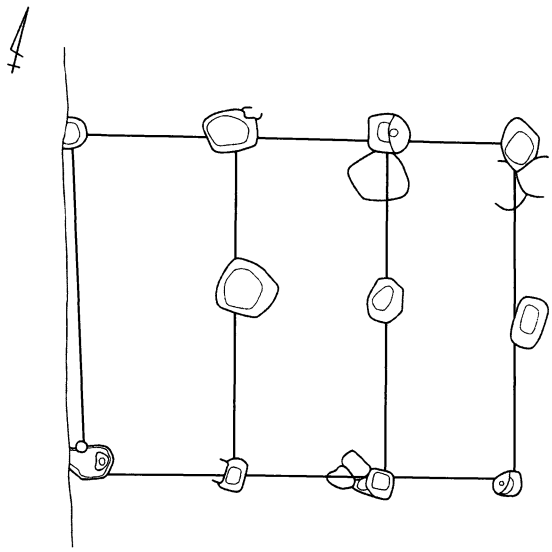
資料№	230	遺跡名	真田・北金目遺跡群			所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB6001	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面						
規模	梁間	1.8 m	桁行	3.45 m	2 × 3 間	面積	6.2 ㎡	坪数	1.9 坪
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離	梁	0.8 m	桁	1.1 ～ 1.2 m	主軸方位	N－78°－W	
出土遺物				付属施設					
建物の機能				構築時期					
備考	SB6002・SB6003と重複、SB6002・SB6003より新しい								



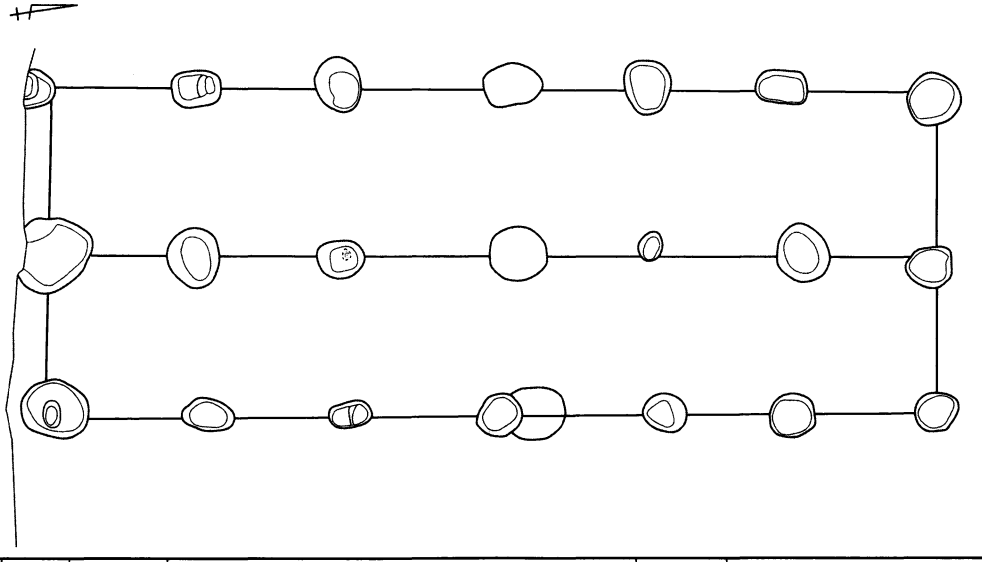
資料No.	231	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名		SB6002		構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	3.8 m	桁行	4.6 m	2 × 2 間		面積	17.5 m²	坪数	5.3 坪
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離	梁	1.9 m	桁	2.3 m	主軸方位	N－18°－W		
出土遺物				付属施設						
建物の機能	倉庫？			構築時期						
備考	SB6001・SB6003と重複、SB6001より古い、SB6003は新旧不明									



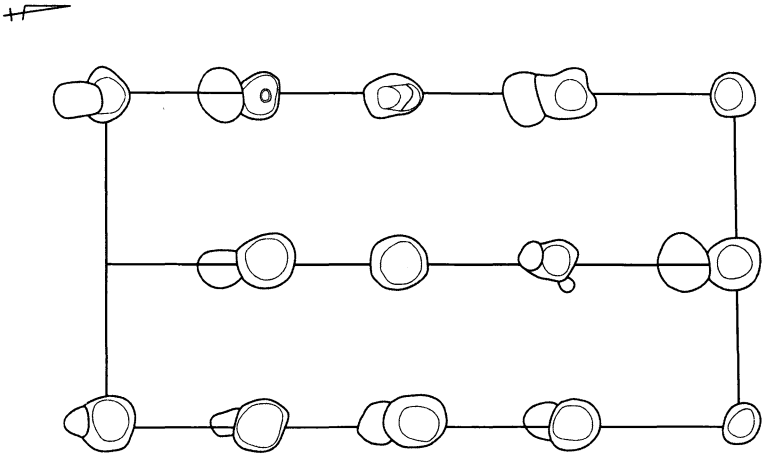
資料No.	232	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名		SB6003		構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	4.6 m	桁行	6.2 m	3 × 3 間		面積	28.5 m²	坪数	8.6 坪
柱穴の形状	方形・長方形主体	柱間距離	梁	1.8 ～ 1.9 m	桁	2.3 m	主軸方位	N－75°－W		
出土遺物	瀬戸・美濃陶器			付属施設						
建物の機能				構築時期						
備考	SB6001・SB6002と重複、SB6001より古い、SB6002は新旧不明									



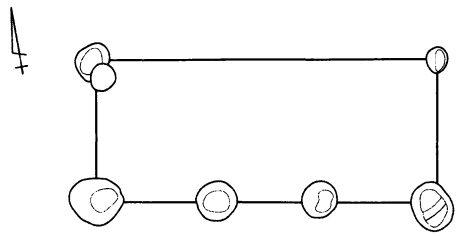
資料No.	233	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0001			構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	4.35 m	桁行	12.9 m	2 × 6 間		面積	56.1 ㎡	坪数	17 坪
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離	梁	1.8 ～ 2.3 m	桁	1.8 ～ 2.2 m	主軸方位	N－10°－E		
出土遺物	鉄製品				付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考	SB0002・SB0005と重複、SB0002より新しい、SB0005は新旧不明									



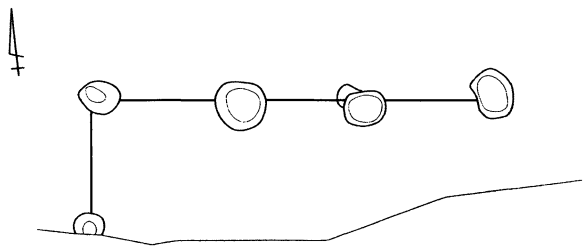
資料No.	234	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0002			構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	4.5 m	桁行	8.7 m	2 × 4 間		面積	39.2 ㎡	坪数	11.9 坪
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離	梁	2.2 ～ 2.3 m	桁	2.1 ～ 2.3 m	主軸方位	N－10°－E		
出土遺物	瀬戸・美濃陶器				付属施設					
建物の機能					構築時期					
備考	SB0001と重複、SB0001より古い、南側1間は庇の可能性も考えられる									



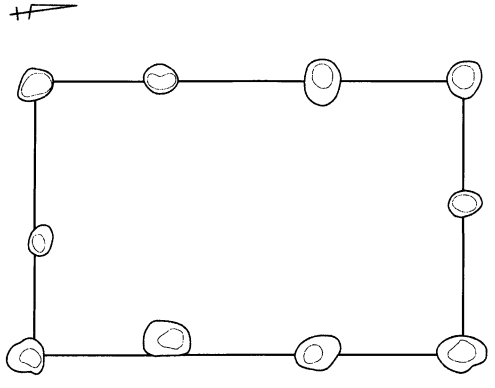
資料No.	235	遺跡名	真田・北金目遺跡群			所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0003	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面						
規模	梁間	1.9 m	桁行	4.55 m	1 × 3 間	面積	8.6 m²	坪数	2.6 坪
柱穴の形状	楕円形・円形	柱間距離	梁	1.9 m	桁	1.5 m	主軸方位	N－78°－W	
出土遺物	瀬戸・美濃陶器			付属施設					
建物の機能				構築時期					
備考									



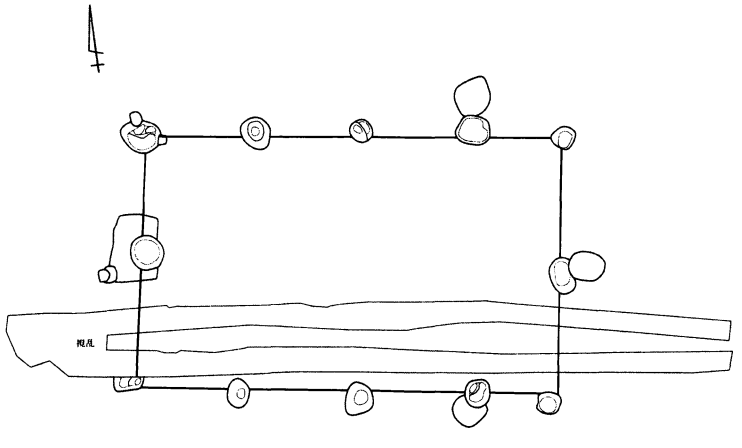
資料No.	236	遺跡名	真田・北金目遺跡群			所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0005	構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面						
規模	梁間	1.8 m	桁行	5.45 m	1 × 3 間	面積	9.8 m²	坪数	3 坪
柱穴の形状	楕円形・円形	柱間距離	梁	2.0 m	桁	1.7 m	主軸方位	N－83°－W	
出土遺物				付属施設					
建物の機能				構築時期	近世				
備考	SB0001と重複、新旧は不明								



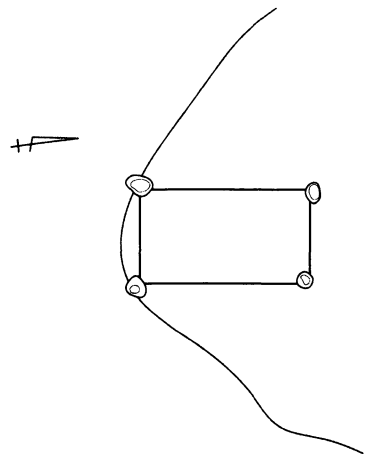
資料No.	237	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0007			構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	3.75 m	桁行	5.95 m	2 × 3 間		面積	22.3 ㎡	坪数	6.8 坪
柱穴の形状	楕円形・隅丸方形	柱間距離	梁	1.55 ～ 2.2 m	桁	1.9 ～ 2.1 m	主軸方位	N－8°－E		
出土遺物				付属施設						
建物の機能				構築時期						
備考	SB0009と重複、SB0009より新しい									



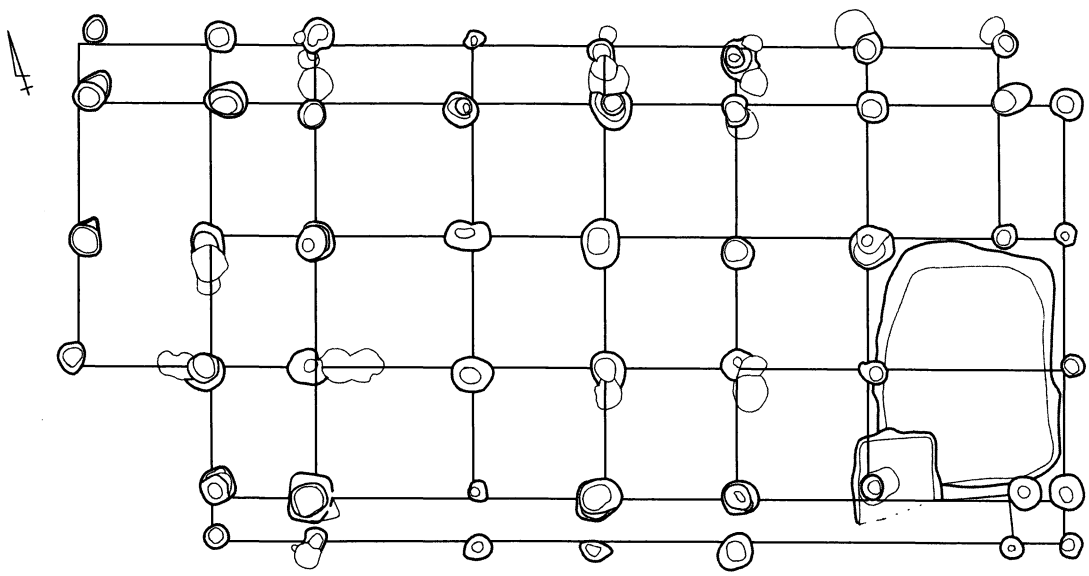
資料No.	238	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0009			構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	4.6 m	桁行	7.3 m	2 × 4 間		面積	33.6 ㎡	坪数	10.2 坪
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離	梁	2.15 ～ 2.3 m	桁	1.25 ～ 2.05 m	主軸方位	N－83°－W		
出土遺物	瀬戸・美濃陶器			付属施設						
建物の機能				構築時期						
備考	SB0007と重複、SB0007より古い									



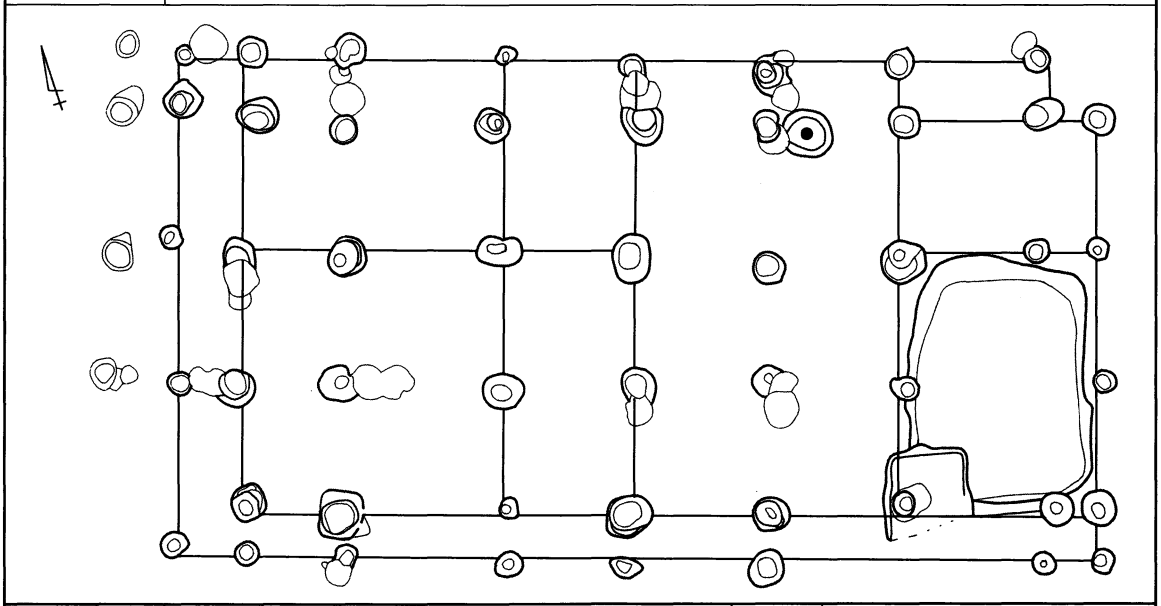
資料No.	239	遺跡名	真田・北金目遺跡群				所在地	平塚市北金目		
遺構名	SB0010			構築場所	丘陵裾部を造成した平坦面					
規模	梁間	1.4 m	桁行	2.4 m	1 × 1 間		面積	3.4 ㎡	坪数	1 坪
柱穴の形状	円形・楕円形主体	柱間距離	梁	1.2・1.4 m	桁	2.35・2.4 m	主軸方位	N－3°－E		
出土遺物				付属施設						
建物の機能				構築時期						
備考										



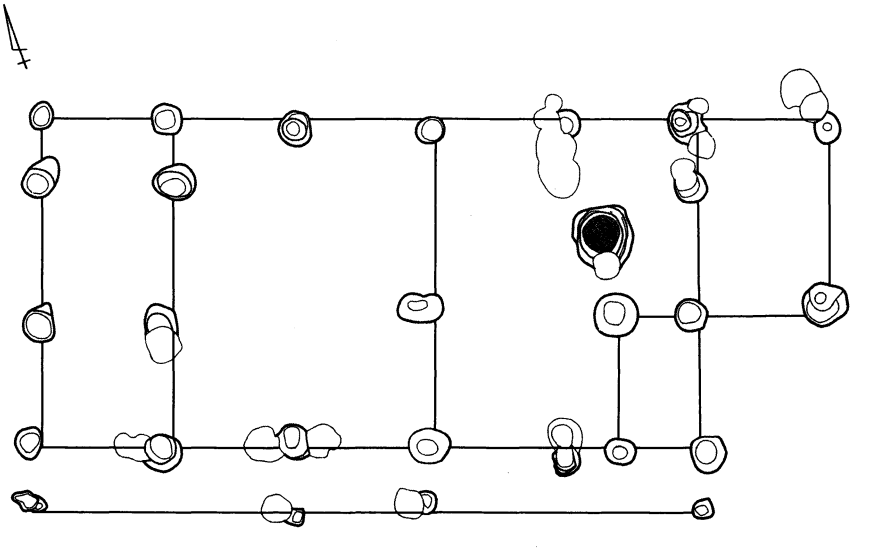
資料No.	240	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）		
遺構名	K1号掘立柱建物址a	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面							
規模	梁間	5.4 m	桁行	10.8 m	3 × 6 間		面積	58.3 ㎡	坪数	17.7 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.5 ～ 2.1 m	主軸方位	N－71°－W		
出土遺物				付属施設	西側に張り出し、南北および東側に庇					
建物の機能	母屋			構築時期	江戸中～後期					
備考	K2号・K4号掘立と重複、K2号・K4号掘立より古い、炉址・竪穴状遺構を伴う									



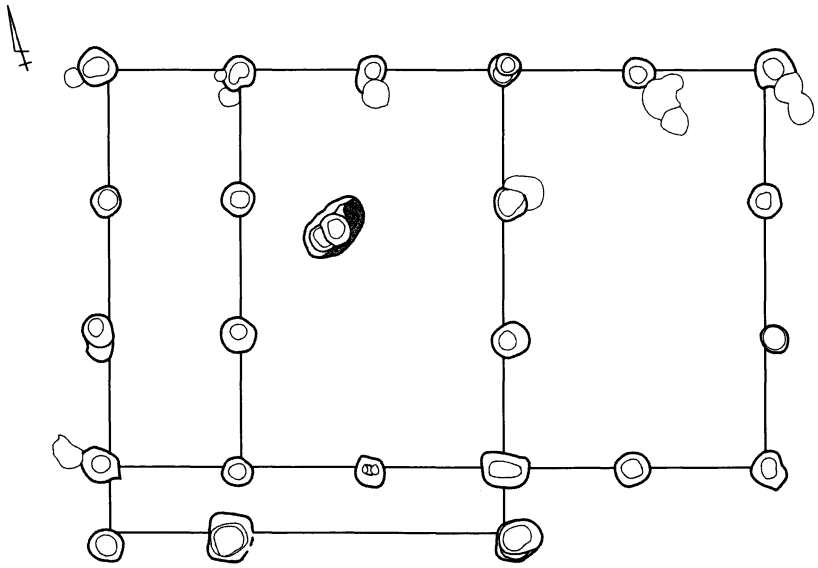
資料No.	241	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）	
遺構名		K1号掘立柱建物址b	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面					
規模	梁間	5.4 m	桁行	10.8 m	3 × 6 間		面積	58.3 ㎡	坪数 17.7 坪
柱穴の形状		円形主体	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.5 ～ 2.1 m	主軸方位	N－71°－W
出土遺物		寛永通宝、鉄鍋、砥石			付属施設	西側と南側に庇			
建物の機能		母屋			構築時期	江戸中～後期			
備考		K2号・K4号掘立と重複、K2号・K4号掘立より古い、炉址・竪穴状遺構を伴う							



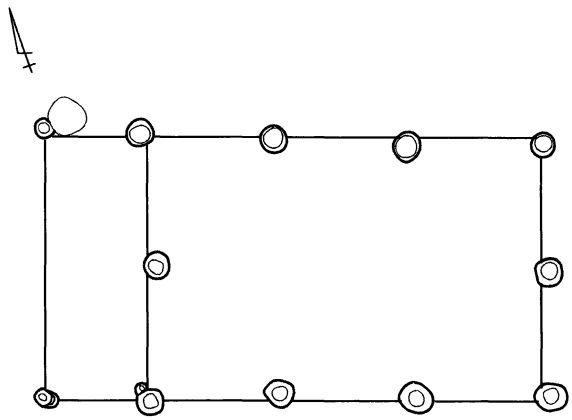
資料No.	242	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）	
遺構名		K2号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面					
規模	梁間	4.5 m	桁行	9.0 m	3 × 5 間		面積	40.5 ㎡	坪数 12.3 坪
柱穴の形状		円形主体	柱間距離	梁	0.9 ～ 1.8 m	桁	0.8 ～ 1.8 m	主軸方位	N－70°－W
出土遺物					付属施設	東側に張り出し、南側に庇			
建物の機能		母屋			構築時期	江戸中～後期			
備考		K1号・K4号掘立と重複、K1号掘立より新しくK4号掘立より古い、炉址を伴う							



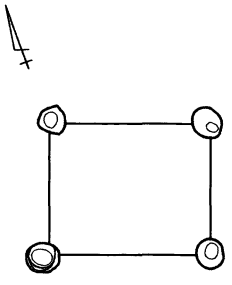
資料No.	243	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）	
遺構名	K3号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面						
規模	梁間	5.4 m	桁行	9.0 m	3 × 5 間	面積	48.6 m²	坪数	14.7 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－72°－W	
出土遺物	瀬戸・美濃陶器			付属施設	南側に庇				
建物の機能	母屋			構築時期	江戸中～後期				
備考	炉址を伴う								



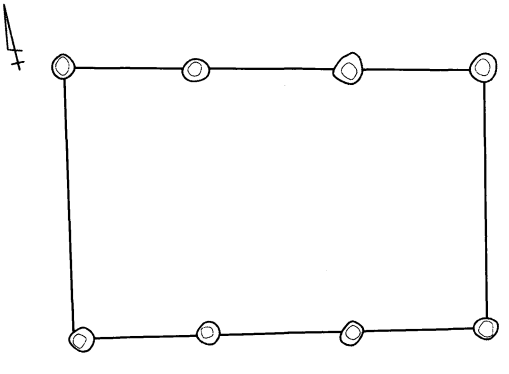
資料No.	244	遺跡名	はじめ沢下遺跡				所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）	
遺構名	K4号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面						
規模	梁間	3.6 m	桁行	5.4 m	2 × 3 間	面積	19.5 m²	坪数	5.9 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－70°－W	
出土遺物	砥石			付属施設	西側に庇				
建物の機能	母屋			構築時期	江戸中～後期				
備考	K1号・K2号掘立と重複、K1号・K2号掘立より新しい								



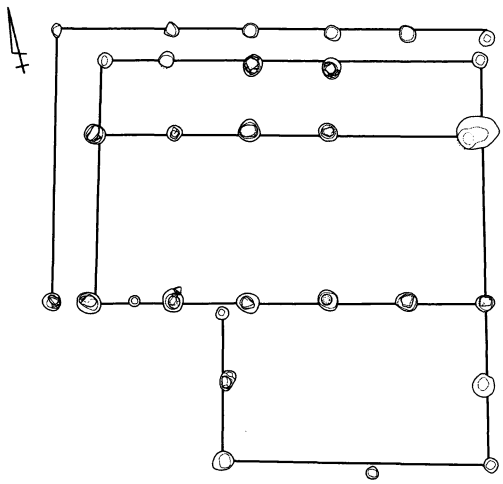
資料No.	245	遺跡名	はじめ沢下遺跡			所在地	相模原市緑区中沢（旧城山町）		
遺構名	K５号掘立柱建物址	構築場所	段切りによって開削された南向きの整地面						
規模	梁間	1.7 m	桁行	2.1 m	1 × 1 間	面積	3.6 ㎡	坪数	1.1 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.7 m	桁	2.1 m	主軸方位	N－70°－W	
出土遺物		付属施設							
建物の機能	付属	構築時期	江戸中～後期						
備考	K４掘立の付属								



資料No.	246	遺跡名	津久井城跡馬込地区			所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）		
遺構名	K１号掘立柱建物址	構築場所	東向きの緩斜面を削平して造り出した平場						
規模	梁間	3.8 m	桁行	5.7 m	2 × 3 間	面積	21.7 ㎡	坪数	6.6 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	3.8 m	桁	1.9 m	主軸方位	N－77°－W	
出土遺物		付属施設							
建物の機能	副屋	構築時期	17世紀代						
備考									

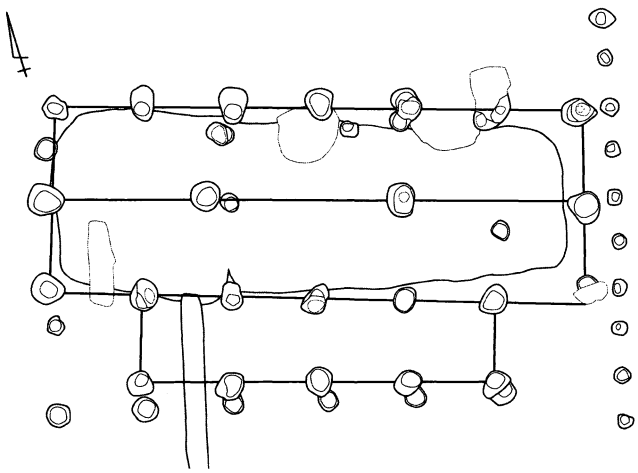


資料No.	247	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）	
遺構名		K2号掘立柱建物址	構築場所	東向きの緩斜面を削平して造り出した平場					
規模	梁間	6.6 m	桁行	10.5 m	4 × 6 間	面積	69.3 m²	坪数	21 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	2.1 ～ 2.3 m	桁	2.0・4.6 m	主軸方位	N－75°－W	
出土遺物				付属施設	南側に張り出し、北側と西側に庇				
建物の機能	主屋			構築時期					
備考									



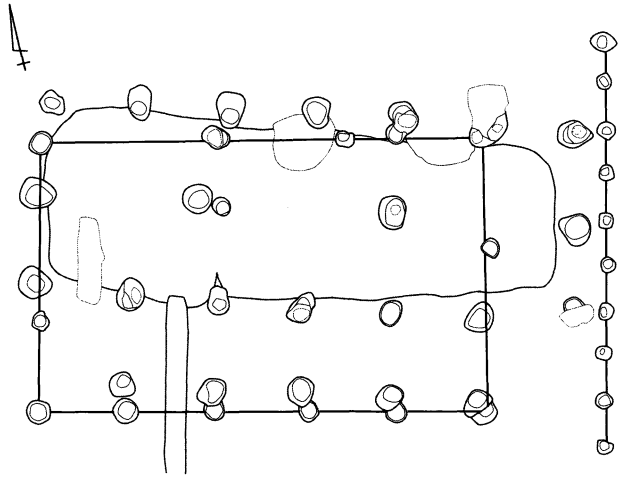
〔S：1/200〕

資料No.	248	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）	
遺構名		K3号掘立柱建物址a	構築場所	南東向きの緩斜面					
規模	梁間	3.8 m	桁行	11.0 m	2 × 6 間	面積	41.8 m²	坪数	12.7 坪
柱穴の形状	不整円形	柱間距離	梁	1.8 ～ 2.0 m	桁	1.8 ～ 2.0 m	主軸方位	N－74°－W	
出土遺物	陶磁器			付属施設	南側に張り出し				
建物の機能	主屋			構築時期					
備考	竪穴状遺構、溝状遺構を伴う								



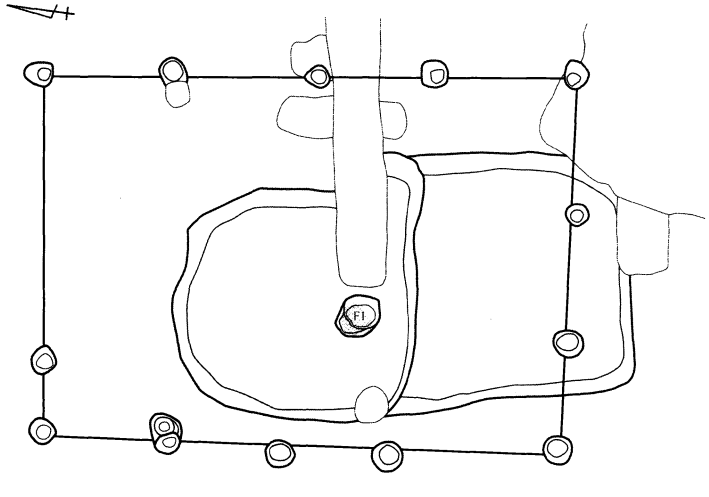
〔S：1/150〕

資料No.	249	遺跡名	津久井城跡馬込地区			所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）		
遺構名		K3号掘立柱建物址b	構築場所	南東向きの緩斜面					
規模	梁間	5.4 m	桁行	9.2 m	3 × 5 間	面積	49.7 m²	坪数	15 坪
柱穴の形状	不整円形	柱間距離	梁	1.8 m	桁	1.8 ～ 1.9 m	主軸方位	N－75°－W	
出土遺物			付属施設						
建物の機能			構築時期						
備考	東側にピット列、K3号掘立aの建て替えの可能性あり								

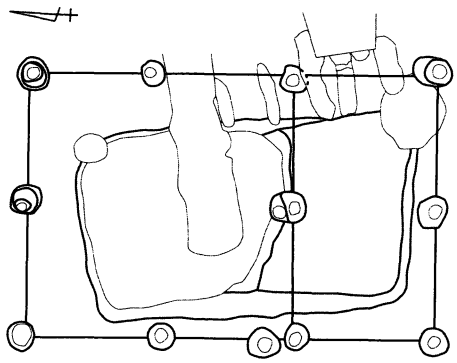


〔S：1/150〕

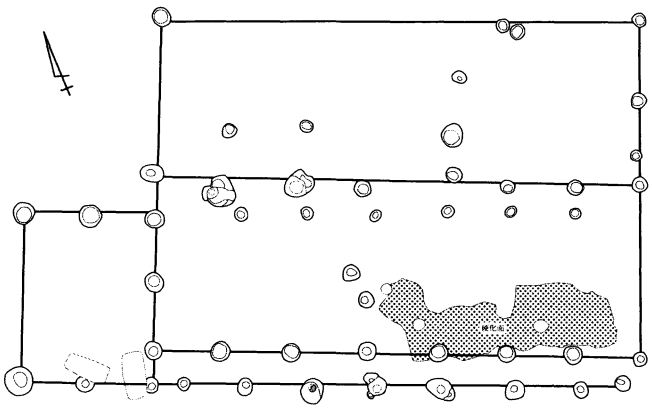
資料No.	250	遺跡名	津久井城跡馬込地区			所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）		
遺構名		K4号掘立柱建物址	構築場所	東に向かって落ちる斜面を削平して造り出した平場					
規模	梁間	5.0 m	桁行	7.3 m	3 × 4 間	面積	36.5 m²	坪数	11.1 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.5 ～ 1.8 m	桁	1.5 ～ 2.2 m	主軸方位	N－8°－W	
出土遺物	陶磁器		付属施設						
建物の機能	主屋		構築時期	17世紀以降					
備考	炉穴、竪穴状遺構を伴う								



資料No.	251	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）	
遺構名	K５号掘立柱建物址	構築場所	東に向かって落ちる斜面を削平して造り出した平場						
規模	梁間	3.6 m	桁行	5.6 m	2 × 3 間	面積	20.2 ㎡	坪数	6.1 坪
柱穴の形状	円形主体	柱間距離	梁	1.8 ～ 2.0 m	桁	1.8 m	主軸方位	N－４°－W	
出土遺物	陶磁器			付属施設					
建物の機能	主屋			構築時期	17世紀以降				
備考	竪穴状遺構を伴う								



資料No.	252	遺跡名	津久井城跡馬込地区				所在地	相模原市緑区小倉（旧城山町）	
遺構名	K６号掘立柱建物址	構築場所	耕作地付近の平場						
規模	梁間	9.2 m	桁行	13.4 m	5 × 7 間	面積	123.3 ㎡	坪数	37.4 坪
柱穴の形状	円形	柱間距離	梁	1.8 ～ 1.9 m	桁	1.8 ～ 2.0 m	主軸方位	N－68°－W	
出土遺物				付属施設	西側に張り出し、南側に庇				
建物の機能	主屋			構築時期					
備考	南東側に硬化面有り								



〔S：1/200〕

人物埴輪にみる地域相の分析と工人集団の復元

－神奈川県の人物埴輪を中心に－

新山　保和

1．はじめに

近年の埴輪研究は、円筒埴輪の分析が主流となっている。特に工具痕である刷毛目の同定に着目し、古墳出土埴輪を類型化する同行品論が盛んである（註１）。その一方で、形象埴輪、特に人物埴輪の研究はあまり進展が見受けられない。一時期、埴輪研究は、編年論（川西 1978、群馬県考古学談話会など 1985）や埴輪祭祀論（水野 1971、橋本 1980、）が主流であったが、今では円筒埴輪の刷毛目研究にその座を奪われている。筆者は以前、人物埴輪の造形、特に女子人物埴輪における髷の造形に着目し、女子人物埴輪の分類を試みたことがある（新山 2006）。人物埴輪の造形表現をつぶさに観察すると、同じ古墳から出土する同種の人物埴輪においても、その成形方法や造形表現に相違が見受けられる。特に髷や美豆良などの頭髪表現、耳朶・耳孔などの顔表現、耳飾りや冠帽などの装飾品表現など、細かい造形表現が個体ごとに異なるケースがある。また、同様に異なる種類の人物埴輪でも、同一成形方法や造形表現が認められるケースがある（註２）。拙稿では、先行研究の埴輪同工品論を整理し、女子人物埴輪の同工品同定方法に焦点をしぼり、女子人物埴輪の工人集団の復元を試みた。その結果、女子人物埴輪の髷成形は、工人の識別に有効であることが分かった。そこで本稿では、神奈川県出土の人物埴輪を対象として、工人集団の識別方法を念頭に置きながら、人物埴輪工人の系譜・系統について分析・整理を試みたい。

2．問題の所在

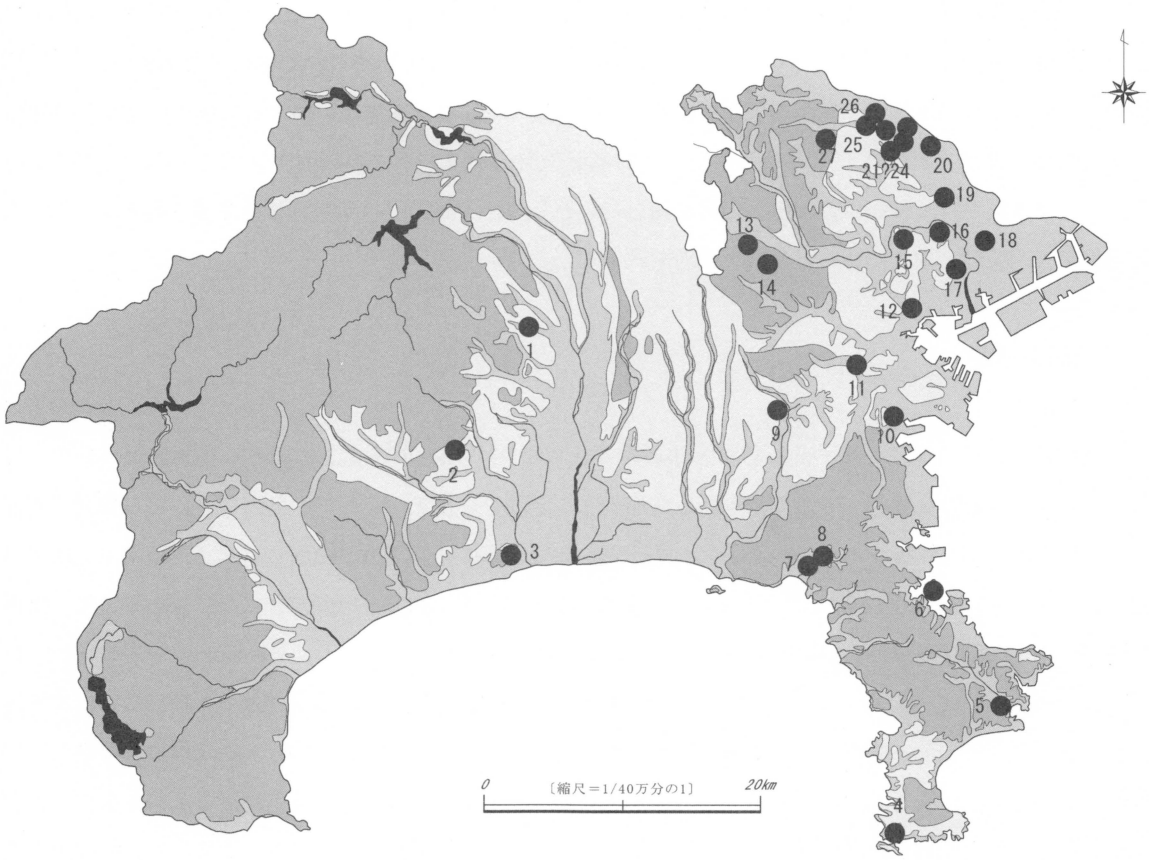
（１）研究小史

人物埴輪における同工品論の先駆けは、小林行雄氏（小林 1974）の研究と言える。小林氏は、城山１号墳出土の人物埴輪を観察し、そこに見られる共通表現や手法を「作風」として捉えている。この作風が共通する埴輪を同工品と指摘する。その後、この「作風」についての共通認識が浸透し、同一古墳内出土埴輪での分析（米田 1976、車崎 1988、右島 1992、小橋 2004）、遠距離にある古墳間での分析（杉山 1976、橋本 1980、今津 1988、若狭 1993、梅澤 1998）など、多くの研究がある。その中で、日高慎氏の一連の研究（日高 1995、1996、1997Ａ、1997Ｂ、1999）は秀逸と言える。日高氏は、髭や頭巾などの人物埴輪における共通表現を摘出し、その分布状況から埴輪製作集団の動向を明らかにする。日高氏は、人物埴輪に表現された各部位には、特定の埴輪工人集団が共有する共通表現がある点を指摘する。日高氏の指摘する共通表現は、頭巾や髭などの部位や脚部や足結などに見られ、その形態的な特徴を分類・精査することにより、抽出が可能であることを指摘する。筆者も日高氏の「共通表現」の認識には同意見であり、人物埴輪に表現された髷などの部位に注目することにより埴輪工人集団の動向が読み取れると考えている。また、稲村繁氏（稲村 1999）も、人物埴輪における各部位の形態的な分類を行い、同一表現の人物埴輪の類型化・編年作業を行うことで、人物埴輪工人集団の抽出や工人集団間の交流などを整理する。稲村氏の分類は詳細で、筆者の分類

項目と多くの点で共通する。そこで本稿では、神奈川県内の人物埴輪を対象として、主に髷の造形表現に注目することにより、古墳ごと、あるいは古墳群ごとの造形表現の比較検討を行い、人物埴輪工人集団の動向を探ってみたい。

（２）神奈川県の埴輪

神奈川県では、伝承なども含めると埴輪が出土している遺跡は65地点を数える。その中には実物が確認できない遺跡も含まれるので、実際に埴輪が出土した遺跡は57地点となる。内訳を見ると、古墳36、横穴墓６、埴輪窯１、その他（集落や性格不明な遺構）14を数える。その中で、人物埴輪の出土が知られている遺跡は25を数える（図１）。埴輪出土の遺跡分布を見ると、①県北東部の鶴見川と多摩川流域、②鎌倉市を含めた三浦半島内、③県内最大河川の相模川を有する県央部、３つの地域に分けられる。その中で、最も埴輪が集中するのは①県北東部の鶴見川と多摩川流域である。これは、対岸に位置する東京都大田区・世田谷区・狛江市内に東京都内の埴輪出土遺跡が集中するのと呼応しており、多摩川下流域から鶴見川流域にかけての地域が、神奈川県と東京都を股にかけた埴輪密集地帯であったと言える。この地域の埴輪は、５世紀後半の日吉矢上古墳を筆頭に埴輪が導入される。その後、６世紀に入り白井坂埴輪窯の操業が開始され、西福寺古墳



1　登山１号墳　2　登尾山古墳　3　坊池古墳　4　向ヶ崎古墳　5　蓼原古墳　6　吾妻崎遺跡　7　和田塚古墳
8　采女塚古墳　9　富士山古墳　10　室の木古墳　11　瀬戸ヶ谷古墳　12　浦島塚古墳　13　北門１号墳
14　三保杉沢古墳　15　大曽根古墳　16　駒岡瓢箪山古墳　17　諏訪坂古墳　18　山伏塚古墳　19　南加瀬横穴墓群
20　上丸子古墳　21　久本山古墳（旧大連寺裏出土）　22　久本未周知古墳　23　末長久保台遺跡　24　天神塚古墳
25　白井坂埴輪窯跡

第１図　神奈川県内人物埴輪出土古墳・遺跡分布図

などに供給されるようになる。6世紀前半の綱島古墳や西福寺古墳では人物埴輪を含む形象埴輪は見つかっていないが、白井坂埴輪窯跡や末長久保台遺跡では出土しているので、この時期から人物埴輪は製作されていたと考えられる。埴輪窯跡が見つかっているが、この地域で積極的に埴輪作りが展開する様相は見受けられない。6世紀後半になると、前半よりは埴輪を伴う古墳が増えていく。対岸の東京都では、5世紀前半の野毛大塚古墳で形象埴輪が出土しているので、5世紀の早い段階から埴輪が導入されていたと考えられる。その後、5世紀後半の浅間神社古墳で形象埴輪（人・動物など）が出土しているので、その後に続くものと見られる。②鎌倉市を含めた三浦半島内からは、海岸近くの低砂地から埴輪が出土している。低砂地は古墳

第1表　人物埴輪出土古墳

No.	古　墳　名	所　在　地	遺構種別	墳　形	埴　輪
1	登山1号墳	厚木市飯山	古墳	円墳（約20m）	円・人・馬・家・鳥
2	登尾山古墳	伊勢原市三ノ宮	古墳		円・人・家
3	坊池古墳	中郡大磯町高麗	古墳（低地）		円・人・形
4	向ヶ崎古墳	三浦市向ヶ崎町	古墳		円・人・馬
5	蓼原古墳	横須賀市神明町	古墳（低地）	帆立（28m）	円・人・馬・家
6	吾妻崎遺跡	横須賀市箱崎町	低地遺跡		人
7	和田塚古墳	鎌倉市由比が浜	古墳（低地）		円・人・馬
8	采女塚古墳	鎌倉市由比が浜	古墳（低地）		円・人・馬
9	富士山古墳	横浜市戸塚区上矢部町	古墳	円墳（約25.5m）	円・人・馬・鳥
10	室の木古墳	横浜市磯子区久木町	古墳（低地）	円墳（約30m）	人
11	瀬戸ヶ谷古墳	横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町	古墳	前後（約41m）	円・人・馬・家・器
12	浦島塚古墳	横浜市神奈川区七島町ほか	古墳		人
13	北門1号墳	横浜市緑区十日市場町	古墳	円墳（約20m）	人
14	三保杉沢古墳	横浜市緑区三保町	古墳	前後（約28m）	円・人・馬
15	大曽根古墳	横浜市北区大曽根	古墳		人・馬
16	駒岡瓢箪山古墳	横浜市鶴見区駒岡町	古墳	円墳？	円・人・馬
17	諏訪坂古墳	横浜市鶴見区諏訪坂付近	古墳	前後？	人・馬
18	山伏塚古墳	川崎市川崎区池田	古墳		人？
19	南加瀬横穴墓群	川崎市幸区南加瀬	横穴墓		人
20	上丸子古墳	川崎市中原区丸子通り	古墳（低地）	前後？	人
21	大連寺裏	川崎市高津区久本400付近			人
22	久本未周知古墳	川崎市高津区久本490付近	古墳	円墳（約20m）	人
23	末長久保台遺跡	川崎市高津区末長365付近	遺跡		円・人・馬
24	天神塚古墳	川崎市高津区諏訪	古墳（低地）	円墳？（約18m）	円・人・形
25	日向5号横穴墓	川崎市高津区下作延2012	横穴墓		人
26	日向古墳	川崎市高津区下作延2012	古墳	円墳（約20m）	人
27	白井坂埴輪窯跡	川崎市宮前区犬蔵	窯跡		円・人・馬・器・形

※前後…前方後円墳

築造に適さないことから、埴輪が出土する古墳は意図的に占地したと考えられる（稲村 1996)。海に近い立地を考えると、この地域における埴輪導入は、海を介した交流がうかがえる。③県内最大河川の相模川を有する県央部は、海岸付近から内陸部にまで広く分布しているが、築造された古墳の数と比較すると埴輪の出土が少ないが、県内でも最古の埴輪が出土していることから、この地域に最初に埴輪が導入されたと考えられる。

3．問題の所在

拙稿（新山 2006）で、女子人物埴輪を頭部成形と髷の成形・形状・貼付位置により分類を行ったが、ここで再度分類基準の整理を行ってみたい。

(1)頭部成形

頭部は、頭頂部の成形手法により開放型と閉塞型の２つに大別ができる。開放型は、頭部を成形するのに頭頂部を閉塞せずに開いているタイプを指す。閉塞型は、頭頂部まで粘土を輪積みして頭部を成形するタイプを指す（第５図)。閉塞型は、男子人物埴輪に一般的な成形である。開放型は、群馬県保渡田Ⅶ遺跡の人物埴輪や福島県原山1号墳、東京都亀塚古墳出土の人物埴輪などに見られる（註３)。開放型は、その開放度合により平行開放タイプ（第２図）とドーム開放タイプ（第３・４図）の２つに細別が可能である（註４)。平行開放タイプ（第２図）とドーム開放タイプの最大の違いは、額部分を成形するのに内側に輪積みを行うかどうかである。そのまま連続して輪積み成形するのが平行開放タイプ、内側に絞って額部分を成形するのがドーム開放タイプである。また、ドーム開放タイプも頭頂部の円孔の大きさにより２つに細別が可能である。①途中まで粘土紐で積み上げるものと、②髷で孔をふさぐ直前段階まで粘土紐を積み上げるものがある。

(2)髷の成形

髷の表現には、粘土帯で成形して表現する髷と線刻で表現する髷がある。前者は、「つぶし島田」と呼称される平面的な板作りと、立体的な造形の折り返し作りの２つに大別できる。平面的な板作りが一般的で、神奈川県の事例もほとんどが板作りである。折り返し作り技法には、関東では、群馬県綿貫観音山古墳の人物埴輪（第４図－２)、埼玉県小前田８・９・10号墳、東京都喜多見陣屋２号墳などが挙げられる。この立体的な造形は、「畿内的人物埴輪」の特徴の一つであることが指摘されている（永井 1998）が、県下では見つかっていない。線刻で表現する事例は、久保山古墳出土のものが挙げられる（第８図)。

(3)髷の貼付位置

粘土帯を成形して作る髷は、頭部と別作りで造られている。頭部に粘土板を填込んで成形する。頭部に付ける位置で頭頂部（第２・３・５図－２)、斜位（第４図)、後頭部（第５図－１）３つに分類が可能である。

(4)髷の形状

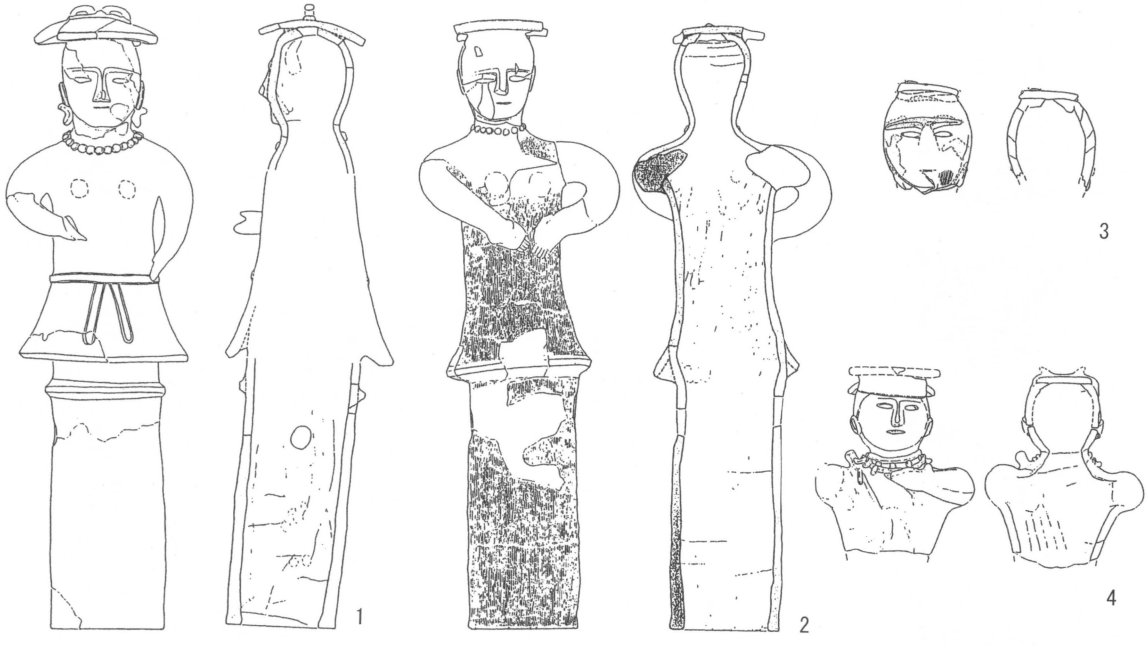
島田髷の形状は、角形と分銅形の２種類に大別した杉山氏の分類（杉山 1983)、その分類基準に側面の要素を組み入れて５つに分けた日高氏の分類（日高 1995)、髷の平面と側面の形態を組み合わせて３つに大別し、それを16に細分する稲村氏の分類（稲村 1999）がある。拙稿では、杉山氏の分類を基本的に踏襲して、分銅形・鼓形・長方形の３つに大別した。神奈川県からは、その３種類の髷が出土している（第２表参照)。

4．事例分析

本稿で分析対象は女子人物埴輪で、主に頭部が観察できる人物埴輪を対象とした。

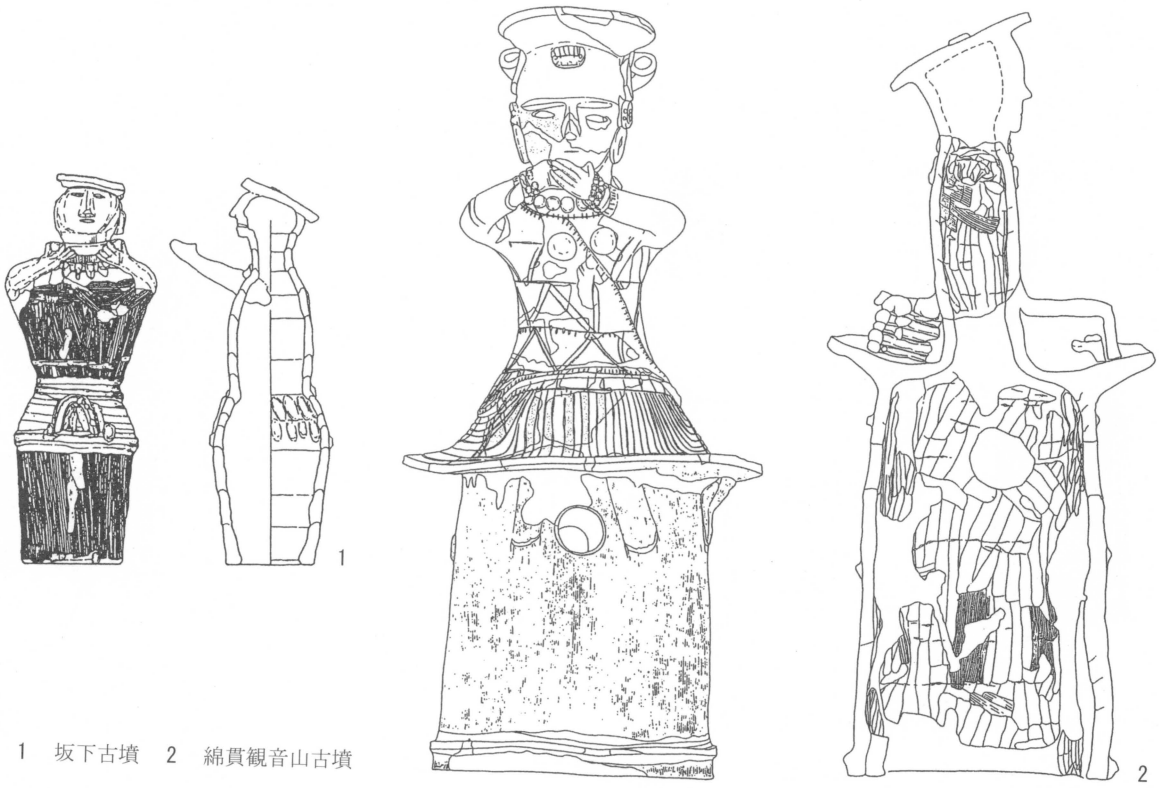
1　八幡地区　2～3　世良田・諏訪下３号墳

第２図　頭部成形（平行開放タイプ）＋髷（水平）［1/10］



1～2　神保下條２号墳　3　高崎情報団地遺跡23号墳　4　保渡田八幡塚古墳

第３図　頭部成形（ドーム開放タイプ）＋髷（水平）［1/10］



1　坂下古墳　2　綿貫観音山古墳

第4図　頭部成形（ドーム開放タイプ）＋髷（斜位）［1/10］

1　渕ノ上古墳　2　世良田・諏訪下30号墳

第5図　頭部成形（閉塞型）＋髷（平行・水平）［1/10］

1～7　登山1号墳　8～10　蓼原古墳

第6図　神奈川県出土人物埴輪（1）［1/10］

（1）登山1号墳（第6図）

登山1号墳からは、形象埴輪が多数出土している。その中で、分析に耐えられる女子人物埴輪は3体出土している。第6図－1は、長方形つぶし島田で、斜位に貼り付けている。頭部は、変形閉塞タイプである。頭頂部は長さ5㎝、幅0.7㎝ほどにわたって切り込みを入れ、その後に髷を貼付する（写真1）。この技法は、他の人物埴輪には見られない特徴である。一度閉塞した後に再切開をして髷を貼付しており、かなり手間のかかる製作手法と言える（註5）。髷は中央部で髪の束ねを表現する。ハケメを見ると、粗いハケメと細かいハケメの2種類で調整されている。顔の造形が平坦である。第6図－2は、長方形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は閉塞型で、絞ったように頭頂部を閉塞する（写真2）。顔が頭部より小さく、顔に面を貼り付けるように成形しており、盛り上がっている印象を受ける。髷は中央部で髪の束ねを表現する。第6図－3は、島田髷が欠損しているが、斜位に貼付する。頭部成形は不明である。

（2）向ヶ崎古墳（神奈川県教委 1970）

昭和33年の城ヶ島大橋の工事中に形象埴輪が出土している。その中に女子半身像がある。髷は鼓型つぶし島田で、斜位に貼り付けている。頭部は、平行開放タイプである。向ヶ崎古墳出土埴輪は、埼玉県北東部（埼玉県鴻巣市生出塚埴輪製作遺跡）の埴輪工人の影響が指摘されている（稲村1992）。

（3）蓼原古墳

頭部が分かる女子人物埴輪は、県立博物館に所蔵されている「まが玉をつけた女」（神奈川県教委 1970）が挙げられる。上半身のみであるが、残りは良好である。髷は、鼓型つぶし島田で、頭頂部に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。その他に髷のみが出土している。鼓型つぶし島田（第6図－9）で、中央に髪飾りを表現する。剥離面を観察する限りは、「まが玉をつけた女」と同様に頭頂部に貼り付けるタイプで、頭部成形は平行開放タイプと言える。その他にも、人物埴輪が多数出土している。頭部成形の分かる人物埴輪を観察すると、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていき、最後に粘土で閉塞する。これらの人物埴輪は、全体的に小振りな造形から、群馬の埴輪工人との関連が指摘されている（稲村1992）。

（4）采女塚古墳（神奈川県教委 1970）

明治20年の道路工事に伴って多くの形象埴輪が出土しているが、多くは散逸してしまい、一部が京都大学と横浜国立大学に所蔵されている。京都大学所蔵の中にまが玉をつけた女子人物埴輪がある。髷は鼓型つぶし島田で、頭頂部に貼付する。頭部は、ドーム開放タイプである。これらの人物埴輪は、蓼原古墳の埴輪との類似性が指摘されている（稲村 1992）。頭部成形がドーム開放タイプであり、髷の形状が鼓形を呈することから、同一工人ではないが、製作技術が同一系譜と考えられる。

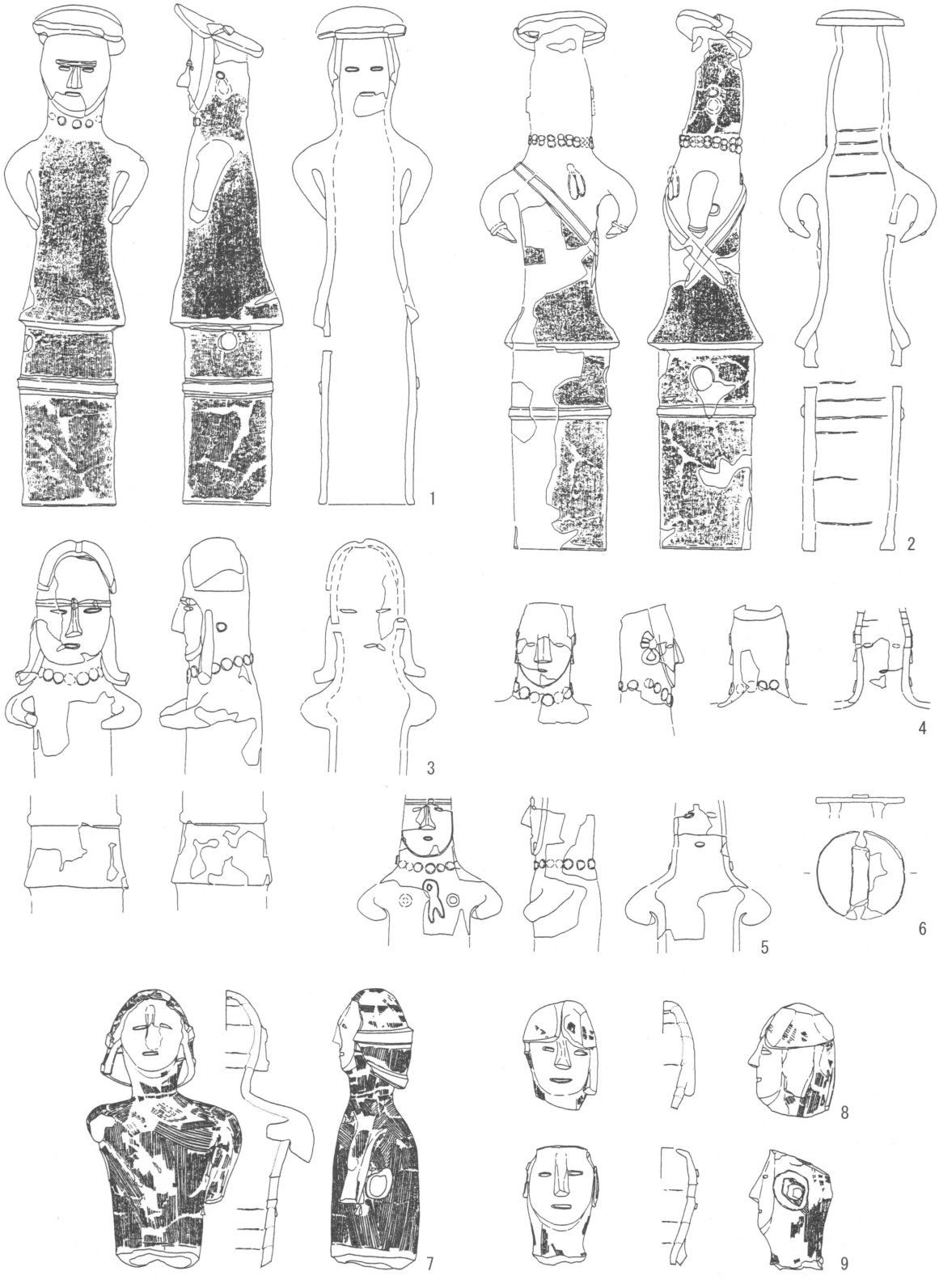
（5）北門1号墳（滝澤 2007）

北門1号墳からは、人物埴輪が12点確認されている。その中で、分析に耐えられる資料は2点ある。

第7図－1は、分銅形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。第7図－2は、分銅形つぶし島田で、斜位に貼付する。頭部は、平行開放タイプである。その他に、髷のみも出土している。髷の形状は分銅形つぶし島田（第7図－6）である。本古墳出土の埴輪は、その形状や胎土から埼玉県生出塚埴輪窯との関係が指摘されている（滝澤 2007）。

（6）上丸子古墳（浜田 1996）

上丸子古墳からは、5体の人物埴輪が報告されているが、うち2体の人物埴輪が写真のみでしか確認でき



1～6　北門1号墳　7～9　上丸子古墳

第7図　神奈川県出土人物埴輪（2）［1/10］

ない（浜田 1996）。この2体は、所在が不明である。所在が確認されている3体の人物埴輪の中に、1体女子人物埴輪がある。第7図－9は、島田髷が欠損している。髷は斜位に貼付する。頭頂部は平坦で、頭部はドーム開放型である。その他に武人埴輪と人物埴輪が出土している。これらは両方とも頭部成形は閉塞型である。頭部成形を見ると、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていき、最後に粘土で閉塞するタイプで、両方とも同様な成形を施す。

（7）久本山古墳（旧大連寺裏出土）（浜田 1991）

昭和8年に旧大連寺の裏山から人物埴輪が出土している。頭部は閉塞型で、髷は、頭頂部に線刻されている（第8図－1）。線刻された髷表現を用いるのは、神奈川県内の埴輪では久本山古墳出土の人物埴輪のみである（註6）。後頭部にスカシ孔があり、その周辺には粘土が剥離した痕跡が認められる。何かブリッヂ状に張り付いていたものと見られる。頭部成形は、頭頂部に近付くに従い狭めてドーム形に粘土を輪積みしていき、最後に頭頂部を粘土で閉塞する。

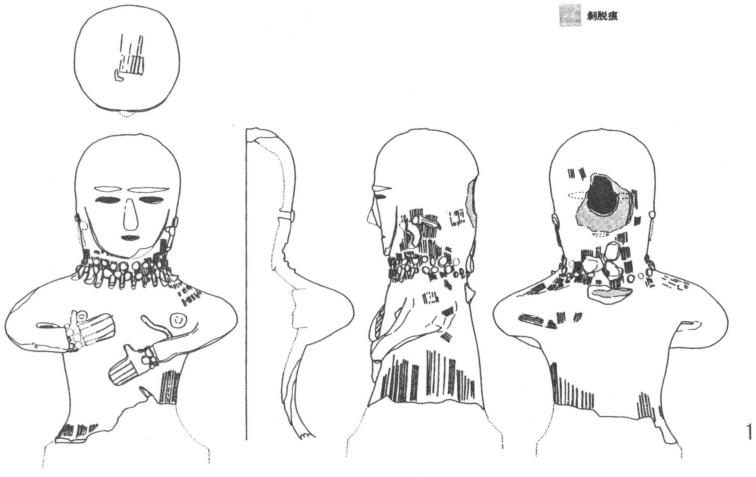
第2表　人物埴輪分析表

No.	古　墳　名	頭部成形	髷成形	髷貼付位置	髷の形状	時期
第6図－1	登山1号墳	変形閉塞タイプ	板作り	斜位	長方形	6世紀前半
第6図－2	登山1号墳	閉塞型	板作り	斜位	長方形	6世紀前半
第6図－3	登山1号墳		板作り	頭頂部	長方形	6世紀前半
	向ヶ崎古墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	鼓形	6世紀後半
第6図－9	蓼原古墳	平行開放タイプ	板作り	頭頂部	鼓形	6世紀中葉
第7図－1	北門1号墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	分銅形	6世紀末
第7図－2	北門1号墳	平行開放タイプ	板作り	斜位	分銅形	6世紀末
第7図－6	北門1号墳		板作り		分銅形	6世紀末
	采女塚古墳	ドーム開放タイプ	板作り	頭頂部	鼓形	6世紀前葉
第7図－1	上丸子古墳	ドーム開放タイプ	板作り	斜位		6世紀後半
第8図－1	久本山古墳	閉塞型	線刻	頭頂部		6世紀後半

5．収束

今回神奈川県出土の女子人物埴輪を対象に、主に髷に注目して分析を試みてきた。以下、分類結果を整理して、神奈川県における埴輪製作の技術的な系譜について述べていく。神奈川県における埴輪製作の系譜については、稲村氏が精力的に研究している（稲村 1992・1996）。傾聴すべき見解が多く、筆者も同意見な部分が多い。そこで、稲村氏の研究成果を踏襲しつつ、筆者の見解を述べてみたい。稲村氏は、神奈川県の埴輪製作は、独自の専門的な埴輪製作工人が成立せず、主に他地域に埴輪製作を依頼していることを指摘する。6世紀前半代は埼玉県北東部系、その後6世紀中葉頃になると群馬系の埴輪が出現し、6世紀後半になると、埼玉県北東部を中心に埼玉県西部系も加わり、三地域の埴輪工人が製作に関与したことを指摘する。はたして、そうなのだろうか。以下、比較資料の多い登山1号墳の人物埴輪から検証してみたい（註7）。

稲村氏は、登山1号墳・向ヶ崎古墳は、埼玉県北東部（鴻巣市生出塚埴輪製作遺跡）の工人の影響（稲村 1996）を受けている点を指摘する。拠点的な埴輪窯を継続して持たない神奈川県では、他地域の埴輪製



1　久本山古墳（旧大連寺裏出土）

第8図　神奈川県出土人物埴輪（3）［1/10］

1　富士見塚1号墳　2　浅間神社古墳　3　登山1号墳

第9図　類似する埴輪［1/5］

作集団に依頼する形で埴輪を導入したと考えられる。特に円筒埴輪より高度な技術が必要な人物埴輪を製作するには、技術指導は欠かせない。登山１号墳の埴輪を見ると、胎土の色調が赤褐色の埴輪と黄白土の埴輪に分けられる。製作技術を比較すると、胎土の色調が黄白色を呈する埴輪には武人埴輪や坊主頭の人物埴輪などがあり、前者の埴輪と比較して丁寧な製作手法がうかがえる。この点から、埴輪製作には少なくとも２つの埴輪製作集団が関わっていたものと考えられる。

登山１号墳出土の女子人物埴輪を観察すると、３体ともに共通点と相違点が指摘できる。髷の形状と貼付位置は共通するが、頭部成形と顔の造形は不統一である（註８）。ここで挙げる女子人物埴輪の胎土は、すべて赤褐色を呈しており、黄白色を呈する埴輪群とは異なる。では、どの技法が工人ないしは工人集団の特定に繋がるのだろうか。

第３図－１の女子人物埴輪は、顔が頭部より小さく、顔に粘土の面を貼付するように成形しており、極めて特徴的な造りと言える。同様な人物埴輪は、茨城県富士見塚１号墳（第９図－１）や同県結城郡石下町神子女、浅間神社古墳（浅間神社所蔵人物埴輪）（第９図－２）などから出土している。富士見塚古墳と浅間神社古墳、登山１号墳の顔に厚みを持たせる人物埴輪の共通点は、顔の造形だけではない。頭部成形もまた共通する。これらはすべて、頭頂部に円孔があいており、ドーム開放タイプの製作技法を用いて製作されている。ドーム開放タイプは輪積みの程度により細別することが可能である。これらの人物埴輪は、円孔を残すまで輪積みしており、「閉塞タイプ」に近い「ドーム開放タイプ」と言える。この点を考慮すると、頭部成形と顔の造形には相関関係が認められる。これらの人物埴輪は、広範囲に分布が広がる点、胎土などに共通性が見いだせない点から、今津氏（今津 1992）が指摘するように、工人の移動を想定するべきだと考えられる（註９）。また、多摩川対岸の東京都世田谷区喜多見陣屋２号墳・慶元寺１号墳の埴輪は、埼玉県西部の埴輪工人との関係が深いことが指摘されている（稲村 1996）。この埼玉西部の埴輪工人は、髷の立体的な構造から畿内の埴輪工人の技術的な系譜・指導を受けていることがうかがえる。このような状況を鑑みると、６世紀前半の埴輪製作は、埴輪製作地が独立して埴輪生産や技術を向上していったのではなく、製作手法の情報が各地の埴輪製作地にオープンに行き渡っていた可能性が高いと言える。

６．おわりに

人物埴輪の工人ないしは工人集団は、城山１号墳などの事例（小林 1974）で指摘されているように、同じモチーフの人物埴輪のみを製作するのではなく、様々なモチーフの人物埴輪を製作している。同じ埴輪工人ないしは工人集団の埴輪は、共通の技術を用いて製作されるので、類似性が認められる。この「共通技術」は、埴輪工人ないしは埴輪工人集団が保有する技術であり、モチーフの表面的な模倣では決して真似の出来ないものである。この点が、日高氏の指摘する「他人のそら似」と同一工人ないしは同一工人集団の埴輪とを識別するポイントと言える。拙稿では、「共通表現」が工人ないしは工人集団を探る手がかりである点を指摘した。本稿では、登山１号墳の人物埴輪を手がかりにして、この「共通技術」が工人ないしは工人集団を探る手がかりになる点を明らかにした。本来ならば、複数の具体的な埴輪工人の類型化まで行いたかったが、本稿は神奈川県出土の女子人物埴輪を対象にしており、比較検討する資料数が少なく、大雑把な議論になってしまった。こ寛恕願いたい。今後は、本稿で取り上げた成形手法と顔の造形などの関連性について整理し、関東を中心とした人物埴輪の類型化を推し進めるとともに、埴輪工人同士の技術的な相関関係・交流など、地域に根ざした動向について考えていきたい。

本稿提出にあたっては、研究紀要編集担当の渡辺外氏に様々な点で御配慮を賜った。資料の実見については、横須賀市人文博物館稲村繁氏、厚木市教育委員会佐藤健二氏、川崎市市民ミュージアム浜田晋介氏（現日本大学）らに格別のご配慮を賜った。また執筆にあたり、多くの方々より御指導・御教示をいただいた。文末ではあるが、皆様の御名前を記すことで謝意を表したい。

稲村繁、柏木善治、佐藤健二、新開基史、浜田晋介、渡辺外（敬称略・五十音順）。

註

（註１）刷毛目に注目した同工品論は、1973年に活発化した（吉田 1973、川西 1973、轟 1973）。その後、轟氏の研究を継承する形で犬木氏が方法論を整備し（犬木 1995・2005）、城倉氏が継承・発展させている（城倉 2007・2009）。

（註２）山倉１号墳出土の人物埴輪13体について、作風が一致していることから同一工人の製作品であることを指摘する（米田 1976）。

（註３）上矢部町富士山古墳の人物埴輪（盾持人）は頭部開放タイプに見えるが、頭部成形が円筒埴輪の口縁部と同じであり、ここで指摘する頭部開放タイプとは種類が異なる。

（註４）既稿（新山 2006）では、平行開放型とドーム開放型と表記したが、本稿では平行開放タイプとドーム開放タイプと表記する。

（註５）この技法に最も近いのは、盾形埴輪などの形象埴輪に使う再切開技法が挙げられる。

（註６）柴又八幡神社古墳から後頭部に円孔が穿たれた人物埴輪が出土している（葛飾区郷土と天文の博物館 2009）。

（註７）北門１号墳からも多数出土しているが、この埴輪の系譜についてはすでに生出塚埴輪窯跡を中心とした研究（山崎 2004）があるので、今回は触れないこととする。

（註８）橋本氏は、栃木県葉鹿熊野古墳の「二人童女」と綿貫観音山古墳の「三人童女」の共通性に着目し、この２つの人物埴輪が同一工人ないしは同一工人集団の製作した埴輪であることを指摘している（橋本 1980）。その一方で、橋本氏は相違点も複数挙げているが、共通点と相違点の判断基準を述べていない。

（註９）福島県原山１号墳と東京都亀塚古墳出土の「冠をかぶった男子」人物埴輪は、造形手法から同一工人集団が製作したことが指摘されている（今津 1988）。これらの人物埴輪と類似する資料が、群馬県勢多郡粕川村からも出土しており（平野 1993）、古墳間の距離が離れすぎているので、これらは埴輪の流通ではなく工人の系譜と関係が深いと考えられる。

引用・参考文献

今津節生　1988 「東北地方における埴輪の年代と系譜」『企画展　東国のはにわ』福島県立博物館

今津節生　1992 『登山1号墳出土遺物調査報告書』厚木市教育委員会

稲村繁　1992 「三浦半島の埴輪（Ⅰ）」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』№37

稲村繁　1996 「三浦半島の埴輪（Ⅱ）」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』№41

稲村繁　1999 『人物埴輪の研究』同成社

犬木努　1995 「下総型埴輪基礎考－埴輪同工品論序説－」『埴輪研究会会誌』第１号　埴輪研究会

犬木努　2005 「下総型埴輪再論」『埴輪研究会会誌』第９号　埴輪研究会

植山英史　1996 「神奈川県の埴輪出土古墳について（１）」『神奈川考古』第32号　神奈川考古同人会

梅澤重昭　1998 「（６）観音山古墳の埴輪生産地」『綿貫観音山古墳Ⅰ墳丘・埴輪編』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業

団発掘調査報告書第242集　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

大塚真弘・渡部律子　1987 「蓼原」『横須賀市文化財調査報告書』第13集　横須賀市教育委員会

葛飾区郷土と天文の博物館　2009 『柴又神社古墳Ⅶ (第1分冊古墳編)』

神奈川県教育委員会　1970 『かながわの埴輪』

川西宏幸　1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号

群馬県考古学談話会など　1985 『埴輪の変遷－普遍性と地域性－』第6回三県シンポジウム

車崎正彦　1988 「埴輪の作者」『早大所沢文化財調査室　月報』No.34

小橋健司　2004 「山倉1号墳出土埴輪について」『市原市山倉古墳群』市原市埋蔵文化財センター

小林行雄　1972 『日本陶磁大系3　埴輪』平凡社

杉山晋作　1983 「人物埴輪頭部における装身表現」『季刊考古学』5　雄山閣

杉山晋作　1976 「房総の埴輪 (一) －九十九里地域における人物埴輪の二相－」『古代』59・60合併号

城倉正祥　2007 「生出塚埴輪窯の基礎的研究」『埴輪研究会会誌』第11号　埴輪研究会

城倉正祥　2009 「埴輪生産と地域社会」学生社

滝澤亮　2007 『北門古墳群Ⅰ』 盤古堂

轟俊二郎　1973 『埴輪研究』第1冊

永井正浩　1998 「近畿地方における巫女形埴輪について」『網干善教先生古希記念考古学論集』

新山保和　2006 「人物埴輪の髷の造形表現について」『群馬県内の人物埴輪』 群馬県古墳時代研究会

浜田晋介　1991 「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第4集

浜田晋介　1996 「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第9集

浜田晋介　2009 「白井坂埴輪窯跡」『川崎市市民ミュージアム考古学叢書』6　川崎市市民ミュージアム

橋本博文　1980 「埴輪祭式論－人物埴輪出現後の埴輪配列をめぐって」『塚廻り古墳群』 群馬県教育委員会

日高慎　1995 「人物埴輪の共通表現とその背景」『筑波大学先史学・考古学研究』6

日高慎　1996 「人物埴輪表現の地域性－双脚人物像の脚部の検討－」『考古学雑渉・西野元先生退官記念論文集』
西野元先生退官記念会

日高慎　1997A 「埴輪からみた交流と地域性」『人物埴輪の時代』　葛飾区郷土と天文の博物館

日高慎　1997B 「埴輪にみる地域性」『地域史フォーラム　6世紀における房総と武蔵の交流と地域性』
葛飾区郷土と天文の博物館

日高慎　1999 「人物埴輪の共通表現とその背景」『埴輪研究会誌』3

平野進一　1993 『第46回企画展　はにわ－秘められた古代の祭祀－』群馬県立歴史博物館

右島和夫　1992 「Ⅳ考察　1．出土埴輪の特徴とその意義」『神保下條遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘
調査報告書第137集　(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

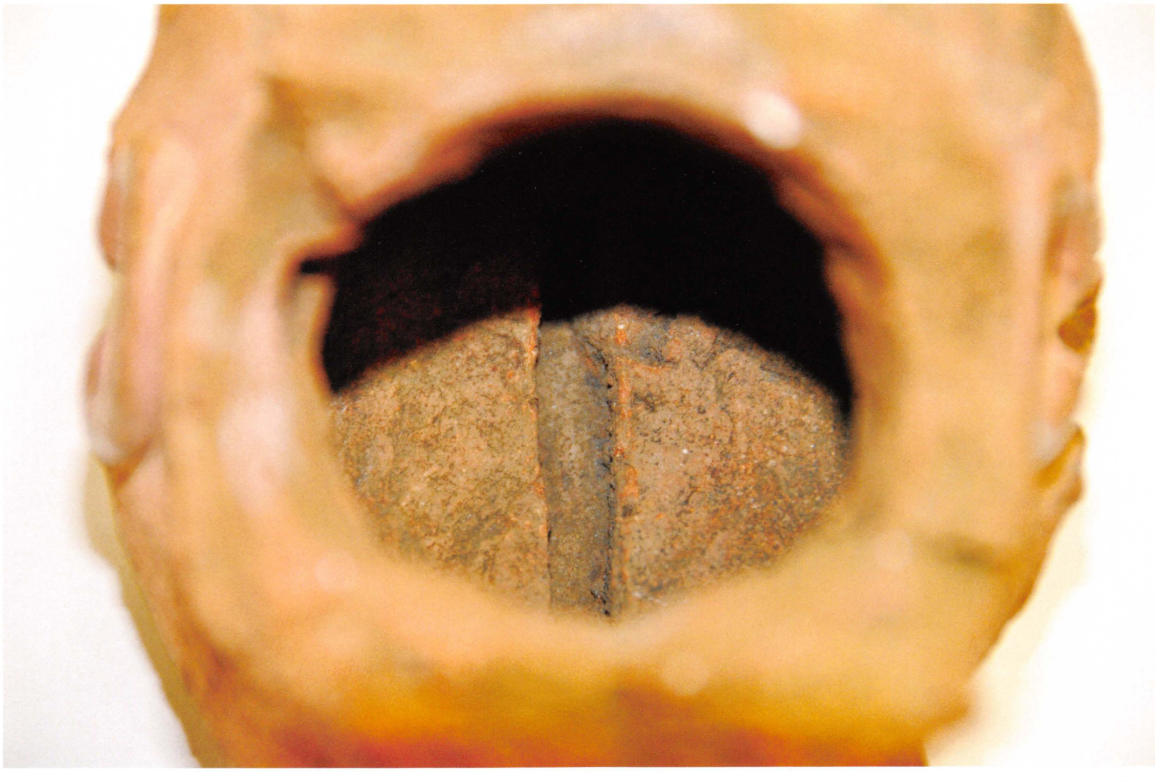
水野正好　1971 「埴輪芸能論」『古代の日本』第2巻　角川書店

山崎武　2004 「生出塚埴輪窯の生産と供給」『市原市山倉古墳群』市原市文化財センター

吉田恵二　1973 「埴輪生産の復元」『考古学研究』第19巻第3号

米田耕之助　1976 「上総山倉1号墳の人物埴輪」『古代』第59・60合併号

正面



内部

写真 1　登山 1 号墳　人物埴輪

正面

内部

写真 2　登山 1 号墳　人物埴輪

研究紀要16

かながわの考古学

発　行　日　2011(平成23) 年3月31日
発　　行　財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
tel：(045)-252-8689　fax：045-262-8162
http://kaf@kaf.or.jp
印　　刷　野崎印刷紙器株式会社

KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.16

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies: Paleolithic Artifacts in Kanagawa Prefecture Distribution (4) Layer B1～L2 1

Project Team for Jômon Period Studies: Change of the Jômon Culture in Kanagawa Prefecture (Ⅷ): An Example in the fiast part of Late Period. An Aspect of the Horinouti-Type Pottery Period, Part 2 13

Project Team for Yayoi Period Studies: The Corpus of Yayoi Era Metaltool in Kanagawa Prefecture (3) 25

Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (8): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note" 37

Project Team for Nara-Heian Period Studies: Hardware in the Nara and Heian Periods in Kanagawa Prefecture: The Corpus of iron manufacturing artifacts 51

Project Team for Medieval Age Studies: Castle Site in the Medieval Age in Kanagawa Prefecture (3) 65

Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (8) 73

Niiyama Yasukazu: The Analysis of the Aspects of Region and Reconstruction of the Workman Groups from the view point of the *Jinbutsu Haniwa*: with a central focus on *Jinbutsu Haniwa* in the Kanagawa Prefecture 85

March, 2011

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan